第廿三輯第十一號　昭和十五年十一月一日

大正六年九月十九日第三種郵便物認可・昭和十五年十月廿五日印刷納本・昭和十五年十一月一日發行・毎月一回一日發行・

建築と社會

十一月號　掲載内容

巻頭言・都市の武裝は焦眉の急務……池田　宏

建築用物資の配給統制に就いて……玉置豊次郎

無筋コンクリート造建築設計例……災害强度委員會

不規則ラーメンの反復試案解法に就いて……中澤　洵

新東亞を建築す……大須賀巖

誌上講座　防空建築規則その他、建築倉庫篇、小池の計を繼いで

小池君の死に遭ひて、新建築圖、會報、會告

日本建築協會

——營業課目——

（同系各會社製品）

三星印砂付便利瓦及ルーフイング・フエルト　田島應用化工株式會社
特許ギルソイド防水工事責任施工　三星產業株式會社
各種アスファルト應用加工製品　日本岩綿工業株式會社
石綿代用・各種三星岩綿製品　三星セメント工業株式會社
三星サイドリユーム施工（床舖材）　讓宮城アスファルト研究所



大阪田島應用化工株式會社

營業所　大阪市北區中之島五丁目三〇

電話　土佐堀（一三二三番／五六八二番／七六二一番）

倉庫用電話　櫻川一七二五番

受信登錄オウサカタシマオウヨウ

日本建築協會發行

昭和15年8月發行
菊裁判・600餘頁

建築關係法規抄纂（大阪府）

●本書は別册市街地建築物法令の姉妹編なり

集錄範圍— 本書に於ては建築關係法規より大約下記標準により關係條文を抄出せり

1、建築物の位置、構造、設備、敷地、接する道路等に關係の條文
2、右に關係ある事項の定義を規定せる條文
3、規則適用地の區域及適用物の範圍を規定せる條文
4、建築に關係する手續關係を規定せる條文

主なる内容項目

工事關係法規
工場關係法規
御陵墓及形像關係法規
銃砲火藥關係法規
危險物品關係法規
壓縮瓦斯及液化瓦斯關係法規
廣告物關係法規
社寺關係法規
貸座敷關係法規
料理屋飲食店關係法規
興業場關係法規
遊技場關係法規
游泳場關係法規
射倖關係法規
宿屋及湯屋關係法規
市場及勸商場關係法規
道路關係法規
自動車關係法規
河川關係法規
防疫關係法規
診療所關係法規
精神病者關係法規
飲料水關係法規
氷雪關係法規
牛乳關係法規
理髮關係法規
汚物關係法規
屑物關係法規
禽畜關係法規
屠場及死畜關係法規
家畜市場及肥料關係法規
墓地關係法規
雜關係法規

その他時局建築關係法規の殆ど全部を掲載す

☆ **定價・金貳圓貳拾錢**・送料拾貳錢 ☆

但協會員一册ニ限リ　特價　金貳圓

日本建築協會

大阪市北區朝日ビル4階
振替口座大阪39975

賣捌　丸善本支店
柳々堂書店

會　　告

會勢幹事會主催11月見學豫告

（名士庭園見學）

1. 時……11月15日（金）午後1時30分集合
1. 所……京　都　市　南　禪　寺
1. 見學先……稻　畑　邸　庭　園（決　定）
　　市　田　邸　庭　園（交涉中）
1. 交通費……自　辨

☆追而此件に限り近日中に詳細別便を以つて御通知致します。

☆紀元二千六百年記念☆

建築文化展覽會開催豫告

1. 時……11月23日より28日迄6日間（決定）
1. 會　場……大阪市日本橋・松坂屋ホール（決定）
1. 展示內容……

（イ）宮內省御貸下品
御陵、大嘗宮殿、正倉院、京都御所、桂離宮、等38點御寫眞

（ロ）アパートメント・ハウス其他、懸賞當選圖案

（ハ）讀賣新聞社パラシユート塔、神社、多寶塔、新設生駒航空塔、橿原綜合運動場、その他模型數種

（ニ）紀元二千六百年奉祝式典式場その他各種寫眞、參考圖面等數種

★以上の詳細は計畫確定次第改めて通知又は他の方法を以つて廣告いたしますから、御含み置きの上開期中は友人知己を御誘ひ合せ多數御觀覽下さる樣お願ひ致します。

主催　建　築　學　會
　　日　本　建　築　協　會

巻頭言

都市の武装は焦眉の急務

昭和の維新、國內新體制の創定に際し、國外日獨伊三國同盟成る。我國生存權の確保は、新東亞の建設と共に、全世界の新秩序、全人類眞幸福に寄與せむとするもの、即ち高度國防國家の完成は、國民擧つて、一億一心、八紘一宇を理念とする、天業翼賛の臣道實踐に在りとす。

飜つて、眼を地球表上の事實に放つて、之を徵せむか、東に重慶に對する空襲、西にロンドンに對する空爆、又ベルリンに對する空襲、日に夜を續いで、其の効果の偉大なると慘狀の劇烈なるを、詳に報ぜらるゝを耳にす。東亞の佛印に次ぐ、蘭印のあたり、密雲漠々、山雨將に到らむとして、風樓に滿つるの慨なしとせむや。

高度國防國家の完遂には、あらゆる方面に於て、所謂總力戰を考慮、措置するの必要あるは、敢て論を俟たざるも、尙ほ進んで具體的施設に就いて考察せんか、空襲下に於けるロンドンとベルリンとの情態に、思を寄するとき、我國の現狀果して如何。吾人は慄然として肌に粟を生ぜざるを得ざるの實感、鬼氣愁々として迫り來るを覺ゆ。

近き實例は、大正十二年九月一日に於ける、關東大震火災の東都に徵するを得べし。一朝有事に當り、木造都市の蒙るべき、可能性に富む災害を如何せむとするか。近年防空訓練の漸次進歩せるの跡を見ざるにあらざるも、又木造家屋の防火改修も、日に月に其の歩武を進めつゝあるも、これ果して完全なる施設なりとして、心を安んじ得るや否や。

我國重要都市の防空施設、都市武裝の焦眉の急務中の急務なるは彰々乎として既に明かなり。しかも空襲時に於ける木造都市の災害は、一炬にして都市全部を燒土化するの虞あると共に、小兒婦人の阿鼻叫喚の齎すべき人心の不安と焦慮は、延いて思想的に一大激打を抱かむとする方面に關し、果して精神的訓教の點に於て遺憾の恨みなきか。所謂銃後の守、牢固として硬しとなし得るの自信ありや否や。これ杞人の憂として閑過して可なりや敢て問ふ。

防空施設としての從來の各種のもの、皆夫々特色あり、特長ありて、一として其の不可なきを見るも、百尺竿頭更に一歩を進めて、根本的に考慮を廻らし、都市民の逃難設備、防空壕の充分なる實施、之に關する訓練、防空槽の完備、尙ほ進んで、積極的に都市中樞部に於ける木造家屋の徹去、防火地區に於ける建築物耐火性の高度化等の重要性は、軍事施設及重工業施設に比して、決して劣らざるものあるを認識し、速に之が對策を講じて、建築材料の配給制を是正するの必要、切實なるものあるを强調して止まざる所以なり。

（昭和15・10・25・靈峯生）

建築と社會

第23輯　第11號　昭和15年11月發行

十一月號

目　次

卷頭言・都市の武裝は焦眉の急務……池田　實

建築物資配給統制に就て……玉置豊次郎（1）

無筋コンクリート造建物設計例（第1報）……災害强度委員會（14）

不規則ラーメン反復試索解法に就て……中澤　洵（57）

新東亞を建築す……大須賀　巖（63）

會員各位に告ぐ……材料委員會（68）

☆紫烟室☆

防空建築規則その他……林　豪藏（70）

建築倉庫業……佐藤信仁（71）

小池の計を聽いて……小泉嘉四郎（72）

小池君の死に遭ひて……奈良幸次郎（72）

建築材料陳列場出品者一覽表……（76）

☆新建築欄☆

日本：市立北市民病院（大阪）

外國：（アメリカ）コネテイカツト州スタンフオードに建つ住宅

（イタリヤ）1942年のローマ萬國博覽會・同新停車場

會　報……（73）

建築用物資の配給統制に就て

玉置豊次郎※

今日の建築に使用されてゐる物資の種類は非常に多岐に渉つてゐる。

建築技術が進歩するに従つて、各種の構造が發達した。そして一つの新らしい工法が工夫されるに従つて、新らしい物資がそれに伴つて要求される様になつた。だから建築用物資は年々その種類が增加する一方であつた。建築以外の他の工業で建築程に多種多様の物資を消費するものは先づ無い様である。造船が比較的多くの種類の物資を使用する。尤も船は水に浮く建築であるから、造船と建築とは親類筋の様なものであるが、それにしても造船は到底建築程に各種の物資を消費しない。兎も角建築用物資の種類は何千何萬と數へることが出來る程多いものである。

故に事變前には日本の工業で、直接間接に建築材料の製造に當つてゐたものゝ數は非常に多い、造船、車輛、肥料、食料品等といつた極く一部の工場を除くと、殆んど全部が直接間接に建築用物資の製造に關係があると云へる。

一方建築用物資は實に種類が多いのみならず、その消費する數量が又莫大なものである。建築用物資程大量に製造されるものは他には珍らしい。

外國電報によると、紐育では大建築が澤山に建つと云ふ噂が擴がると、ウオール街の株の値が跳ね上つて、建築の數が減じそうだと云ふと、株の値が下つて來ると云ふ。即ち建築の興亡が實に財界のバロメーターをなしてゐる。つまり建築は各種の物資の大なる消費者であるから、紐育の様に建築の盛んな所では、確かに建築が景氣を左右するのは當然である。

我々の生活にしてみても、我々の月々の收入は親子數人の食費を賄ふことが出來、家族に衣服を買つてやることが出來ても、家を建てることが出來る程餘裕のあるものではなく、せいぜい借家の家賃を支拂ひ得られる程度のものでしかない。つまり住は衣食に比して非常に金がかゝる。中々住の問題は自分の日々の收入では容易に解決出來ない。それは畢竟するに建築は大變な消費なるが故に金が掛かる。そんなに金の掛ることは安收入では手に負へないからである。

今度日支事變が始まつて、大變澤山の物資がいることになつた。勿論普段から相當準備はされて居たらうが、戰爭の消費が猛烈な爲に、新たにどしどし補給しなければならない。この補給は戰爭に勝つためには是が非でも必要である。物資がないからと云つて戰爭を止める譯には行かない。昔から戰爭と女郎買は金がなくてもやると云ふ諺語があるが、戰爭用物資は是非調達されねばならない。

そこで戰爭用物資が足りない時には一般生活用物資が戰爭用物資に廻されねばならないことになるのは止むを得ない。

その時建築用物資は前述の如く、一番種類が多くて、一番分量が多いから、建築用が戰爭用に一番澤山に廻されるのは當然であるつまり物資調達と云ふことになると建築に一番風當りが强くなる。

事變當初經濟統制が始まるや、建築だけがなぜこんなにいぢめられるかと云ふ話を度々聞かされた。事實鐵の制限も最初は建築だけであつたし、鋼の制限も殆んど建築だけが受けると云つた調子であつた。然しそれは建築なるが故に風當りが强かつたのではなしに、非常な消費者なるが故に風當りが强かつたのである。

斯様な譯で建築用物資は經濟統制が始まると先づ最初に、その目標となつたのであるが、それから後も引き續いて段々强度の統制を受けることになつた。今これ等の統制を振り返つて見ると:——

昭和12年10月11日に種々の統制に先達つて、鐵鋼工作物築造許可規則が出て、50噸以上の鐵鋼を建築工事に使用することが禁止された。この時には世の建築人は啞然としたのであるが、今日の制限から見れば、實にまだ有難いものであつた。

昭和12年11月6日には引き續いて銅使用制限規則が出た。屋根、壁等に銅の使用が禁止された。谷樋などに銅板が使用出來なくなつたので、屋根

※筆者は大阪府建築監督官

の雨仕舞に大變心配され出した。それよりも高級な日本建築から銅が奪はれるとなると、日本建築の持ち味といふものが全く無くなるので、それが大變殘念がられた。然しそれも今日から振り返つて見ると、大變贅澤な考へ方であつた。

昭和13年の中頃になつて、使用制限、製造制限は本格的になつて、4月25日に「銑鐵鑄物ノ製造制限ニ關スル件」と云ふ規則が出て、鑄物の建築附屬器具が大量的に製造を禁止されて仕舞つた。それに引き續いて、昭和13年7月8日に「鋼製品ノ製造制限ニ關スル件」が出て、これで全面的に鐵製器具と建築とは絶緣と云ふことになつた。その翌日には「鉛、亞鉛、錫等使用制限規則」が出て、同日に「米松販賣取締規則」も出た。正しく應接に遑がない。

7月にはこの外に「鐵鋼工作物築造許可規則」が大改正されて、鐵筋、鐵骨建物の見込が全然無くなつたばかりでなく、薄鐵板が著しい使用制限を受けることになつた。

その間「銅使用制限規則」も「米松販賣取締規則」も改正強化されて、これ等の重要物資は一途に窮屈になるばかりであつた。

總じて昭和12年、13年及14年の前半は、物資の使用制限や製造制限に主力が濺がれて居た樣であるが、それだけでは經濟統制の完璧が期し得られないので、14年後半からは、生産統制、配給統制に主力が注がれることになつて、戰時經濟政策が一歩前進せしめられた樣に見受けられた。即ち

昭和14年9月27日には「用材生産統制規則」が出て材木界に大革命が齎されて、今迄日本全國に數萬種に及ぶマーケツトホームのあつたのを、ウント減少せしめられて、規格の單純化が計られた。これは大量製産並に有無相通ぜしめるためには非常に必要なことであつた。

昭和15年3月2日には「セメント配給統制規則」が發令されて、14年中頃より著しく品薄を告げて居たセメントの販賣が大統制を受けることになつた。

引續いて「鐵鋼需給統制規則」も發令された。これ等の規定では物品の讓渡に切符制が採用されたのであるが、別に規則を制定しないで、任意に切符による配給方法をとられるものも急增して來た。

以上の樣に矢繼ぎ早に使用制限なり、製造制限がされたのであつたが、建築用の大部分の物資に就ては在來の商人なり工場の手持品は從來通り賣ることが認められてゐた。手持品の賣買が差向へないことになつて居るために、一面闇で禁制品の製造されるのがなきにしもあらずであつたのである。然るに15年7月6日に「奢侈品等製造販賣制限規則」が出たことによつて、宛も止めを刺された感があり、建築用金具等の禁制品の賣買は一切これでストツプされることになつた。

斯くの如く制限なり、統制なりを受けて居るものを一々擧げると、非常に洪範なものになるのであるが、實際問題としては、これでまだまだ充分な物資の節約と云ふ所までは行かないのであつて、全面的の物資節約をするためには箇々の物資を別々に統制するのでは不充分であつて、矢張全面的の統制を必要とすることになる。そこで昭和14年4月21日には「臨時資金調整法」が改正強化されて、特に軍需品製造用その他生産擴充用の場合だけを例外として、通常3萬圓以上の建築費のかゝる建築を一切禁止し、特殊のものだけが5萬圓迄認められることになり、それ等の金額を超過する場合にはいづれも大藏大臣の許可を要することになり、勿論許可を申請しても許されないのが原則だと云ふことになつた。これが大建築に及ぼした影響といふものは、中々甚大なものがあつたのであるが、これにも增して、大きな影響のあつたのは、昭和14年11月8日の木造建物建築統制規則であつた。

先の臨時資金調整法によつて煉瓦造なり、無筋コンクリート造なりの大きなものは殆んどストツプされたのであつたが、この木造建物建築統制規則では木造建物の大きなものが、すつかりストツプを命ぜられることになつた。これが建築界に及ぼした影響は資金調整法にも增して寔に甚大を極めたものがある。

斯くの如く應接に遑ない位矢繼早やの諸統制であつて、一つの規定を充分飮み込んで居ない內に、後から後からと新らしい規則が追ひ掛けて來るのであるから、施行に當る者も、取締を受ける側の者もいさゝか面喰はざるを得ないのは當然である。

流石にこれだけの諸統制であるから、木造建物建築統制規則の出た一ト月後程には市場では建築用資材の價格も下り加減であり、品も少しは物に

よつて自由になつたと云ふ噂が立つ様になつ°た然し乍らそう云つた感じもひと頃の大變な窮屈さに比較しての話であつて、底を流れてゐる物資に對する不自由の聲は拭拂されるべくもなかつた。

これだけの規則が各々別々の役所から別々に出るのであるから、これ等が町でトンチンカンな効果を齎すのは云ふまでもない。

汗牛充棟も啻ならざるこれらの諸統制規則は、いづれも皆一物資を單獨に考へた縱の取締だけであつて、例へば鐵が不足するからそれの調整をしなければならないと云ふことになると、鐵のことだけが考へられて、これに關聯性のある他の物資のことは一慮お構ひなしである。

これは止むを得ない當然のことなのであらうが鐵ばかりでなく、銅でも´木材でも、セメントでも何でもが皆同じ調子である。だから一物資のみを使用する工業の場合には勿論これでも差閊へないのであるが、建築の如く前述の様に非常に多種類の物資を多様に使用するものの場合には、これでは非常に困ることになるのであつて、縱のこれ等の諸取締を横にがつちりと連絡をとる必要が起つて來るのである。

各物資の使用制限なり、配給統制が個々別々であつて横の連絡がない爲に、制限なり統制の强い物資と比較的緩かな物資とが出來る事になつて、木材をやつと準備出來たのに釘が丸切り無かつたり、セメントをどうにか苦面したが鐵筋がまだ廻らないと云つた調子で、物資の量が全く跛行的である。而かもどの物資も皆今日では不足勝であつて、この場合の木材にしても、セメントにしても不足の中を特に苦面されたのであるが、相棒が出づらを合すまで待機、つまり死藏されることになる。物資の無い時のこの死藏はまことに惜しいものである。

故に今日の様な時勢ともなれば、是非共この物資の跛行的配給を是正して、不足物資を有効適切に利用する計畫が必要になつて來る。現在での見透しでは今後物資は益々不足して、統制を受けねばならない物資の種類も增加するのであるから、今後の建築界にあつては、これは重要な問題である。

商工省では曩に木造建物建築統制規則が發令される時に、既にこのことが考慮されて居て、この規則の第八條には許可を受ける建物には物資の指定をすると云ふ項目が揭げられてゐた。然しそれは全く綜合的統制の準備に過ぎないのであつて、實際問題としてはその指定の効果は殆んど擧つて居なかつた。今回愈々この綜合統制が强化されることになつて、その實行の爲めに建築用物資配給統制協議會が設けられることになつた。

配給統制に關する商工次官通牒

この協議會の整備は勿論商工省よりの慫慂によるものであつて、これに關して次の如き通牒が發せられたのであつた。

15化第4366號

昭和15年6月14日　商工次官　岸　信介

大阪府知事殿

建築用物資地方配給統制機構整備ニ關スル件

事變以來建築用物資ニ付テハ使用制限或ハ配給統制ノ形式ニ於テ箇所的統制實施相成候處物資需給ノ逼迫セル狀況ニ鑑ミ道府縣割當物資ニ付テハ一層配給ノ適正ヲ期スルノ要アルト共ニ漸次統制物資ノ增加ニ伴ヒ各物資ノ跛行的配給ヲ是正シ以テ各物資ノ有効利用ヲ計ルノ要有之就而本件ニ關シ客年11月8日14化第3633號木造建物建築統制規則ニ關スル件商工、內務兩次官通牒ノ次第モ有之建築用物資ニ付其ノ配給ヲ法令ニ基ク建築ノ許可、認可等ニ關聯セシメ又法令ノ適用ナキモノニ在リテハ工事事實ノ確認ト併行シ道府縣割當物資量ヲ規準トシテ貴管下ニ於ケル緊急ヲ要スル建築計畫ヲ嚴選ノ上之ニ必要ナル物資ノ適量ヲ綜合的ニ優先配給スル爲建築用物資ノ一元的配給統制機構ノ確立スルノ要アリト被認候條地方ノ實狀ニ應シ別紙要綱ニ基キ該機構ノ整備並ニ之ガ運營ニ關シ格段ノ御配慮相成度此段及通牒候也

追テ事變以來建築又ハ建築用物資入手ニ關スル手續多岐ニ亘リ其ノ煩ニ堪ヘザルモノナシトセズ之ガ整理ハ物資配給ノ適正ヲ期スル爲モ必要ト被認候條本機構ヲ活用シ事務ノ統合簡易化ヲ圖ル樣御留意相煩度申添候

建築用物資地方配給統制要綱

一、配給統制機關

一、名　稱

○○（道府縣）建築用物資配給統制協議會

二、構　成

配給統制機關ノ構成ハ左ニ依ルモノトス但シ地方ノ事情ニ依リ必要アリト認ムル場合ハ適宜成員ヲ變更又ハ追加スルコトヲ得ルモノトス

（1）道府縣關係者

（2）土木建築業者ノ組合代表者

二、事　業

一、建築用物資ノ綜合的配給調整ヲ行ヒ且其ノ需給ノ

適正ヲ期スル爲左ノ事業ヲ行フ

(1) 道府縣ニ割當アリタル物資中建築ニ對スル割當ニ關スル連絡協議

(2) 商工省ヨリ道府縣ニ又ハ道府縣（釘、針金及鐵線又ハ亞鉛鐵板ニ在リテハ當該地方協議會）ニ於テ建築用トシテ割當アリタル物資ノ配給ノ方針ニ關スル連絡協議

(3) 建築用物資指定ニ關スル連絡協議

(4) 建築用物資割當證明書ノ發行ニ關スル連絡協議

(5) 建築關係物資統制團體トノ連絡協議

(6) 其ノ他建築用物資ノ綜合的配給統制ニ必要ナル事項ニ關スル連絡協議

三、補助機關

本配給統制機關ノ運營ニ當リ地方長官ハ其ノ管下ニ於テ工事ヲ爲サントスル土木建築業者ヲ統合シテ成ル可ク單一ノ組合ニ結成セシメ（既存ノ團體アルトキハ之ヲ活用スルコトヲ得）之ヲシテ建築用物資ノ指定又ハ建築用物資割當證明書ノ發行等ニ關スル事務ノ一部ヲ行ハシムルコトヲ得ルモノトス

各組合ハ成ル可ク之ヲ統合セル組合聯合會ニ加入セシムルモノトス

商工次官通牒の要旨

この通牒に於て注目すべきことは、物資の配給を建築の許可認可に關聯せしめることが一つと、物資配給を緊急建築に優先配給することである。

建築の許可認可を物資の有無に關連せしめることについては、確か鐵鋼工作物築造許可規則が出た時に當協會員の一部の人々からは明瞭な意志表示をされた様に記憶してゐるが、その時は建つ建たんに拘はらず、建築認可はして貰いたいと云ふことであつた。それで大體そう云ふ運びになつてゐた様である。然し今日になつて考へると、それは全くナンセンスなことであつて、その認可は何もならないことが明瞭になつた。寧ろそう云つた物資のないのに建築が認可になると云ふと、唯建築主を惑はすより外に何物でもないと云ふことになつた。だから最初の一部の人々の考へ方は今日ではもう清算されねばならないことになつた。

次の優先配給の問題は愈々物資が不足しての話になるのであるが、需要量と供給量のアンバランスの度合は都度都度違ふだらうから、その時の狀勢に俟たねばならない。

協議會の構成については、商工省の原案では協議員は大體關係官吏と土木建築業組合の代表者と云ふことになつてゐるのであるが、物の配給は役人と消費者だけでは充分なことが出來ないのではないかと思ふ。消費者の小田原評定よりも、製造業者や商人の手から少しでも多く廻して貰う方が品物が潤澤になるのであるから、配給機構では製造業者、販賣業者の方が消費者よりは遙かに重大な分擔をしてゐるのである。故に大阪では消費者の代表よりも寧ろこの製造業者、販賣業者に重點を置いて、この方から澤山の人を協議員になつて貰つて、先づ品物を準備して、然る後に配給方法を講ずると云ふ建前にした。

協議會の事業はこの商工次官通牒に數項目に分けて盛られてゐるからこれで明瞭に御承知願へると思ふが、これを完全に遂行することは仲々容易な業ではない。既に本協議會の出來る前に數物資については、その物資單獨の協議會が別途に出來てゐるものもあつて、これに割り込む様な形にもなり、實際は可也骨の折れる仕事である。此處に書いてあることがうまく實行出來たら、少ない乍らもその少ない物資が或る程度圓滿に動いてくれることになつて、現在の不自由な狀態が餘程緩和されることになる。

協議會規定

協議會が活動を開始する爲めには規程を整備する必要があるので、大體商工省からの原案に基いて大阪府には次の様な協議會規定が設けられた。

大阪府告示第1367號

大阪府建築用物資配給統制協議會規程ヲ左ノ通定ム

昭和15年9月6日　　大阪府事　牛井　清

大阪府建築用物資配給統制協議會規程

第一條　本協議會ハ大阪府下ニ於ケル建築用物資ノ綜合的配給調整ヲ行ヒ且物資需給ノ適正ヲ期スルヲ以テ目的トス

第二條　本協議會ハ大阪府建築用物資配給統制協議會ト稱ス

第三條　本協議會ノ事務所ハ大阪府警察部建築課ニ置ク

第四條　本協議會ハ大阪府經濟部、警察部及學務部關係官並ニ大阪府下ニ於ケル土木建築業者ノ組合代表者及會長ノ委囑シタル者ヨリ成ル協議員ヲ以テ組織ス

第五條　本協議會ノ事業左ノ如シ

一、大阪府ニ割當アリタル物資中建築ニ對スル割當ニ關スル連絡協議

二、商工省ヨリ大阪府ニ又ハ大阪府ニ於テ建築用トシ割當アリタル物資ノ配給ノ方針ニ關スル連絡協議

三、建築用物資指定ニ關スル連絡協議

四、建築用物資割當證明書ノ發行ニ關スル連絡協議

五、建築用物資統制團體トノ連絡協議

六、其ノ他建築用物資ノ綜合的配給統制ニ必要ナル事項ニ關スル連絡協議

第六條 本協議會ニ左ノ役員ヲ置ク

會　長　1　名

副會長　2　名

幹　事　若干名

會長ハ大阪府知事ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充テ會議ヲ總理ス

副會長ハ經濟部長及警察部長ノ職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充テ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ會務ヲ代行ス

幹事ハ協議員中ヨリ會長之ヲ委囑シ會務ヲ分掌ス

第七條 本協議會ニ事務機關ヲ置キ會長ノ委囑スル大阪府經濟部、警察部及學務部關係官若干名ヲ以テ組織ス

事務機關ハ會長及副會長ノ命ヲ受ケ事務ニ從事ス

會長必要アリト認ムルトキハ大阪府下ニ於ケル土木建築業者ノ組合ヲシテ前項ノ事務ノ一部ヲ行ハシムルコトヲ得

第八條 本規程ニ定メナキ事項ニ關シテハ大阪府知事之ヲ定ム

附　則

本規程ハ昭和15年9月1日ヨリ之ヲ施行ス

今迄他の物品に就いて設けられた種々の協議會では、その取扱ふ物資は一種又はそれに類似の數種であつて、間口が總體に狹いのであつたが、本協議會はそれ等に比すると間口が大變に廣く組織としては從前に見ない構成をなして居る。

この協議會は府縣單位であつて、大阪に出來たのと同樣に內地の他の二府四十三縣いづれにも出來て居る。

配給統制に關する化學局長通牒

尙商工省內には中央協議會とも稱すべき建築統制協議會が出來て居て、その決定が地方へ司令となつて出で、中央地方の連絡が密にされることになつてゐる。

建築用物資配給統制協議會が實施する建築用物資の綜合的配給方法に關しては、商工省化學局長より知事宛に詳細な通牒が來て居るのであるが、その通牒中重要部分を抜萃すること

15化局第1225號

昭和15年7月1日　商工省化學局長　永田彦太郎

大阪府知事殿

建築用物資ノ綜合的配給統制ニ關スル件（抜萃）

首題ノ件ニ關シテハ、客年11月8日、14化第3633號 木造建物建築統制規則施行ニ關スル件、商工、內務兩次官通牒中第3ニ於テ指示相成候處本年6月14日 14化第4366號建築用物資地方配給統制機構整備ニ關スル件 商工次官通牒並ニ本通牒ニ基キ建築用物資配給統制協議會設立ノ上別紙要綱細目ニ依リ成ル可ク速ニ建築物資ノ綜合的配給統制事務實施相成度此段及通牒候也

建築用物資地方配給統制要綱細目

第一 建築用物資配給統制協議會事務機關ノ構成並ニ其ノ事務所々在地

建築用物資配給統制協議會事務機關ノ構成ニ付テハ成ルベク商工省令木造建物建築統制規則施行部課員ヲ主體トシ之ニ關係部課員ヲ協力セシメ尙必要ニ應ジ之ガ補助機關トシテ當該道府縣ニ於ケル土木建築業者ノ組合ノ事務機關其ノ他ヲ參加セシムルモノトシ建築用物資配給統制協議會ノ事務所ハ之ヲ同規則施行部課ニ置クモノトス

第二 建築用物資ノ配給統制ニ關スル事項

建築用物資ノ配給統制ノ要領ハ左ニ依ルモノトシ其ノ重要ナル事項ニ付テハ建築用物資配給統制協議會ニ於テ連絡協議シ其ノ事務ニ付テハ同協議會ノ事務機關之ニ當ルモノトス

一、取扱物資ノ範圍

一般民需建築ニ使用セラルベキ左ノ物資トスルコト

(イ)耐火木材 (ロ)釘 (ハ)針金 (ニ)鐵線 (ホ)亞鉛鐵板 (ヘ)メタルラス (ト)ワイヤーラス (チ)石綿スレート (リ)セメント (ヌ)網入硝子

二、物資配給統制ノ方法

(イ)「一」ノ物資ヲ取得セントスル建築主ヲシテ建築用物資需要申告書ヲ提出セシムルコト 前項建築用物資需要申告書ハ地方ノ事情ニ依リ其ノ提出スベキ限度ヲ適宜定メ得ルコト 提出スベキ限度ヲ定メタルトキハ遲滯ナク商工大臣ニ報告スルコト

(ロ)(イ)ノ建築用物資需要申告書ニ基ク建築用物資ノ指定ハ「三」ニ依リ商工省ヨリ道府縣ニ又ハ道府縣ニ於テ建築用トシテ割當アリタル「一」ノ物資量ノ範圍內ニ於テ之ヲ爲シ夫々ノ建築用物資指定書ヲ發行スルコト 前項ノ建築用物資指定書ノ發行ハ地方長官名ヲ以テスルコト

(ハ)(ロ)ノ建築用物資指定書ニ基キ「六」ニ依リ建築用物資割當證明書ヲ發行スルコトヽシ之ニ依リ建築主ヲシテ當該物資ヲ購入セシムルコト

前項ノ建築用物資割當證明書ノ發行ハ地方長官名ヲ以テスルコト

三、建築用物資指定書發行事務處理要領

(イ)建築用物資需要申告書ノ提出アリタル場合必要ト認ムルトキハ當該建築物ノ配置圖及平面圖並ニ物資使用ノ個所ヲ明示シタル圖面ヲ提出セシムルコト

（ロ）建築用物資需要申告書ニハ木造建物建築統制規則ニ依リ届出タル場合及市街地建築物法其他建築ニ關スル法令ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケ若ハ届出タル場合ニ在リテハ必要ニ應ジ其ノ許可書、認可書、又ハ届濟證ヲ添附セシムルコト

（ハ）建築用物資需要申告書ニ付「四」ニ依リ需要各物資ノ種類、寸法、數量又ハ使途ヲ査定スルコト

（ニ）（ハ）ニ依リ査定ヲ了シタル「一」ノ物資ニ付其ノ總量ガ商工省ヨリ當該道府縣ニ又ハ當該道府縣ニ於テ建築用トシテ割當アリタル各物資量ニ對シ超過スル場合ニハ「一」ノ物資ニ付夫々其ノ割當數量ノ範圍内ニ於テ「五」ノ方針ニ從ヒ「一」ノ物資ガ綜合的割當ヲ爲スベキ建築ヲ決定スルコト

（ホ）（ニ）ノ決定ニ當リ當該道府縣ニ割當アリタル「一」ノ物資ニシテ其ノ需要部門別割當ヲ指定サレアル物資（釘、針金、鐵線、亞鉛鐵板、防火建築用ワイヤーラス及セメント）ニ付テハ當該需要部門ニ屬スル建築用物資ハ一般建築用割當ニ於テ考慮セズ當該需要部門ノ割當中ヨリ充當スルコト

（ヘ）道府縣ニ割當セラレザル需要部門ニ屬スル物資（中央釘、針金、鐵線配給協議會ノ取扱フ釘、針金及鐵線亞鉛鐵板配給協議會ノ取扱フ亞鉛鐵板、防火建築用セメントヲ除クセメント共販株式會社ノ取扱フセメント及石綿スレート）ニ付テハ（ニ）ノ考慮ヲ爲サヾルコト

（ト）（ハ）乃至（ヘ）ニ依リ建築用物資ノ綜合的割當ヲ爲スベキ建築ヲ決定シタルトキハ建築用物資需要申告書ニ對スル建築用物資指定書ヲ發行スルコト

四、物資査定ノ標準

物資査定ノ標準ニ關シテハ14化局第826號及15化局第8226號化學局長通牒ニ依ルベキモ尚此ノ範圍内ニ於テ成ル可ク詳細ナル査定標準ヲ作成シ之ニ依ルコト

査定標準ヲ作成シタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク商工大臣ニ報告スルコト

五、建築用物資配給順位並ニ同順位別割當方針

（イ）建築用物資ノ割當ニ付テハ左記ノ配給順位ニ依リ取扱フコト

（1）軍需品ノ生產ニ關聯スル作業場及其ノ附屬住宅並ニ以上ノ附屬設備

（2）生產擴充ヲ要スル產業ニ關聯スル作業場及其ノ附屬住宅並ニ以上ノ附屬設備

（3）輸出品ノ製造又ハ代用品ノ製造ニ關聯スル作業場及其ノ附屬住宅並ニ以上ノ附屬設備

（4）公共又ハ公益ノ用ニ供スル建築物及其ノ附屬設備、物資ノ生產又ハ配給等ノ統制團體ノ用ニ供スル事務所ノ類及其ノ附屬設備並ニ共同住宅、寄宿舍、中、小住宅及以上ノ附屬設備

（5）（1）乃至（3）ヲ除ク作業場及其ノ附屬設備並ニ（4）ノ住宅ヲ除ク住宅及其ノ附屬設備

（6）其ノ他ノ建築物

（ロ）（イ）ノ用語ハ左ニ依ルコト

（2）ノ生產擴充ヲ要スル產業トハ左ノ物資ノ生產ヲ爲スモノヲ謂フ

鐵鋼、石炭、輕金屬、非鐵金屬、石油及其ノ代用品、ソーダ及工業鹽、硫酸アンモニア、バルブ、金、工作機械、鐵道車輛、船舶、自動車、羊毛、電力、

（3）ノ代用品トハ本來ノモノト其ノ品質、製法ヲ異ニスルモ之ト略同一ノ用途ニ供シ得ルモノニシテ不足物資ノ補塡又ハ國際貸借ノ改善ニ資シ得ルモノヲ謂フ

（4）ノ公共又ハ公益ノ用ニ供スル建築物トハ左ニ揭グルモノヲ謂フ

神社、佛閣、公署、學校、軍事援護、社會事業、保健衛生又ハ醫務ノ用ニ供スル建築物、鐵道、軌道、海運自動車、航空等ノ交通事業及放送事業ノ用ニ供スル建築物並ニ以上ニ準ズル用途ノ建築物

（4）ノ中、小住宅トハ木造建物建築統制規則第1條第1項第1號又ハ第2號ニ該當セザル住居建物ヲ謂フ

（ハ）（イ）ノ配給順位各層ニ對スル物資ノ割當ノ決定ニ當リテハ原則トシテ各物資ニ付夫々其ノ割當總量ノ範圍内ニ於テ配給順位各層別需要物資ニ對スル割當物資量ノ割當ヲ（1）ノ場合ニ於テ最大トシ以下順次遞減スル樣考慮スルコト

（ニ）（ハ）ニ依リ同一順位中ニ於テ更ニ順位ヲ決定スル要アル場合ハ左ノ各號ニ依ルコト

（1）災害復舊ニ必要ナル場合、衞生上、保安上又ハ防空上必要トスル場合、公共土木工事、土地區劃整理其ノ他公共ノ事由ニ依ル場合ヲ先トス

（2）公共用ヲ先トシ個人用ヲ次トス

（3）住宅難著シキ地方ニ在リテハ（イ）ノ（5）ニ就テハ住宅ヲ先トス

（4）物資ノ所要量小ニシテ目的ヲ達シ得ルモノヲ先トス

（ホ）（ハ）及（ニ）ニ基キ物資ノ割當見込アル場合ニ限リ下小屋、材料置場其ノ他當該建築工事ニ必要ナル假設用物資ノ割當ヲ爲スコト

（ヘ）國庫補助ニ依ル防火改修事業其ノ他需要ノ緊急性ニ依リ道府縣ニ於テ以上ノ配給順位竝ニ割當方針ニ依ルコト不適當ト認ムル場合ニハ之ニ據ラザルコトヲ得ルコト

六、建築用物資割當證明書發行事務處理要領

（イ）建築用物資割當證明書ハ（ハ）（但書ノ場合ヲ除ク）乃至（ホ）ノ場合ノ外建築用物資指定書ニ基キ作成シ之ニ添附シ發行スルコト

（ロ）建築用物資割當證明書ハ物資ノ種類別ニ發行シ割當數量、有效期限及購入先ノ外出來得レバ種類及寸法ヲ記載スルコト

（ハ）釘、針金、鐵線、亞鉛鐵板及セメントニ付テハ（イ）ノ建築用物資割當證明書ヲ發行セズ當該物資配給證明書又ハ割當證明書發行機關ト連絡シ建築用物資指定書ニ基キ當該物資配給證明書又ハ割當證明書ヲ發行セシムルコト　但釘、針金、鐵線及セメントノ少額需要ニ付テハ從來配給證明書又ハ割當證明書ニ依ラズシテ入手シ得ルコトトナリ居レルモ地方ノ事情ノ許ス範圍内ニ於テ建築用物資割當證明書ヲ發行シ之ニ依リ購入シ得ル方途ヲ講ズルコト

（ニ）ワイヤーラスニ付テハ防火建築用ニ充ツルモノニ在リテハ（イ）ノ建築用物資割當證明書ヲ發行セズ防火金鋼配給要望書ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ルコト

（ホ）（3）ノ（ヘ）ニ該當スル物資ニ付テハ（イ）ノ建築用物資割當證明書ヲ發行セズ當該物資ノ統制團體ニ對シ建築主ノ提出スベキ需要申込ニ建築用物資指定書ヲ添附セシメ又ハ建築用物資指定濟印ヲ押捺スル等適宜ノ方法ニ依リ(3)ニ依ル建築用物資指定效果ノ發揚ヲ計ルコト

七、其　ノ　他

（イ）建築用物資指定書又ハ建築用物資割當證明書ノ交附ヲ受ケタル者當該建築工事ノ竣工前需要申告書記載事項ニ付著シキ變更ヲ爲サントスルトキハ再ビ申告ヲ爲サシムルコト工事ヲ廢罷シタルトキハ建築用物資指定書竝ニ建築用物資割當證明書ヲ返付セシムルコト

（ロ）建築用物資指定書竝ニ建築用物資割當證明書ハ之ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ認メザルコト

（ハ）「一」ノ物資ニ付テハ建築用物資割當證明書ニ指定シタル販賣業者ヲシテ之ニ相當スル物資ヲ確保セシメ該證明書ト引換ニ非ラザレバ當該物資ノ販賣ヲ爲サシメザルコト

（ニ）指定販賣業者ヲシテ購入者ヨリ受取リタル建築用物資割當證明書ヲ取纏メ每月10日迄ニ其ノ前月分ヲ提出セシムルト共ニ前月分ノ購入及販賣實績ノ報告ヲ爲サシムルコト

八、報　　告

建築及建築用物資需給狀況ニ付每月15日迄ニ其ノ前月分ヲ商工大臣ニ報告スルコト

取　扱　ひ　物　資

この協議會で取扱ふものは一般民需といふことになつてゐる。事實軍需官需は今日優先配給を受けることになつて居り、民需がそれらの犧牲になつてゐるのであるから、この窮屈な民需を心配するのが建前であることは云ふ迄もない。然し場合によると官需でも物資によつてはこの協議會が世話しなければならないものも起りそうであり、府縣及市町村營繕用のものも民需とは云ひ兼ねるかも判らないから、此處で世話せねばならない場合が起るかも知れない。

協議會で取扱ふ物資は商工省の指示では次の十品目である。

（イ）耐火木材　（ロ）釘　（ハ）針金　（ニ）鐵線　（ホ）亞鉛鐵板　（ヘ）メタルラス（ト）ワイヤーラス　（チ）石綿スレート　（リ）セメント　（ヌ）網入ガラス

木造建物建築統制規則で指定される物資には、この外に尙、米松、棒鋼、補强用鐵物、鋼製戸があつた。然じこの四品目は今度は一應お預けと云ふことになつた。

この十品目中耐火木材が十月分として大阪に千石割當があつたのであるが、色々な都合でこの配給を當分中止することにしてゐる。耐火木材は現在品薄であるから、折角割當がある以上、是非配給すべきであるが、その中に大阪に耐火木材の工場が數社出來て切符配給の必要も無くなりそうである。

大阪府では現在この外に板ガラスの分量の多いものも配給斡旋をしてゐる。ガラスは曹達灰の關係で大量のものを一度に入手することは今日仲々困難である。

大阪府では近くラス用のステープル及び木造建築物に使用する補强用鐵物の配給斡旋を開始したいと計畫してゐる。いづれも市場では著しく逼迫してゐる爲めに、容易に買へない樣である。

尙取扱物資の種類は今後恐らく追々增加されねばならない樣に想像される。故に必要とあれば極力斡旋の勞をとらねばならない覺悟で居る。然し町でよくある統制のための統制は嚴に廢除すべきであつて、簡單に入手出來そうになれば、これ等の配給機構は速に解消せしめなければならない。そしてこの煩瑣な方法が一日でも早く必要のなくなる時期の來るのを待望して居る。

以上揭げた諸物資が果して町で一番不足して居つて、これ等の外に現に漏れて居るものがないかどうかと云ふことは、充分に注意して置かなければならない問題である。我々はこれを大變心配した。そこで協議會の仕事を開始するに先立つて町の需要者に何の入手に一番困つて居られるかを聞くことにした。大阪土木建築請負業組合の援助を得て、同組合員約400名餘及び最近建築課でセメントの割當證明書の交付を受けた人200名餘に對

して、つまり業者2及び最近の施主1の割で、今日建築をするのに諸資材中何が入手困難であるかの返答を往復ハガキによつて求めた。然る所この問題は今日最も適切を極めて居るとみえて澤山の回答を得ることが出來た。專門家の話によると通常この種の照會には三分の一位の回答があれば良いそうであつて半分あるものは實に上の上であると云ふことであつたが此處では6割近くの回答を得ることが出來た。御參考の爲めに回答の結果を次に揭載する。この照會は九月中旬頃であつて、それから後建築課で不足物資中斡旋これ努めたものもあるから、今日では不足の內容は多少變つて來て居ると思ふが町の狀勢がこれで一應見當がつく。

入手困難の物資名の回答統計

內　譯

品名	分類	件數
釘		309
	洋釘	307
	和釘	2
セメント		193
	普通セメント	192
	白セメント	1
薄鐵板		135
ラス		97
	メタルラス	91
	ワイヤラス	6
鐵線及針金		87
補強金物		58
鋼材		34
木材		26
	耐火木材	7
	木材	8
	ベニヤ	7
	ラワン	3
	板材	1
鉛管		23
硝子		21
	網入硝子	15
	並硝子	6
スレート		13
建具金物		10
石灰		6
鐵管		5
塗料		4
油		3
レール		3
テックス		2
左官壁材料		2
フエルト		2
地下足袋		2
銅線		2
防腐材		1
リノリユーム		1
ルーフインク		1
砂		1
砂利		1
木綿糸		1
屋根瓦		1
ゴム製品		1
防火資材		1
煉瓦		1
カーバイト		1
電線防腐材		1
麻紐		1
緒ヅサ		1
淺黃土		1
特殊用材		1
動力用電線及ビ器具		1
暗幕類		1

不足不自由を感じられる物資は、その人が現に直面して居られる工事によつて銘々違ふと思ふ。だからこの表を見られたらそれぞれ御意見の新たな方もあらうと思ふが大勢としては矢張こんなものかと考へられる。然らば先に商工省が協議會の取扱ひ品目と決定されたもの及び大阪府で近く追加實施したいと考へて居るものは大體町の要求に一致して居る樣である。唯茲に一つ水道用鉛管が問題になるのであるが、恐らくこれが近い將來に市場に充分に出廻り得られる見込はなく、寧ろ一層窮屈になる見込であるから、大阪市內でも水道を敷くことの出來ない場合を豫想して置かなければならない。

物資の取得方法

次に本協議會取扱物資の取得方法であるが、商工省の配給統制要綱細目によると

1. 建築主が建築用物資需要申告書を提出する
2. 協議會は需要物資を査定する
3. 協議會は綜合割當をなす建築を決定する
4. 協議會は3の決定ありたるときには建築用物資指定書を發行する
5. 協議會に割當ある物資については、地方長官が指定書に基いて割當證明書を發行し、別に割當證明書發行機關のあるものに就いては、建築主をして更に需要申込書に指定書を添へ該機關に申込ましめ、その機關をして指定書に基いて割當證明書を發行せしめる。

商工省の意圖は大體要約すると以上の樣になるのであるが、これだと地方長官が直ぐ割當證明書の書けるものでも矢張一應指定書を造らねばならないことになり、その時の指定書は全く無駄なものであり、且5の問題が實際には非常に複雜になつて來てこの上もない手數が懸ることになるので大阪府では商工省の了解を得てこれと多少異なつ

た方法を採用することにし現にそれを實行中である。大阪府での現行方法は後に改めて申し上げることにして、茲でこの配給統制要綱細目の趣旨を少し御説明申し上げて置く。

物資取得者

先づ申請者を建築主に限定した問題であるが、大阪府建築課ではこの協議會が出來る前から、即ち4月頃から一部の物資について切符を書いて居たが、最初から申請者を建築主に限定して來た。偶々今回商工省の方針が我々の方針と合致したのであるが、今日物資の不足につれて始終問題となるのは闇の品物のことである。この闇の品物の在り場所を調べて見るとそれは一様に商人か若しくはブローカーの手に在ると云ふ事になつて居る。この際ブローカーが何者であるかは一時お預けにして置いて、兎も角ズブの素人が使用もしないのに物資を貯藏するといふことは有り得ないことである。今ズブの素人である建築主に切符を渡す。建築主は切符に金をそへて品物を買つてそれを現場に持ち出む。直營であれば勿論だが請負工事の場合でも同様に建築主に切符が渡る。その場合貰つた切符が100袋のセメントであれば、勿論その100袋のセメントがその現場に使用されねばならないのであつて、建築主の知らぬ間にその中の20袋が他に持ち出されることは建築主は承知すまいと思ふ。勿論立派な人格のある請負の方々の間には問題にはならないのであるが、建築主外に切符が渡る時には請負とかその外色々な場合に100袋のセメントの配給があつても、それを80袋で工事を濟まして20袋持ち出されても建築主に氣がつかない事が起る、其時の20袋は闇の原因になる。施主が自分の金を出して買つた品物であるから、施主に切符が渡つた時には監視の眼も屆くし、自然材料が行き渡つて使用され闇に流れることも防げるといふことになる。大體正直に工事をやる人であれば切符が建築主に渡され様と、請負人に渡され様と大した相異は無い筈である。然し不正直な工事をやりたい人にとつては切符が自分に貰えないで、建築主に行くことは相當打撃かも知れない。

物資の査定

次に査定であるが、適正な配給をする爲めにはどうしてもその工事に必要な適正量と云ふものが判らねばならない。通常建築の豫算を立てる時には皆拾ひ出しをやるが、この査定はつまり間違のない拾ひ出しと云ふことである。だから査定をやるためには資料として建築の設計圖が必要であるが、建築規則の適用のある所では、建築副本がある筈であるから、その副本を添へて申請して貰うと都合が良い。副本のない様な工事例へば市街地建築物法適用區域外で30坪以下の住家を建てる様な時には今日何等役所へ手續を要しないから副本がないのであるが、その時には適宜査定に必要な圖面を添付されたら良い。唯朦朧申込を防ぐ爲めにその様な場合には建築することを町村役場とか警察で證明して貰へると都合が良い。

元來査定といふことは單純なことの様であるけれども、今日の様な配給統制時代になるとこれは仲々重要な問題である。物資難の時代をうまく切り抜ける爲めに世間では使用の適正といふことが喧ましく云はれて居るがその前にまだ配給を受ける時に不公正な配給の受けかたが無いかどうかが反省せられても良い。事實今迄に我々が直面して來た中には、この配給を受けるための申告が實に出鱈目で顰蹙に絶えない場合が多い。恐らく今迄であれば180袋のセメントがなければ完全な基礎が出來ない様な場合にでも、150袋位で胡麻化して居た人が、今日の様な物資難の時代に切符で物が貰へるとなると、180袋でどうにか間に合ふ場合でも500袋位いる様なことを云つて來る。だから申込を眞に受けて聞いて居ると日本國中のセメントを全部大阪へ集中してもまだ足りない様なことになつたりする。そこで使用の適正と云ふことも必要であるが、それよりも前に需要申告の適正といふことの方が遙かに必要になつて來る。人情としてこう云つた時代には止むを得ないことかも知れないが、それでは本當の配給統制は出來ない。そこでこの山の掛つた申込の山を切り落すことが必要である。これがこの場合査定と云ふことになる一面又査定は拾ひ出しの時に大きな落し物をしたのを見付けることもある。だから査定をしたらいつでも減るとは限らないで、大いに申込よりも增すこともある。

尙査定の標準であるが、これは一應確立して置く必要がある。申込人によつて甘い辛いがあつてはならない。然しこれは中々困難なことであつて地方的にも可なりの相違があるのではないかと思ふ。商工省で一應標準が出來た様であるが日本全國に完全には恐らく當て嵌るまいと思はれる。一

例を云ふならばセメントは大阪は坪當りで東京より餘程多く使用する。兵庫は大阪よりもう一つ多く使用する。矢張土地土地の標準は心要である。それから同じコンクリートでも住宅の基礎のコンクリートと無筋コンクリートの場合のコンクリートを同じ調合にする譯にも行くまい。尙坪500圓の建物と坪120圓の建物の坪當りセメント量は勿論可なり相違がある筈である。これ等の相異は皆一應考に入れて査定標準を造るのが本當であらうが、實際問題としてはそこまで中々手が廻り兼ねるし、現に7、7禁令も出たのであるから贅澤建築が澤山の物資を依然として消費して居るといふこともどうかと考へられる。そこで大體强度に影響のある部分については惜氣もなく出さなければならないが、その他の場合には中の下程度の建築を標準にして査定して居る。何しろ物資が著しく不足して居る際であり、1人でも多くの人に廻る様にするためには中の下位が標準になるのは止むを得ない。故に今迄の經驗によると上の建築をする人々は皆不足を訴へてゐるが、下の建築をする人々の間では役所の配給で餘りが出て、而も時々それが閙になつたりして困らされることもある。

綜合割當をする建築の決定

次に綜合割當をする建築と綜合割當をしない建築の撰擇であるが商工省化學局長の先の通牒ではこの問題を詳細に規定してゐるから、あれ以上の蛇足を必要としないのであるが、勿論これは大阪府の分として割當あつた總量と申込の總量とを比較して、後者の方が多かつた時の話である。然し今日の狀勢からすると後者の方が多いのが通常であるから此處に云ふ撰擇をしなければならないことになる。この撰擇は重點主義で行くことになるのであるが、今日建築認可なり許可なりになつて居るものを通覽すると、大體に於て最早不要不急と云ふものは先づない。既に資金調整法なり木造建物建築統制規則によつてこれ等の不要不急の建物は豫め淘汰されて居る。だから今建たうとするものは、時局向産業の工場とか、社會事業用のものとか、住宅難緩和に必要な小住宅と云つたものばかりである。だからこれ等を更に不要だの不急だのと分類して行く餘地は先づ無いのである。それでどうしても全建築に全部行き渡る様な配給を考へねばならないことになる。現在大阪府の建築課では全申込に對して漏れなく今日迄配給をして來た今後も同調子で行きたいと思ふが、それをする爲めには裏面では爭奪に等しい様なことまでして、物資を準備して置かなければならないので中々の骨折りでもある。故に今日迄は建築課ではこの綜合割當をなす建築の撰擇といふことは事實上行つて居ないのである。

建築用物資指定書

次は指定書の發行の問題であるが、この指定といふことは說明を俟たないと、一見了解に苦しむ事柄である。木造建物建築統制規則第八條に矢張この物資の指定といふ文句がある。即ち「建物ノ新築　增築　又ハ改築ニ使用シ得ル物資ノ種類寸法　數量又ハ使途ヲ指定スルコトヲ得」と云ふのがあつて、此處では勿論この規則の第八條のこの指定を受けることゝなつてゐる。そこで今或建築に際して物資を指定されると、その指定された數量以上の物資をその建築には使用出來ないことになる。又その建築用として指定された物資を他へ融通することも出來ないことになる。即ち今或建築にセメントを85袋と指定されたら、普請方が少し亂棒に使ひ過ぎたにしても、その建築に98袋のセメントは最早使用出來ない。假令その13袋を他より融通することが出來てもその使用は違法になる場合がある。又今配給を受けたセメントがあるとする。そのセメントはその工事に使用する様に配給されたのであるからよしんば工事の都合で餘つたにしても又故意であれば尙更の事他へ持ち出して使用すると違反になることがある。それでこの違反が木造建物建築統制規則第八條に該當する時には「輸出入品等臨時措置ニ關スル件」と云ふ法律の罰則が適用され、他の配給統制規則の場合にはその罰則が適用されることになる。そう云ふ意味でこの指定と云ふことは何んでもない様なことであるが、實際の場合になると思ひも掛けない責任問題になることがあるから、充分な注意が必要だと云ふことになる。

建築用物資割當證明書

次に割當證明書發行の問題である。先の建築用物資指定書は所謂切符でも何でもない。指定書を持つて行つただけでは物品は賣つて呉れない。この割當證明書が世間で云ふ切符である。査定されて、指定されると、その指定に基いて割當證明書が發行される。

今迄の様子を見て居ると、査定の關門をパスして、次の指定の關門もパスして、偖愈々割當證明

書を貰う時に、物資が足りないと此處で又削られて居る場合がある。大阪府の建築課では査定と指定が決定したら、是非その全額の切符を書きたいと考へて居る。建築用物資の中には代用品で充分間に合ふものもあるが、中には代用の全然きかないものも今日では尙可なりある。釘だのセメントは使用場合によつては代用がきかないのであるこの場合必要な量だけは是非交附を受けなければその建築は完成せないことになる。米がなければ2斗いる所を1斗8升しか配給がなくても、不足の2升分を芋やうどんで胡麻化せる。然し一着の洋服に3ヤールの着地がいるのに2ヤール半しか配給されなかつたら洋服にはなり兼ねる。家の場合は正に後者である。だから我々は是非全額を配給したいと考へて居る。世間では申込が多くて品物の少ない時には良く山分けをするのであるが、配給の時に山分けにするから申込みの時に山を掛て來ることになる。だから申込の山を掛けて來るのを防ぐ爲めには、配給の時に山分けにしない様にする必要がある。愈々物資が不足して來て、全部に配給出來ない様になれば、綜合配給をする建物としない建物の撰擇を先にして、そこでバランスを充分に豫め取らねばならない。

大阪府に於ける取扱方法

以上は商工省化學局長から通牒のあつた配給統制要綱細目の大略の說明である。こゝで氣になるのは商工省の方法によると、最初に少し觸れた様に地方長官が直ちに切符の書ける場合でも矢張指定書を造つて指定書と切符を同時に渡すと云ふ建前になつて居る。この時の指定書は全く手數が懸るだけであつて、切符は指定に基いて出來たものとして、この指定書を省略してもよい筈である。そこで大阪府では商工省の了解を得てこの場合指定書を省略して、次の様な方法にした。即ち直ぐ地方長官が割當證明書の書けるものと、他の機關をして割當證明書を書かせるものとに、最初から二分して手續方法から兩者とも變へて仕舞つて簡明化を計つた。その切符發行の順序は

I　地方長官が割當證明書を發行するもの
1. 建築主が割當證明書下附願を提出する
2. 協議會は需要物資を査定する
3. 協議會は綜合割當をなす建築を決定する
4. 協議會は3の決定ありたるときは、地方長官名にて割當證明書を發行する

II　他の機關が割當證明書を發行するもの
1. 建築主が建築用物資需要申告書を提出する
2. 協議會は需要物資の査定をする
3. 協議會は査定に基いて建築用物資指定書を地方長官名にて發行する
4. 建築主は需要申込書に指定書を添えて割當證明書發行機關に申込む
5. 割當證明書發行機關は指定書に基いて割當證明書を發行する

現在大阪府の建築課で取扱つて居るものは

I　に該當するもの
1. 21袋以上300袋以下のセメント
2. 防空用セメント
3. ワイヤーラス
4. メタルラス
5. 網入ガラス

II　に該當するもの
1. 300袋を超ゆるセメント
2. セメント共販會社指定24團體に屬するセメント
3. 5000平方尺以上の板ガラス
4. 100枚以上の浪形又は大平板の石綿スレート又は1000枚以上の小平板石綿スレート

耐火木材は先述の如く當分取扱はない方針であり、20袋以下のセメントの入手困難の問題は極く最近に矢張地方長官の切符によつて解決したい意氣込で目下準備中であり、釘、針金、鐵線、亞鉛鐵板に就いては以前から協議會があつて、その配給を協議されてゐたのであるが、我々が新たにこの配給にタツチする様になると、從前からの業者の考へ方に再考を煩はさねばならない點が多々あり目下盛んに樽俎折衝中であり、それがある程度形がつかねば配給に關與出來ない狀態にあるので、これも目下業者との協議が纏り次第近く何等か目鼻をつけたいと考へて居る。現在建築用の釘、針金、鐵線及び亞鉛鐵板は土建組合が切符を書いて居るが釘は半樽以上であるために小口が困つて居り、一建築に一種類の寸法の釘しか貰へず、いづれも建築用としての割當てが少ないために思ふ様な配給も出來ず、且つ時期が大變に遲れ、それに組合員でないと貰へないと云ふことになつて居るので、現場へは中々これ等の物資が廻り兼ねて居つて前述の如く今日の建築用物資中の癌をなしてゐる。どの程度迄解決出來るかは疑問であるが、

本協議會はこれ等の諸問題に一役を買はねばならないことになつてゐる。

物資取得の申込樣式

尙協議會取扱物資の申込は次の樣な方法によつて貰つたら良い。

印刷の都合で横書になつて居るが申込書は縱書にしていたゞくと良い。

樣式一號　建物所在地警察署　署名

昭和　年　月　日

建築主　住所 氏名　㊞

（電話　番）

大阪府知事　牛井　清殿

セメント割當證明書下附願

左記之通りセメント割當證明書下附相成度此段及御願候也

建築ノ許可、認可、届濟、年月日番號
建築物ノ位置
建築物ノ用途
建築物ノ建坪及延坪
建築物ノ構造
工事種別
他ノ法令適用ノ有無
工事ノ進捗程度
購入申込取扱販賣店名
請負人住所氏名

所要セメント數量

使用箇所	申告		査定	
	數量	セメント量（袋）	數量	セメント量（袋）
基礎	延長間又ハ立坪		延長間又ハ立坪	
土間	延面積　坪		延面積　坪	
床下防濕	延面積　坪		延面積　坪	
排水溝	延長　間		延長　間	
外壁	延面積　坪		延面積　坪	
軒先	延面積　坪		同　坪	
塀	延面積　坪		同　坪	

樣式二號　建物所在地警察署名　署

昭和　年　月　日

建築主　住所 氏名　㊞

（電話　番）

大阪府知事　牛井　清殿

防火鐵鋼配給要望書下附願

左記ノ通り防火鐵鋼配給要望書下附相成度此段及御願候也

建築ノ許可、認可、届濟年月日番號
建築物ノ位置
建築物ノ用途
建築物ノ建坪及延坪
建築物ノ構造
工事種別
他ノ法令適用ノ有無
工事ノ進捗程度
請負人住所氏名

所要鐵鋼種類及數量

使用箇所	申告		査定		
	種類及規格	面積（坪）	種類及規格	面積（坪）	重量（瓲）
外壁					
軒先					
防火壁					
高塀					
計					

樣式三號　建物所在地警察署名　署

昭和　年　月　日

建築主　住所 氏名　㊞

（電話　番）

大阪府知事　牛井　清殿

防空用網入硝子割當證明書下附願

左記ノ通り防空用網入硝子割當證明書下附相成度此段及御願候也

建築ノ許可、認可、届濟年月日番號
建築物ノ位置
建築物ノ用途
建築物ノ建坪及延坪
建築物ノ構造
工事種別
他ノ法令適用ノ有無
工事ノ進捗程度
請負人住所氏名

所要網入硝子數量

使用箇所	申告			査定		
	開口大サ	箇數	面積（尺坪）	開口大サ	箇數	面積（尺坪）
計						

樣式四號　　建物所在地警察署名　　署

昭和　年　月　日

建築主　住所　　㊞
　　氏名

（電話　　番）

大阪府知事　牛井　清殿

建築用（セメント／板硝子／石綿スレート　等）需要申告書

建築ノ許可、認可、届濟年月日番號（昭和15年9月8日建第6524號認可等）

建築物ノ位置※

※建築物ノ用途　（住家、共同住宅、商店、特殊製鋼工場　等）

建築物ノ建坪及延坪　（建坪25坪、延坪45坪、等）

建築物ノ構造　（木造瓦葺二階建　1棟3戸建、無筋コンクリート二階建等）

工事種別　（新築、增築、改築、移轉、其ノ他等）

他ノ法令適用ノ有無　（臨時資金調整法、木造建物建築統制規則、鐵鋼工作物築造許可規則等）

工事ノ進捗程度　（未着手、基礎コンクリート打チヲ了シ建方準備中等）

請負人住所氏名　　（電話　　番）

所要セメント數量

使用箇所	申告				査定			
	コンクリート又ハモルタル量（立坪）	調合	セメント量（袋）	備考	コンクリート又ハモルタル量（立坪）	調合	セメント量（袋）	備考
計								

所要板硝子數量

使用箇所	申告		査定	
	面積（尺坪）	備考	面積（尺坪）	備考
計				

所要石綿スレート數量

使用箇所	品目	厚サ　寸法	申告數量（坪又ハ枚　數）	査定數量（坪又ハ枚　數）
計				

樣式五號　　建築用物資指定書

昭和　年　月　日

第　　號

大阪府知事　牛　井　清

建築物ノ位置

建築主氏名名稱及住所

建築工事請負人氏名名稱及住所

物資種類	使途	規格、寸法	數量

結　　語

最後に今日の配給統制は一般の方々には大變面倒がられて居る。事實大變な手數でもあり、日數がかゝり、而もまかり間違へば違反に問はれるのである。だからこの様な配給統制が喜ばれそうな筈がない。然し今日の狀勢では戰爭に勝つためには好むと好まないとに拘はらずこの統制に服さなければならないことになつた。それで世間では現在では數ケ月前と比較すると餘程この狀態にもう所謂詮めを明瞭にして居られて統制に服されるのであるが、我々の見る所では販賣業者でない人の間に今だに闇で問題を起して居る人が多い様な氣がする。今ではもう一と頃の公然の闇といふものは餘程減じた様である。どうかこの業界からこの様な不名譽な事件の一日も早く無くならんことを希望する次第である。

無筋コンクリート造建物設計例

（第 1 報）

災害強度委員會

はしがき

本勞作は、鐵鋼資材不足の今日に於ける唯一の信賴し得る耐火耐震構造法とも稱し得べき無筋コンクリート工法の解說として、實例に取材し數種の用途の建物についてその設計例を案めたものである。

實務家各位に對し多少共御參考になるならば本委員會の欣び之に過ぎるものはない。

（Ⅰ）無筋コンクリート造の主要長所

(1) 耐火能が充分大である。

(2) 力學的性質が他の法定の耐火構造たる煉瓦造に比し遙に勝つてゐる。

(3) 要所々々の補強が簡易に出來る。

(4) 施工簡易で信賴度大きく、從つて各構造部分の施工に因る强度上の效率が大である。

(5) 設計が簡易である（煉瓦造では强度計算以外に組積の詳細をも設計しなければ完全なものは出來ない。）

(6) 工事の進行速度が大である。

(7) 材料檢査の手間が少くて濟む

(8) 特殊技能を有する職工や熟練職工を要する事が少い。

(9) 將來鐵鋼の使用統制が緩和されて來た場合にもその情勢に即應して構造を圓滑に鐵筋又は鐵骨鐵筋コンクリート造に推移させてゆく事が出來建築材料界にも建築勞務界にも有害にして一利無き混亂や反動を與へる處が無い。

（Ⅱ）無筋コンクリート造設計上の注意及方針

(1) 無筋コンクリート造は法規上煉瓦造と同樣の制限を受けてゐるので先づ第一の要求として此の煉瓦造と同樣の制限內容たる法規に牴觸しない樣に設計する。即ち

(i) 無筋コンクリート造建築物は假設の場合を除いては必ず高は13m以下軒高は9m以下としなければならない。（市街地建築物法施行令第5條之を略して今後「令第5條」と云ふ樣に表すことゝする）茲に高と謂ふのは地盤面よりその建築物の最高部迄の高を指す。又軒高と謂ふのは地盤面より建築物の外壁上端迄の高を指し、外壁上端に扶欄、扶壁又は軒蛇腹ある時はその最高部迄の高、出軒の場合には軒桁上端迄の高を指す。但し切妻の部分は軒高に算入しない。地盤面に高低がある時には行政官廳で其の地盤面を認定することになつてゐる。（令第6條）

第 2 表

試驗片番號	煉瓦下面の面積 cm²	モルタルの附着せる面積 cm²	モルタル附着率 %
No. 1	247.2	237.2	95.95
No. 2	244.0	200.1	82.01
No. 3	259.3	235.8	90.91
No. 4	272.5	257.2	94.31
No. 5	300.3	248.0	82.58
No. 6	262.7	172.3	56.59
No. 7	260.2	240.7	92.51
No. 8	276.3	241.4	87.37
No. 9	273.0	200.2	73.33
No.10	258.0	172.3	68.72
		平均モルタル附着率	83.3%

(ii) 壁厚（貼石、貼瓦及仕上モルタルの類を含ます）市街地建築物法施行規則第73條、之を略して今後「規則第73條」と云ふ樣に表すことゝする。）は最少限次の制限內になければならない。

(a) 構造上主要な壁體の壁厚は 1 尺以上でなければならない。（規則第60條）

(b) 外壁の壁厚は次の規定に從はなければならない。

(1) 長18尺以下のものでは 1 尺以上とすること。

(2) 長18尺を超過し30尺以下のものでは 1尺3寸以上とすること。

(c) 壁體は構造上主要な壁體は勿論假令ひ間壁であつてもその壁體の屬する室の階高の 1/15 以上の厚を有すること。

(d) 下階の壁厚は上階の壁厚以上でなければならない。(規則第59條)

(e) 建物の壁體にて下の各號の一に該當する場合には各階の壁厚は(b)の規定に於ける値より間壁に非る壁體は3寸を間壁は6寸を、減ずることが出來る。

(イ) 其の階の床及其の階の直上階の床又は屋根鐵筋「コンクリート」造なる時。

(ロ) 地方長官適當と認むる控壁、鐵骨又は鐵筋「コンクリート」の臥梁其の他の補強方法ある時

(f) 特定階に於ける出入口、窓其の他の開口の幅の總和が壁長の2分の1を超過する時は其の壁厚は

長18尺以下のものでは1尺3寸以上と長18尺を超過し30尺以下のものでは1尺6寸以上としなければならない。幅3尺以上、厚、壁厚の2倍以上の柱型(控壁を含む、以下同じ)を有する場合に於て其の柱形間及之と對隣壁との中心距離15尺以下の時は之に從はなくてもよい。(規則第65條)

(g) 階高の¾以上の高を通じて壁體に竪溝を設ける場合にはその主要壁體は勿論假令ひ間壁でも竪溝部の壁厚は(a)、(b)、(c)、(e)、(f)、の壁厚の⅔以上としなければならない。

(h) 二重壁に於ては少く共その一方の壁は上記壁厚の各規定に適合しなければならない。(規則第70條)

(i) 間壁の厚は

長18尺以下のものでは7寸以上

長18尺を超過し30尺以下のものでは1尺以上としなければならない。

(j) 高12尺未滿の間壁其の他構造上輕微な壁體は上記の各規定に必しも合はせないでよい。

(k) 鐵骨造又は鐵筋コンクリート造に於ける張壁に於ては上記の厚に關する規定に必しも適合しなくてもよい。

(l) 塀壁は特殊の補強方法を施した場合の外下の規定に依らなければならない。

(1) 壁厚はその部分より壁頂迄の垂直距離の1/10以上となすこと。

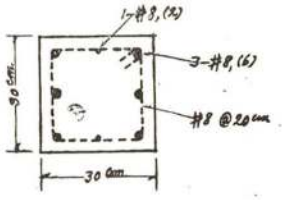
(2) 長2間未滿毎に幅壁厚の1.5倍以上厚壁厚の2倍以上のコンクリート造控壁其の他適當な控壁を設けること。

但しその壁厚がその部分より壁頂迄の垂直距離の1.5/10倍以上である時は必しも控壁を造らないでもよい(規則第76條)

(iii) 壁長は普通の壁體は勿論假令帳壁と雖も30尺を超えてはならない。壁厚が2尺以上階高の1.5/10以上もある場合は30尺を超えてもよい。壁厚は其の壁體に接着する對隣壁の接着部分の中心距離を以て之を度る。幅壁厚の1.5倍以上厚壁厚の2倍以上の控壁は壁長の決定に於ては之を對隣壁と看做してよい。

(IV) 壁高はその壁體の接着する地盤面より之を度る。

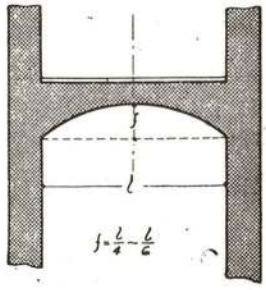
(V) 高12尺未滿の間壁其の他構造上輕微な壁體を除きコンクリート造壁體は總てその壁頂に鐵又は鐵筋「コンクリート」の臥梁を設けねばならない。臥梁は**第1圖**の如き强度以上の構造のものとしなければならない。



第 1 圖

(VI) 切妻壁體又は高3尺を超過する扶欄若は扶壁は無筋コンクリート造としてはいけない。但し切妻壁體にて其の頂部を鐵筋コンクリート造の屋根に緊結したものは無筋コンクリートでもよい

(VII) 張間5尺以上の開口上に架するコンクリート造の迫持は其の迫高を張間の1/10以上としなければならない。但し適當な補强をなしたものは必ずしもさうしなくてもよい。(規則第79條)眞直な梁形部分は迫高零のアーチと看做す。力を受ける壁體に於ける張間5尺以上の開口上に架するコンクリート造の迫持は其の迫高を張間の¼～½程度とするのが宜い。普通の架構としての迫持では



第 2 圖

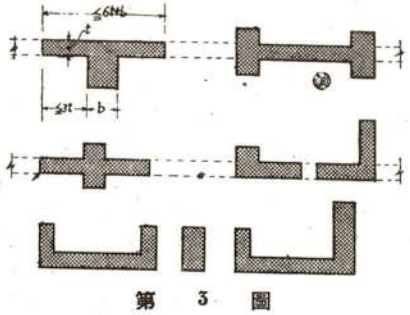
5)及6)現在普通大阪府下で使用されてゐるコンクリートは脆度係數が平均12位と考へられるので安全率を3として⅓₃₆としたのである。又特に重要なものでは萬一越り得べき微細な收縮龜裂に因る强度の減少を考慮し尙1割の餘裕をとり⅓₄₀としたのである。

¼～⅙程度が適當である。（**第2圖**）

（Ⅶ）格出窓、格出緣等では鐵骨又は鐵筋コンクリートを以て適當な補强をなすを要する。今日では鋼線を利用するのが好都合である。

（2） コンクリートは甚だ脆い材料で延性が少く引張の應力度に對して弱いので、曲げ、引張、剪斷及集中擊力等に對する强度が少く、從つて窮極的破壞が殆ど何等の前徵をも伴ふ事なく突然に起る。此の後段の性質はコンクリートの品質が良好で打込みが良く均質密實に出來てゐる程一層顯著になる。それ故設計に際しては主として壓縮に、次善としては剪斷に抵抗せしめ、曲げ、引張、及集中擊力をば作用せしめない樣に工夫する。そして曲げ、捩り等のモーメントは、例へば僅な偏心軸方向力に因る二次的なものまで極力無視しない樣にして計算しなければならない。曲げや引張の許容應力度は普通の場合は壓縮强度の $\frac{1}{36}$[5] と、特に重要なものでは $\frac{1}{40}$[6] とし、尙純粹の引張力は絕對に負擔せしめない樣にしなければならない。

（3） 振動に對して減衰効果が乏ししいから無筋コンクリートを以てラーメンを造つたり、slenderな持出梁の如きを造る事は避け、恒にmassiveな壁體やアーチを利用し、且此等を外力に平行に効果的に配置する樣にする。止むを得ずラーメン材として設計しなければならない場合は**第3圖**に示す如くT形I形＋形L形H形等の斷面となる樣にし、强度計算に於てはハツチせる部分を一斷面として考へることにする。尙曲げに於ける引張應力度に對して鋼線（鋼線を利用することの技術的理由は後に詳述する）を以て補强することにすれば特に獨立柱等のラーメン材は中空多角形又は環形（例へば□□○○形等）等の斷面を用ひるのが資材節約上好ましい。但し此の場合注意すべきは鋼線

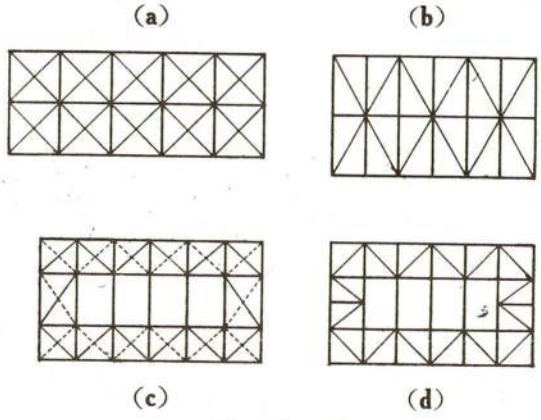


第 3 圖

（#6～#8の範圍のもの）は壓縮に對しては殆ど無効であるから强度計算に際しては壓縮側の鋼線は無視しなければならないことである。（其の他にも鋼線使用上注意すべき事項があるがそれは後述することにする。）

（4） 床を出來るだけ輕く而も剛强にして歪みが極めて小さくなる樣にし、風壓及地震力を全部その作用方向に平行な壁體に傳達負擔させる。但しどうしても中間に壁を設け得ない細長い部屋を要する場合は分布係數を歪みの計算により決定するか又は假定により定めて多少木造架構にも水平力を負擔させる。

床を輕くする方法としては下の樣な方法が考へられる。先づ耐力部分に對する使用材料を出來るだけ單位重量當りの强度が大なるものとする。その樣な性質の材料としては手近なものとしては木材あるのみである。現今使はれてゐる輕量コンクリートは法規上も耐力部分には特別の用途以外は



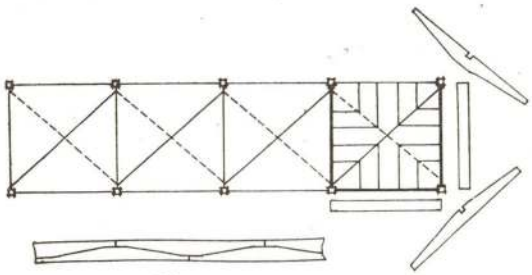
第 4 圖

使用を禁ぜられてゐるが、假令ひ使用を許可せられる樣になつても現今使はれてゐる骨材はまだ重量に比し强度が小いので耐力部分には使用しても一般に有利ではない。そこで木材を用ひて床を造るとして次には床梁の組立を工夫する必要がある。其の方針を述べれば

（i） 出來るだけ床全面に亘り**第4圖**(a)、(b)の如く三角形狀に組み立て止むを得ない場合も同圖(c)、(d)の程度には組み上げ所謂水平トラスとする。

（ii） 引張を受ける材の數が少く且長さも短くなる樣にする。（特に物理的缺陷の少い材を選ばねばならないからである）

(iii) 大梁、小梁、斜材等の區別なく皆水平トラスとしての軸方向力以外に曲げモーメントを負擔せしめて所謂 Rostträger とする。之は各材が重複することなく且相補的に完全に協力して荷重を支へる設計なので材斷面が小となり資材の節約になると共に工夫によつては床懐ろも些して深くはならないから好都合である。普通の組み方で出來るだけ資材の節約を圖るには幅に比し梁丈を出來るだけ大にし、その爲に大になる動搖及び撓れに對しては水平トラス用の斜材を梁腹に交叉せしめ



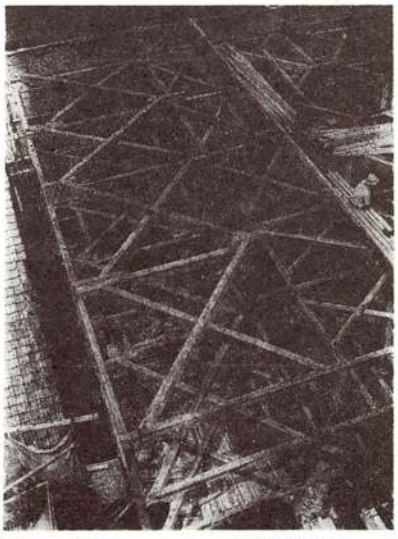
(b)

第 5 a 圖

て支點となし之が發生を防止すると云ふ様な方法も一法ではあるが、梁丈は經濟的にはスパンの1/10程度が最大でそれ以上大にしても一般に剪斷應力で破壞するので得策ではない。

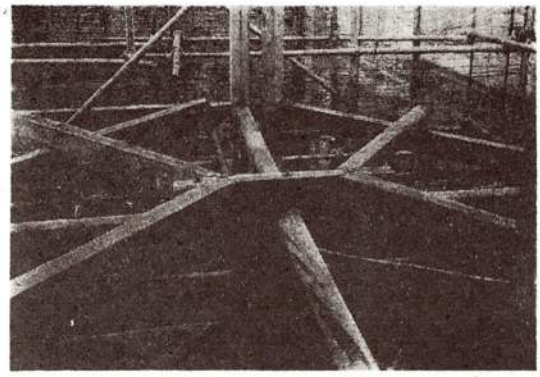


第5b圖

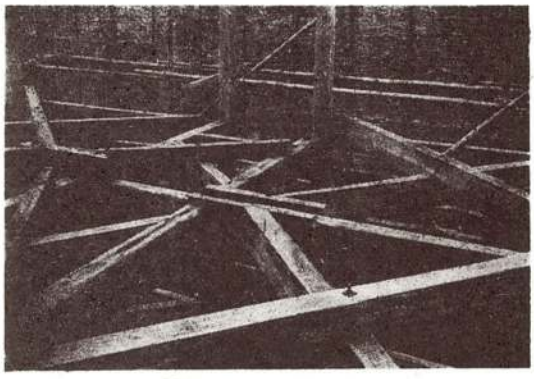


第6a圖　外壁コンクリート造3階建建物の床梁組上り狀況俯瞰圖

(iv) 成るべく補強金物の使用を避ける。此の種組方の一例を擧げれば**第 4 圖**の如くする。その中（a）について少しく詳細に說明すれば、此の案では柱を大體9尺間隔に入れ、此の9尺角のパネ



第 6 b 圖　斜梁の仕口



第 6 c 圖　斜梁の仕口

ルを床の構造單位とする。斜の梁の詳細は**第5a圖**の通りである。そして**第5b圖**の如く荷重の負擔面積をきめ單純梁として設計する。此の斜梁の交叉點には補强金物は一切用ひない。又此の様な變斷面材の木取りは帶鋸を使用して**第5 a 圖**（b）の様にし無駄を省くことも出來れば、又端部に腐れ、疵、乾割れ等のある材から悪い部分を削り取つて行ふことも出來る。單に工費の點のみよりする時は一様斷面の方が有利な場合もあり、その様な場合は仕口部に補助材が入用となる。**第6a、第6b、第6c圖**はその1例である。又**第7圖**は此の種床の實施例に於ける根太の配置を示す。

(v) 各部材の長さは普通市場品一本にて間に合ふ程度以下とする。

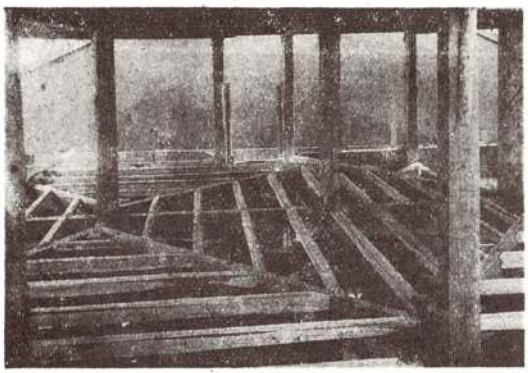
(vi) 主要節點の下部には成るべく支へを存せしめる。

(vii) 出來るだけ簡單で接手の數が少い様にする。

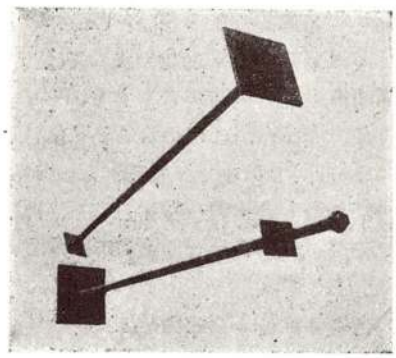
（viii） 根太を用ひる場合はその長さが短くて濟む様にする。

（5） 次に床梁は必ず周圍に斷面充分なる胴差又は桁を廻して之に取り付け、此の胴差又は桁を壁から生じたブラツケツトの上に載せ此等の材の腹と壁體とを貫通するボールトを用ひて締め付ける様にし（**第8a、第8b、第8c圖**參照）決して梁端を壁中に埋め込んだり又は梁端を直接壁體に對せしめない様にする。なぜなら梁端を壁體中に埋め込む時は地震等の場合に梁端がこぢられて壁體に局部的に損傷を與へる虞れがあり、又梁端を壁體に對せしめる時は地震の場合等に梁端と壁體とが衝突し繰り返し衝突に因る大なる繰り返し集中擊力を與へることにより重要接合點に容易に局部的破壞を來し得るからである。母屋端についても同様のことの起り得ることを考慮し此の如き事の起らぬ様設計上注意するを要する。

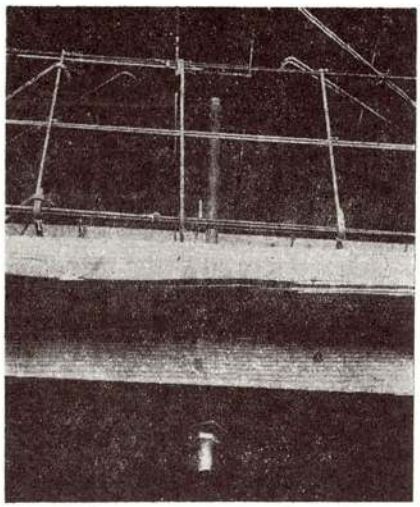
尙此の如く床周圍に胴差又は桁をグルツト周らすのは上記の如く梁からの荷重を分散させて壁體



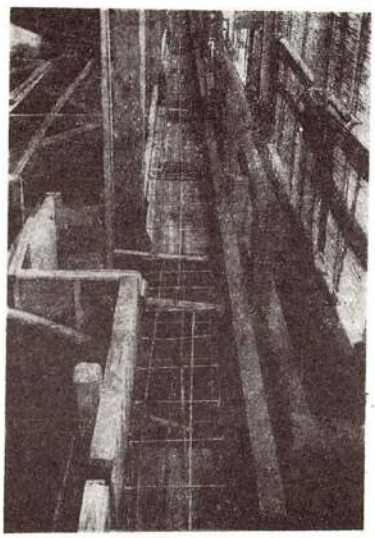
第 7 圖 根太の配置狀況



第8a圖 胴差又は桁をコンクリート壁に結合するボールト、座金に用意してある2個の小孔はボールトを堰板に假留めする爲の釘孔



第8b圖 コークリート打前に於けるボールト配置狀況 鐵筋の如く見えるのは#6鋼線2本束のもの



第8c圖 #6鋼線にて補强された窓楣と胴差結合用ボールト配置狀況

に傳へ又は壁體からの荷重を廣い面で受ける役をさせる爲のみならず此等の斷面充分なる胴差又は桁が枠となつて木材の伸縮を互に拘束し合はしめ一方に强く表れない様にする役をもさせる爲である。

（6） 無筋コンクリート造の壁厚は法規上煉瓦造と同様の制限の下に在るから先づ略設計として煉瓦造耐力壁體の壁厚に關する Rondelet 氏の公式を用ひて大體の壁厚を定める。

$$t=\frac{h}{n}\cdot\frac{1}{\sqrt{m^2+1}}$$

茲に n は安全係數にて上式が市街地建築物法施行規則第67條と矛盾しない爲には次式を滿足しなければならない。

$$n \leqq \frac{15}{\sqrt{m^2+1}}$$

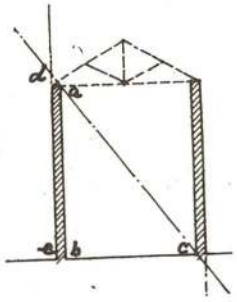
又mは階高比と呼び $\frac{h}{d}$ に相當する。但し h は內法階高を、d はその階の問題の壁體から對向主要壁體迄の內法距離を表す。

尙參考の爲にL. De C. Berg氏の安全係數に對する意見を揭げれば下の通りである。

住家	$n=12$
寺院及耐火構造	10
倉庫	8

第9圖は壁厚決定の圖法を示す。即ち內法階高と主要壁體の內法距離とが與へられた場合は先づ之を以て

$ab=h$　　$bc=d$

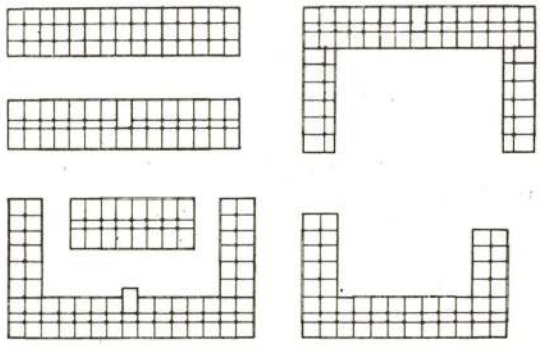


第 9 圖

なる三角形 abc を造り斜邊 ca の延長上に $\frac{h}{n}$ に等しく ad をとり d より ab に平行に垂線を下せば ab, de 兩線分間の距離が求むる壁厚になる。同樣にして之に對向する壁體の壁厚も圖に示す如く求めることが出來る。

(7) コンクリート部分と直接々觸する木材には防腐塗料を施す。コンクリートは不等沈下を起さぬ樣又材料の分離が起らぬ樣常に構造上一體として設計されてある範圍に亘つて常に各部同一高さを持する樣に水平に不陸なく打つ方針を以て施工する。

(8) 主要な壁體の配置及設計は大體次の樣な要領で行ふ。(第10圖參照)


第 10 圖

(i) 外壁特に裏側の外壁は窓も比較的少くなし得るから之を利用し厚くして主要な壁體とする。

(ii) 建物の出隅入隅を丈夫にする。

(iii) 階段室を翼舍と母舍との取合又は長い舍屋部分の支へとなる樣舍屋の長さを適當に等分する點附近に設け設計舍屋の平面的撓みを小にする其場合階段室の周圍を丈夫にし主要壁體とする。

(iv) 將來變更の慮れある箇所には主要壁體は設けない樣にする。

(v) 主要壁體には極力開口を少くし、無開口部分の幅を大ならしめる。

(vi) 主要壁體の配置は建物各部に成るべく均等に分布する樣にし且つ相互に平行又は直角方向に向く樣にすると共に上下相重なる樣にし上階の主要壁體はその直下に壁體無き位置には絶對に設けないこと。

上下相重なる壁體に於ては上階の壁體の厚及幅は下階の壁體のそれを超えることがない樣にする。

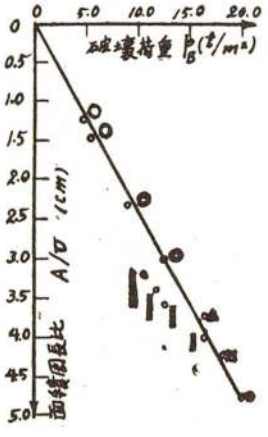
(vii) 壁體自重及壁體に直接加はる荷重は各壁體自ら負擔する設計とし決して柱等に負擔せしめない樣にする。

(9) 建物の全體について極力不當沈下を防止する樣一體と考へられる部分に亘つて基礎は沈下に關し同一條件とする樣設計を工夫する。而して不等沈下は之を原因別に分類すれば大體下の樣になる。

- 不等沈下
  - (A) 地質の不等に因るもの
  - (B) 載荷の不等に因るもの
    - (1) 載荷强度の不等に因るもの
    - (2) 載荷全量の不等に因るもの
    - (3) 基礎盤の形の相違に因るもの
    - (4) 載荷の時間的變動性情の相違に因るもの
  - (C) 人爲的原因に因る土體の耐力條件の相違に因るもの
  - (D) 存續期間の不等に因るもの

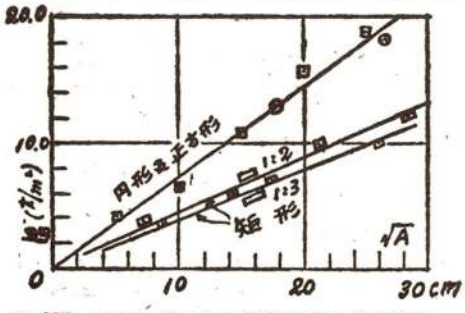
設計に際しては此等の各原因について不等沈下の慮れがない樣注意しなければならないが、如何に注意しても些少の不等沈下を免れ得ないからその場合に自然に調整作用が行はれ得る樣成るべく壺

基礎を避けて各基礎を互に連結する樣にする。此の場合特に注意すべきは基礎底に於ける土體への載荷强度は等しくても基礎盤の底面の形及底面積が異ると夫々第1圖及第2圖に示す如く土體の破壞荷重從つて沈下に對する安全率が相違する。それ故布基礎殊に壁下の布基礎を餘りに節約して柱型や獨立柱の基礎と同一載荷强度にするに止めて面積周長比（底面積/周長）と底面積の平方根 $A^{\frac{1}{2}}$ との相乘積 $A^{\frac{3}{2}}V^{1}$ を等しくする事を怠り幅を餘りに狹くする時は加ふるに荷重も柱等に較べて假定荷重と實荷重との開きが少く其上持續的でもあるので一層柱又は柱型部分よりも耐力が小從て沈下が大となる傾向があり失敗を招く處れなしとしない事である。それ故布基礎と他の形の基礎とは載荷强度も $A^{\frac{3}{2}}V^{-1}$ も共に互に略等しくなる樣に設計しなければならない。尙地盤が粘土を多く含む地質の場合は特に持續荷重が重要であるから地震時の計算に於けるよりも寧ろ平常時の計算に於て一層よく上記の條件が滿足される樣にしなければならない。



第1圖　載荷面の形による建築基礎の破壞荷重（Fraiberger Erdbaulaboratoriumに於ける實驗）

非常に長さの長い構造物や建築面積が非常に大きく地質に差異の多い所では全體を適當のブロツク（長10m毎位）に分けて豫め伸縮繼手を設けて置くことも必要となる。但し建物では伸縮繼手は造るのが厄介であるから此の場合は後に施工の部分で述べる樣に適當に shrinkage keyを挿入して各ブロツクを相當硬化收縮させた後に、相隣る2ブロツクの中間に設けられた鋼線で補强されて幅の狹い所の shrinkage key の部分にコンクリートを打ち込んで相隣ブロツクを結合すると云ふ樣な方法をとる。



第2圖　載荷面積による築築基礎の破壞荷重（Fellenius （Stockholm）の研究）

（2）　不當沈下を防止する爲許容地耐力 8t/m² 以下位の所では成るべく抗打地形以上の堅固なる基礎を設け、輕微なる壁を除き一般に壁下の基礎も同樣の設計とする。但し木抗を使用する場合は常水面の位置に注意し必ず抗頭が常水面下 25cm 以下位に在る樣にすると共に施工上杭心と壁心とを完全に一致させることは困難であるから杭は必ず2列以上打つこととし決して1列打とはしない。

（11）開口部の隅角部及開口の幅極めて小なる場合を除き一般に楣部分は必ず鋼線等で補强する。開口隅角部の龜裂防ぎの斜筋は幅の大小に拘らず如何なる開口部にも入れて置いた方が宜い。此の部位は收縮龜裂が入り易く又コンクリート造の破壞は大抵**第13圖**の樣に起るからである。

（12）出隅入隅の部分及直交する外壁が全部開放となつてゐる壁體の此の外壁に接合する部分（**第14圖**）には成るべく相當の厚及び幅の壁を存せしめ尙その稜角部分には出來るだけ柱型を設ける。



第 13 圖



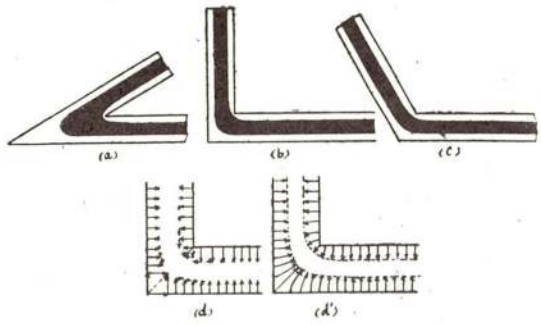
第14圖　小屋組木造外壁無筋コンクリート造建物壁體水平斷面

（13）構造主體は基礎も上部構造も一體にコンクリートを以てし、基礎に石を用ひてその上にコンクリート造の上部構造を載せる樣な構造は避ける樣にする。（但し割栗に相當するものは勿論別である）

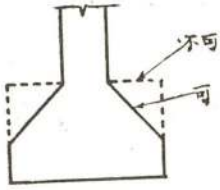
（14）コンクリートの塡充を良くし且つ收縮龜裂を少くする爲に次の諸點に注意する。

（1）銳角斷面の部分を造ることを避ける。（**第15圖**參照）

(2) 成るべく斷面が滑らかに變化する様にし、斷面の急激な變化を避ける。（**第15b圖**參照）



（**第15a**）圖　交角の相違に依る壁體の乾燥進行狀況（a）、(b)、(c）に於ける黑の帶狀部分は未乾燥部分を示す（黑帶の輪廓線は特定の等含水線を示す）(d)は乾燥速度分布圖
(d')は乾燥進行方向を示す。



（**第15圖**）　柱の基礎點線の如くする時は斷面急激に變化する故此の部分に龜裂入り易い故實線の如く斷面を滑に變化させるを要する

(15) 大なる曲げモーメントや引張力を受ける所、又は乾燥室の如く持續的に高溫に曝される建築物に於ては補强及龜裂防止上鋼線を以て補强する。鋼線は實驗（茲では餘りに岐路に入るので詳述を控へる。）に依れば伸率25%（標點距離直徑の8倍）以下できへあればBWG#6～8程度のものは曲げ又は引張補强用としてはコンクリートとの協力充分であつて何等鐵筋と異る所はない。亞鉛鍍金せるものも、又之を2～3本宛束ねたものも同樣にコンクリートとの應滑力は充分にある。(此の場合2～3本を束ねたものゝ應滑力は合計斷面積と斷面積を等しくする假想圓形斷面の表面積に割り付けて考へる。）但し壓縮を受ける部分では假令ひコンクリート中に在るも殆ど補强の役に立たないから注意しなければならない。（即ち壓縮に對する補强鐵筋には直徑に最小限度が存するのである。）材料の强度及伸率は、原材質、加工度及熱處理の如何によつて相當廣い範圍に亘つて異るが熱處理の程度及び加工によつて好みの通りの力學的品質の材料を或る範圍內に於て得ることが出來る。鋼線を用ひて失敗するのは伸率が25%を超える鈍しの大なる品を用ひる事に因る場合が多い。伸率の方は10%程度でも普通の構造物では振動又は繰り返しに對する疲れに付いての心配は要らない。**第5表**は伸率6.9%、22.2%、22.3%及36.0%の鋼線に夫々靜力學的引張破壞强度の⅓に1.6を乘じた應力度を曲げの緣應力度とする如き正負の曲げモーメントを交番的に繰り返し作用せしめた試驗結果であつて伸率6.9%程度でも31萬回程度の繰り返しには相當高應力で耐へることがわかる。

鋼線の長所は加工に因る降伏點及引張强度の增大にあるから之を利用して次の如き規格により使用して充分安全である。

第5表　鋼線の繰り返し交番曲げ試驗（昭和14年5月12日～6月8日施行）

試驗片番號	直徑 mm	曲げ緣應力度 kg/cm²	曲げモーメント kgcm	室溫 °C	破斷迄の繰り返し曲げ載荷回數 回	伸率 %	備考
No. 1ノ1	4.90	3,070	35.40	21～24	311,100	6.9	圓形斷面
No. 1ノ2	4.93	〃	36.15	22	391,950	〃	〃
No. 1ノ3	4.90	〃	35.40	21	311,980	〃	〃
No. 2ノ1	4.02	2,590	16.50	20～21	1,281,950	22.2	〃
No. 2ノ2	4.02	〃	16.50	20	1,976,630	〃	〃
No. 2ノ3	4.03	〃	16.70	21	707,360	〃	〃
No. 2ノ4	4.02	〃	16.50	22～25	2,080,500	〃	〃
No. 2ノ5	4.03	〃	16.70	24	2,570,140	〃	〃
No. 3	5.01	2,640	32.90	20～23	775,510	22.3	〃
No. 4	3.96×5.56	1,980	16.83	23～25	3,109,940	36.0	楕圓形斷面　長軸の周りに屈曲

鋼線は2本以上を一緒にして使用する場合は撚線として用ひると弱いから必ず單に束ねて用ひる様にし、然も束ねるのは精々3本迄とし決して4本以上束ねない様にしなければならない

第 4 表

引張強度 kg/mm²	伸率 %	許容引張應力度 kg/cm²	コンクリートの所要4週壓縮強度 kg/cm²
39≦	20～25	1,400	135以上
42≦	10～25	1,400	135以上
45≦	10～25	1,500	165以上
54≦	10～25	1,800	210以上
60≦	10～25	2,000	〃

（Ⅲ）施工上の注意

（1） コンクリートは塡充に困難を感じない程度の軟かさと容易に分離を起さない程度の粘さとを有し而も强度が大で收縮が少い様にすることが必要である。それが爲には次の様にする。

（i） スランプ 17～19cm 程度の施工軟度を有し水セメント比の小なるコンクリートを使用する。

（ii） 砂利は最大徑 25mm 程度の粒度宜しき圓い川砂利を用ひる。

（iii） 砂はスランプを適度にする目的に使用する如き氣持にて用ひ、以て所要水量及びセメント量を減じると共にその量は此の目的に必要適度の量にとゞめる。又4週所要强度180kg/cm²以上のコンクリートに於ては早强セメント（高級セメントとも云ふ）を用ひてセメント量を減じる様にするのが種々の點から觀て策の得たものであらう。但し所要强度の左程大ならざるものに使ふとセメント骨材比は小にするを得ても適度の施工軟度を得る爲に水セメント比を大にするを要し、その爲沈降及收縮量を增大すると共に强度上有害なレイタンスを多く生じ却つて工合が悪いから此の場合は普通セメントを用ひる方がよい。

大阪府下で用ひて居る普通の砂、砂利では**第5表**の如き調合が適當であらう。勿論同表は機械練でセメントを重量で計量する場合に對するもので、若し手練でセメントを枡で計量しようとする場合は同表の容積調合比より算出せるセメント所要容積の 1.2 倍の容積を有する枡を使用しなければならない。然し手練ではどうしても均質なコンクリートが造り難いから無筋コンクリート造では特に手練を避け機械練としたい。

（2） 鐵筋コンクリート造の場合よりも一層養生

第 5 表　無筋コンクリート造用コンクリート調合表　（大阪府下）

	所要强度 kg/cm²	所要スランプ cm	施工期間	現場容積調合比	水セメント比 %	骨材の粒大 砂	骨材の粒大 砂利
普通ポルトランドセメント	135	17～19	4月～11月	1:2.9:3.7	70	8番以下	1吋以下
			12月～3月	1:2.7:3.3	65	〃	〃
	150	〃	4月～11月	1:2.8:3.4	67	〃	〃
			12月～3月	1:2.6:3.0	62	〃	〃
	165	〃	4月～12月	1:2.6:3.1	63	〃	〃
			12月～3月	1:2.4:2.8	58	〃	〃
	180	〃	4月～12月	1:2.5:2.9	60	〃	〃
			12月～3月	1:2.2:2.6	55	〃	〃
早强セメント（高級セメント）	180	〃	12月～3月	1:2.7:3.3	65	〃	〃
	195	〃	4月～11月	1:3.0:4.1	74	〃	〃
			12月～3月	1:2.5:3.0	61	〃	〃
	210	〃	4月～11月	1:2.9:3.7	70	〃	〃
			12月～3月	1:2.3:2.7	57	〃	〃

に意を拂ひ殊に初の7日間位の養生を充分にし寒冷急激な乾燥が起らない様にし低溫に因る强度の減少や乾燥に因る收縮龜裂の發生を防止する。型枠の存置期間は全季間次表の程度以上としたい。

第 6 表

セメントの種類	基礎	材側	版下	梁下
普通ポルトランドセメント	5日	10日	14日	28日
早强セメント（高級セメントとも云ふ）	4日	7日	7日	14日

(3) 打込に際し材料の分離が起らない様に注意し、且つ突き固めを良くして洲を造らない様にする。突き方の要領としてはコンクリートが型枠面に密着する様型枠の中心部よりも緣（ヘリ）の方を、又斷面の大きい部分よりも小い部分を、途中の部分よりも打ち始めの部分を下半部よりも上半部の方をよく突く様にしなければならない。尙コンクリートを型枠の隅々迄充分行き亘らせるには凝結の始まらない先に周り難いと思はれる型枠の要所を輕く叩いてまはるのが有効である。

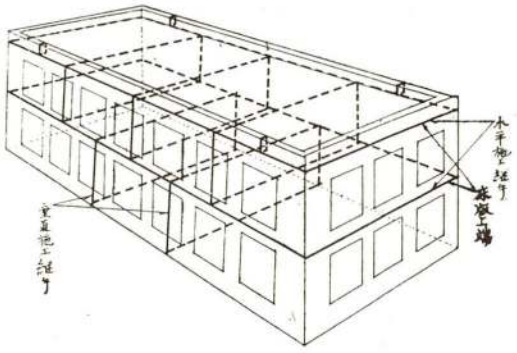
(4) 1日の打込能力を考慮し階高甚だ高き場合を除き成るべく一層通りは床版迄繼手無しに一體に打ち上げ得る様に施工し、且つ生じ得べき繼手の數を出來るだけ少くする。

(5) 施工繼手は次の如き要領にて豫め何處に設け如何なる設計にて如何に行ふかを計畫して置かねばならない。

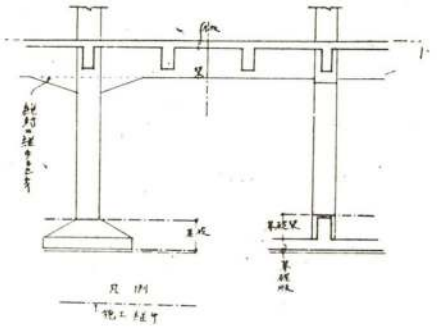
(i) 1日の打込能力を考慮し餘り無理とならざる範圍にて最大量を打つ事とし、階高甚だ高き場合を除き成るべく一層通りは床版迄繼手無しに一體に打ち上げ得る様に施工範圍を定める。

(ii) 繼手は成るべく水平繼手を避けて縱繼手となし且剪斷力の最小の所に、從つて梁、床版、壁共に中央若は之に近い部分に設ける様にし、且壓縮應力に直角に從つて材軸に直角に設ける様にし、尙縱にも水平にも施工上甚しい不便が無い限り餘り長く一直線に通らない様に、即ち例へば1階の縱繼手と2階の縱繼手とは位置を變へて造ると云ふ様にし、而も均等な沈下をなさしめる爲努めて對稱的配置を破らない様に設ける。（**第16a及第16b圖**參照）

但し茲に注意しなければならないのは縱繼手ではコンクリートの自然的壓力が小いから此の部分は特によく突き新舊コンクリート接合面に氣泡が存在しない様にしなければならないことである。



第 16 a 圖



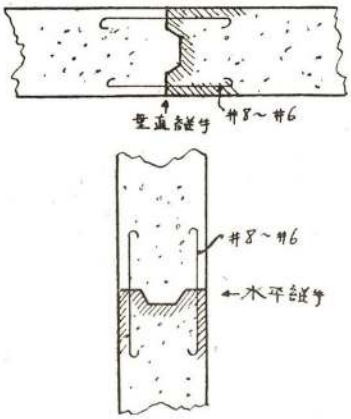
第 16 b 圖

とは云へ勿論突き過ぎて材料の分離を起させてはならない。尙絶對に避けるを要するのは柱や壁の中程の高さの所で繼いだり、堰板は相當上迄やつてあるのに途中で止めると云ふ様な方法である。此の様な所に打ち繼ぎを造るとレータンスも溜り易いし後の排除もうまく行かない、雨が降れば水が溜つてそれが仲々排除出來ないと云つた様な不都合が起るからである。

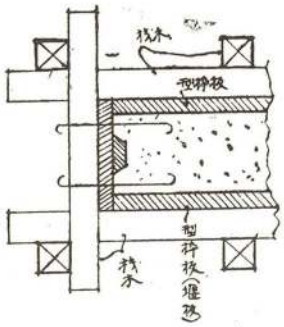
(iii) 繼手は**第17a、第17b**、及**第17c圖**の如き設計とする。（**第17a′ 17b′** 及**17c′ 圖**も參照）

新舊コンクリートの接合面を溝形にして嚙み合せたのは、新舊コンクリートの接觸面を大にし、且横の力を受けた場合にも機械的に或る程度抵抗力が强まる様にすると共に、萬一繼目に沿つて龜裂が入つても容易に內外の空氣が流通する如き狀態にならしめない爲である。

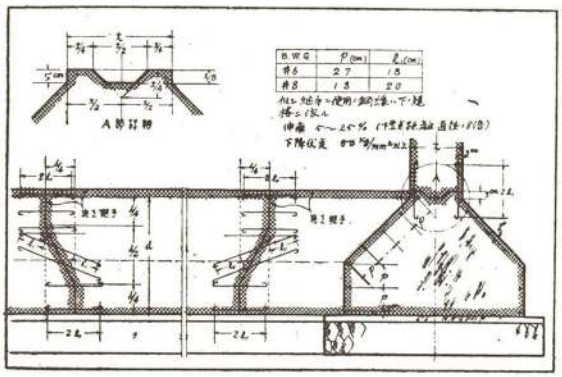
鋼線は降伏點 5,000kg/cm² 以上伸率 10～25%（標點距離直徑の8倍）のものを用ひ、そのピツチ



第 17 a 圖



第 17 b 圖



第17c圖　基礎の繼手

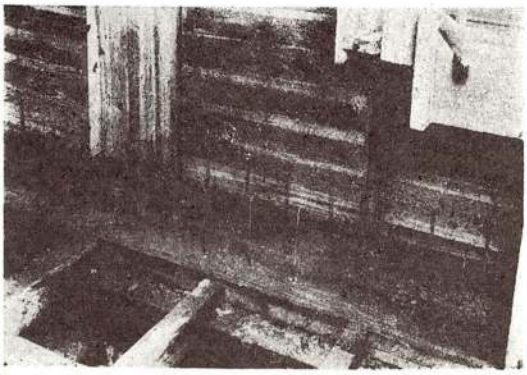
及び長は次の程度とすればよいであらう。

ピッチ
- BWG#8の場合　18cm以下
- BWG#6の場合　27cm以下

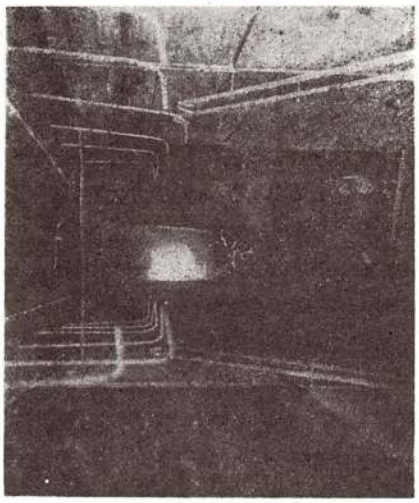
長
- BWG#8の場合　全長44cm(片側埋込長18cm)
- BWG#6の場合　〃　50〃（〃　20〃）

末端には鋼線直徑の10倍の長を直角に折り曲げたるフツクを附す。

此場合最も注意すべきは餘り伸の大なる鋼線は强度は假令ひ充分あつても使はない事であつて、伸率の許容最高限度は25%位に定める必要がある。



第17a圖壁體の水平繼手



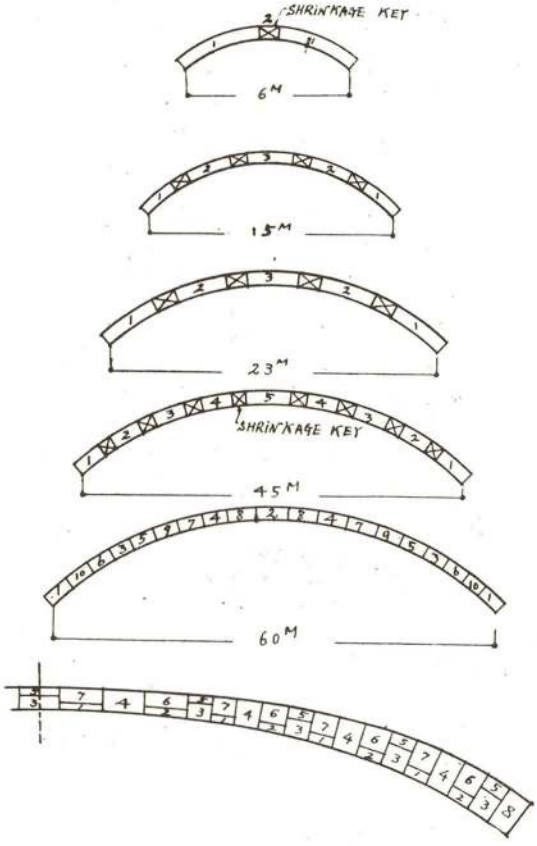
第17b圖　壁體の縱繼手



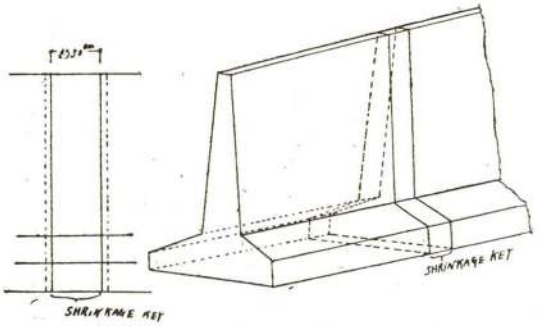
第17c圖　基礎の繼手

若し品不足で上記の規格に合ふ品が無い時は伸率の最高は25％を超えてはならないが最低は5％位でも繼手補強用としては好ましくはないが使つても宜い。尙上記の鋼線のピツチは降伏點5,000 kg/cm²以上の品質のものに對してゞあるから降伏點がそれ以下の品に對してはそれに應じて勿論もつと狹くしなければならない。

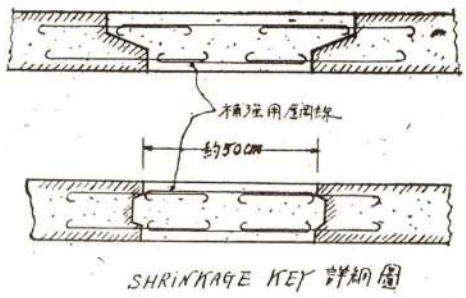
(iv) 長い建築物や建築面積の大なる建築物で



第18a圖　アーチ形主桁に於けるShrinkage keyの配置及びコシクリート打計畫



第 18 b 圖



第 18 c 圖

は建築物全體に對して成るべく對稱に均等に適當數の shrinkage key (間隔を 10m內外にし度し) を挿入し、此等によつて區分された爾餘の部分を對稱的に順次規則正しくコンクリート打ちし、適當の期間(14日以上とし度し)を與へてコンクリートが相當收縮した所で key の部分を古い順に矢張り對稱にコンクリート打ちして全部を完成せしめる樣にする。key の所は**第18c圖**の樣な設計とする。keyの幅は許し得る限り狹くするのがよい。(幅50cm位が適當と考へる。)

普通の繼手も又 shrinkage key の部分も新舊コンクリートの接合部の仕上塗りに際しては此接合線に直角方向に纖維を並べた麻苧又は麻布等を下地にして極力龜裂の發生を防止しなければならない。

(6) 型枠は節孔、割れ、破損等の缺陷無く內面を充分清掃せるものを使用し、堰板間にも間隙を造らぬ樣にし、以てセメン液の漏出により洲を造り又は打上り肌を平滑緻密に仕上ぐるを得ざる如くしない。

(7) 打込みはなるべく高 1m 位宛水平に不陸なく打つてゆく樣にする。但し鋼線等にて補强してある所は鋼線等に附着したセメント液が乾かぬ先に打込みを終る樣に注意しなければならない。

(8) 無筋コンクリート造では繼手の數を減ずる爲分離を起さぬ範圍で出來るだけ多量に打込むから鐵筋コンクリートの場合よりも一層型枠の支保工を充分にして孕んだり傾いたり撓んだりしない樣にしなければならない。

殊にアーチの下面の型枠は充分剛にして厚を大にし、尙沈下せぬ樣支柱其他を充分堅固な支への上に立てなければならない。支柱を地面から立てる場合は地面を充分固め、且荷重を分散すべく充分な厚と底面積とを有する材を通じて荷重を地面に

傳達する様にし、一旦型枠全體の固めを了つた後は最早コンクリート打後楔等を利用して締め直す必要が起らない程度に堅固なものにしなければならない。無筋コンクリート造では强度上及び龜裂防止の上から自然、礎盤の斜面の水平となす傾斜角が大となるからコンクリート打ちに際して斜面形成用型枠無しでは斜面を正確に造ることが出來ない。尙此の斜面形成用型枠には相當大なる浮揚力が起り得るから豫めそれに對する備へをして置かなければならない。

(9) 打繼面はレイタンス及モルタル層を掻破清掃して砂利面を露はさしめたる上水にて潤ほし、直に次のコンクリートを打つ様にする。打繼面には屢々諸所でやられてゐる様に次回のコンクリート打に先立ち特に調合良好なるモルタル又はセメントペーストを流す如きことは不必要で、場合により此等が厚過ぎたりコンクリート打に先立ち乾いたりして却つて弱斷面を造り有害の場合さへあるからやめた方がよい。その様な事をするよりも却つて上記の注意を守り突き固めを新舊兩コンクリートの接觸面に於て特に充分にし接觸面に沿つて氣泡が殘留しない様にする方が効果がある。

(10) 水平繼手を造らなければならない所では型枠の高さをその位置又はそれより僅に大なるに止めてコンクリート打ち終りに際して、レインタンスを含む餘剩水が流れ出す様にし又は然らざる場合は型に適當の高さ及び位置に於て溢水孔を設け置きレイタンスを含む餘剩水を溢水させる様にする。

(IV) 無筋コンクリート造設計例

(a) 事務所設計例 其の1

構造强度計算書抜萃

【1】許容强度其他

應力度種別	コンクリート	松・檜	杉
應壓力度	45 kg/cm²	80 kg/cm²	60 kg/cm²
應張力度	3.75 kg/cm²*	90 kg/cm²	70 kg/cm²
應剪力度	3.75 kg/cm²*	9 kg/cm²	7 kg/cm²
應曲力度	3.75 kg/cm²*	90 kg/cm²	70 kg/cm²

* 壓縮强度ノ1/36倍

地震々度　K=0.1

地耐力　15 t/m²

【2】假定荷重

荷重種別 kg/m²	根屋			3階			2階		
	床	梁及柱	地震	床	梁及柱	地震	床	梁及柱	地震
積載荷重	100	80	50	200	160	100	300	240	150
固定荷重	295	295	295	120	120	120	120	120	120
計	395	375	345	320	280	220	420	360	270

コンクリート壁體

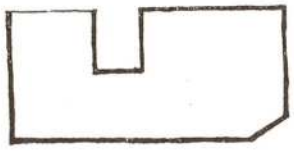
3階(厚30 c.m)	2階(厚39 c.m)	1階(厚48 c.m)
800 kg/m²	1.000 kg/m²	1.200 kg/m²

【3】 地震力に對する壁體の計算

（1）建物重量及地震力

單位 t	3 階	2 階	1 階
床	79.0	50.6	62.0
壁體	74.0	184.4	254.0
計	153.0	235.0	316.0
合計	153.0	388.0	704.0
地震力	15.3	38.8	70.4

（2）3 階 壁



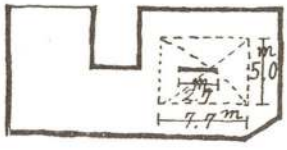
太線は壁體にして有効壁長は窓、出入口等の開口部及法立等を除きたるものなり。

↕ 有効壁長 22.0m

↔ 〃 25.5m

$$\therefore f_s = \frac{15300}{2200\times 30} = 0.232\ \mathrm{kg/cm^2} < 3.75\ \mathrm{kg/cm^2}$$

（3）2 階 壁



↕ 有効壁長 22.0m

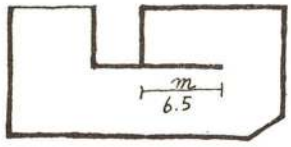
↔ 〃 28.2m

$$f_s = \frac{38800}{2200\times 39} = 0.452\ \mathrm{kg/cm^2} < 3.75\ \mathrm{kg/cm^2}$$

今部分的に中央壁體 2.7mをとり

$$f_s = \frac{.22\times 7.7+1.0\times 2.7\times 2.6}{270\times 39} = 1.47\ \mathrm{kg/cm^2} < 3.75\ \mathrm{kg/cm^2}$$

（4）1 階 壁

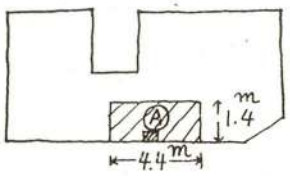


↕ 有効壁長 22.0m

↔ 〃 30.5m

$$\therefore f_s = \frac{70.400}{2200\times 48} = 0.668\ \mathrm{kg/cm^2} < 3.75\ \mathrm{kg/cm^2}$$

【4】 地震力に對する柱型の計算



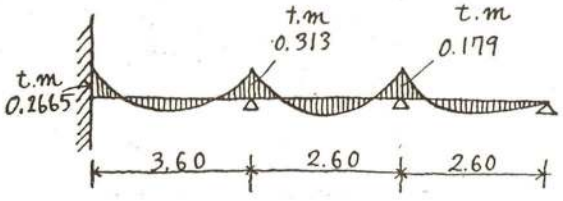
代表柱型Ⓐに付き計算をなす

荷重面積 6.15m²

（1）鉛直荷重及水平力の計算

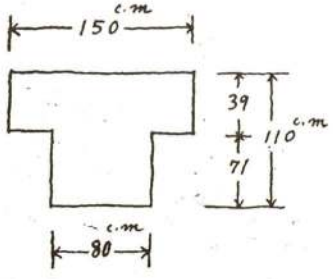
種類		鉛直荷重 kg		水平力 kg
		荷重	累計荷重	
三階柱型	屋根床	2,310		
	壁體及自重	5,160		0,516
	計	7,470		
	設計用荷重	8,000	8,000	5,200
二階柱型	三階床	1,720		
	壁體及自重	10,040		1,004
	計	12,040		
	設計用荷重	13,000	21,000	1,100
一階柱型	二階床	2,220		
	壁體及自重	17,060		1,326
	計	19,280		
	設計用荷重	20,500	41,500	1,400

（2）地震力に依る各階柱型の Moment



（3）柱型斷面の決定

a）1 階 柱



$P = 41.50$ t

$M = 0.313$ t.m

$Q = 0.350$ t

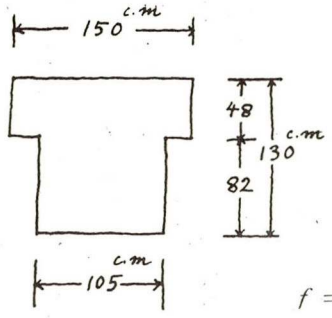
$A = 15,441$ c.m^2

$S = 313,500$ c.m^3

$$f = \frac{41500}{15441} \pm \frac{31300}{313500} = 2.7 \pm 0.1 = 2.8 < 45.0$$

Q に對しては充分安全なり

b）2 階 柱



P = 21.00 t

M = 0.313 t.m

Q = 0.55 t

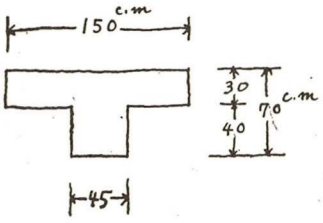
A = 11,530 c.m²

S = 132,500 c.m³

$$f = \frac{21,000}{11,530} \pm \frac{31,300}{132,500} = 1.82 \pm 0.1 = 1.92 < 45.0$$

Q に對しては充分安全なり

c）3 階　柱



P = 8.00 t

M = 0.179 t.m

Q = 0.26 t

A = 6,300 c.m²

S = 81,000 c.m³

$$f = \frac{8,000}{6,300} \pm \frac{17,900}{81,000} = 1.27 \pm 0.22 = 1.49 < 45.0$$

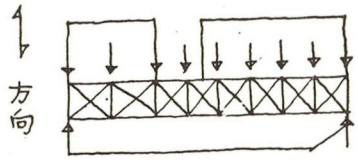
Q に對しては充分安全なり

【5】木造床梁の計算

2 階床の 1 部に付き示す

（1）水平計算　　單位 kg

水平トラス梁群より成る床全體の水平になるべき水平力を各トラス梁に分擔させ問題のトラス梁は自己の不擔水平力についてのみ計算する。

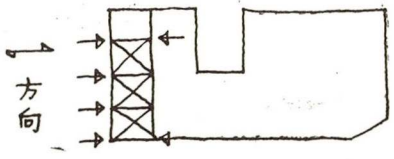


圖式計算するに

⟷ 材　Pmax = + 15,000 or − 15,000

↘ 材　〃　= + 10,500

↓ 材　〃　= − 5,050



トラスとして圖式計算するに

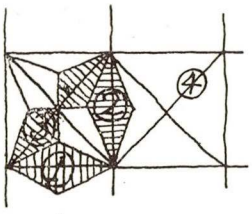
⟷ 材　Pmax = + 1,800 or − 1,800

↘ 材　〃　= + 2,500

↓ 材　〃　= − 1,710

以上二方向の水平力に依り最大なる應力を設計用應力とする。

（2）鉛 直 計 算



① 梁の應力　M = 290 kg.m
　　Q = 310 kg

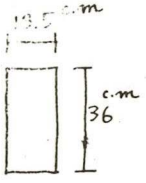
② 梁の應力　M = 290 kg.m
　　Q = 320 kg

③ 梁の應力　M = 406 kg.m
　　Q = 440 kg

④ 梁の應力　M = 610 kg.m
　　Q = 570 kg

（3）木造梁斷面の算定

a）① 梁



P = +15,000 kg
M = 29,000 kg.cm
Q = 310+440×2=1,190 kg
i = 2.76 cm

有効斷面　13.5 cm×30 cm とす

A = 405 cm²

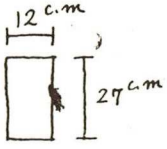
$\frac{l}{d} = 20,5$

S = 2,025 cm²

$$fc = \frac{15,000}{405(1-0.02\times 20.5)} + \frac{29,000}{2,025} = 78 < 80$$

$$fs = \frac{3}{2}\cdot\frac{1,190}{405} = 4.4 < 9.0$$

b）② 梁



P = − 5,050 kg
M = 29,000 kg.cm
Q = 320+440×2=1,200 kg
l = 270 cm

松材有効斷面　12 cm×21 cm とす

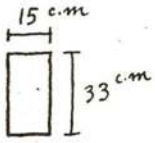
A =252 cm²　　S = 883 cm³

$$f = \frac{5,050}{252} + \frac{29,000}{883} = 53 < 90$$

$$fs = \frac{3}{2}\cdot\frac{1,200}{252} = 7.15 < 9.0$$

c）③ 梁

有効斷面　15 cm×27 cm とす



$A = 405\ cm^2$

$\frac{l}{d} = 23.0$

$S = 1,820\ cm^3$

$P = +\ 10,500\ kg$

$M = 40,600\ kg.cm$

$Q = 440\ kg$

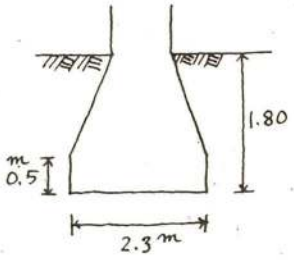
$l = 350\ cm$

$$f = \frac{10500}{405(1-0.02\times23} + \frac{40,600}{1,820} = 71.3 < 80$$

$$fs = \frac{3}{2}\cdot\frac{440}{405}\ 1.63 < 9.0$$

【6】基 礎 の 計 算

前記計算せる柱型の基礎に就き算定することとする



上部よりの荷重　41.50 t

自　　重　35.00 t

土　其　他　$\frac{3.50\ t}{80.00\ t}$　とす

Moment　0.2665 t.m

$$l = \frac{0.2665}{80.000} = 0.00334 < \frac{2.3}{6} = 0.38$$

$A = 4.4\times2.3 = 10.1 m^2$　　$S = \frac{4.4\times2.3^2}{6} = 3.87\ m^3$

$$f = \frac{80000}{10.1} \pm \frac{0.2665}{3.87} = 7.900 \pm 0.069 = +\ 7.969 < 15.000\ t/m^2$$

以 上

昭和15年4月發行

建築物强度計算用風壓規準

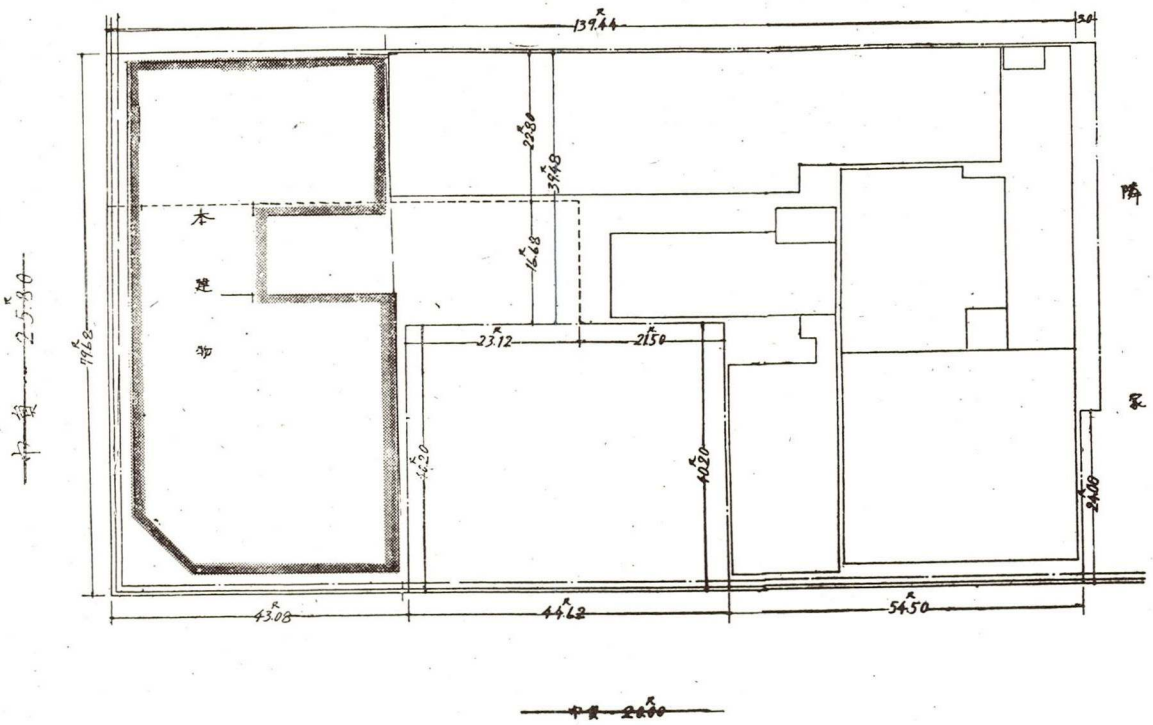
發行所・社團法人　日 本 建 築 協 會

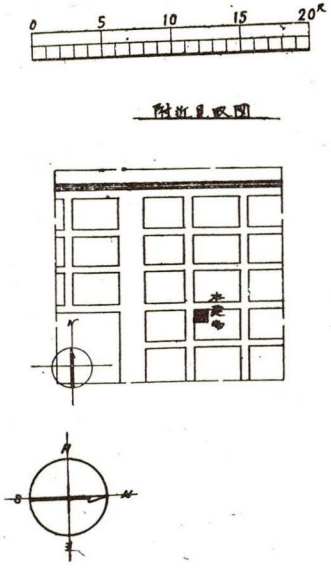
☆定價35錢

送料 3錢

振替番號大阪 39975番

第 I1 圖配置圖及見取圖

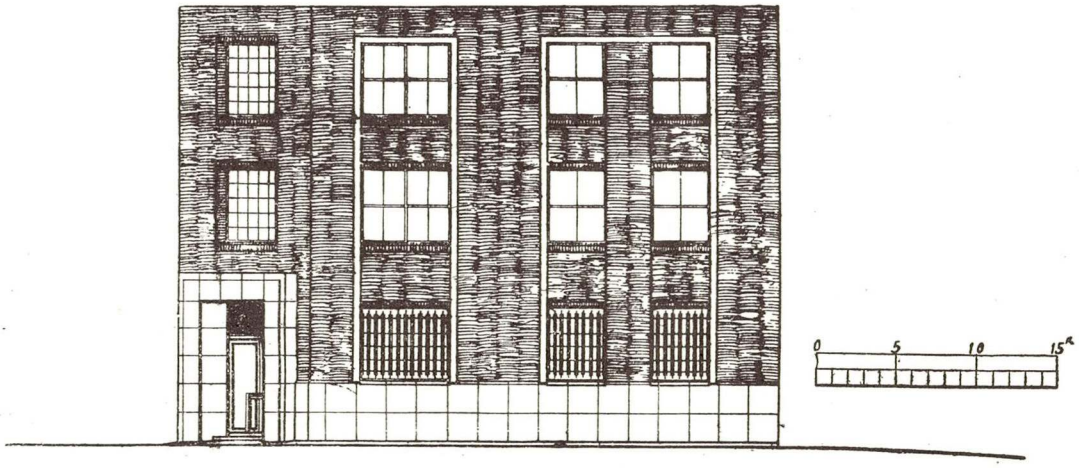


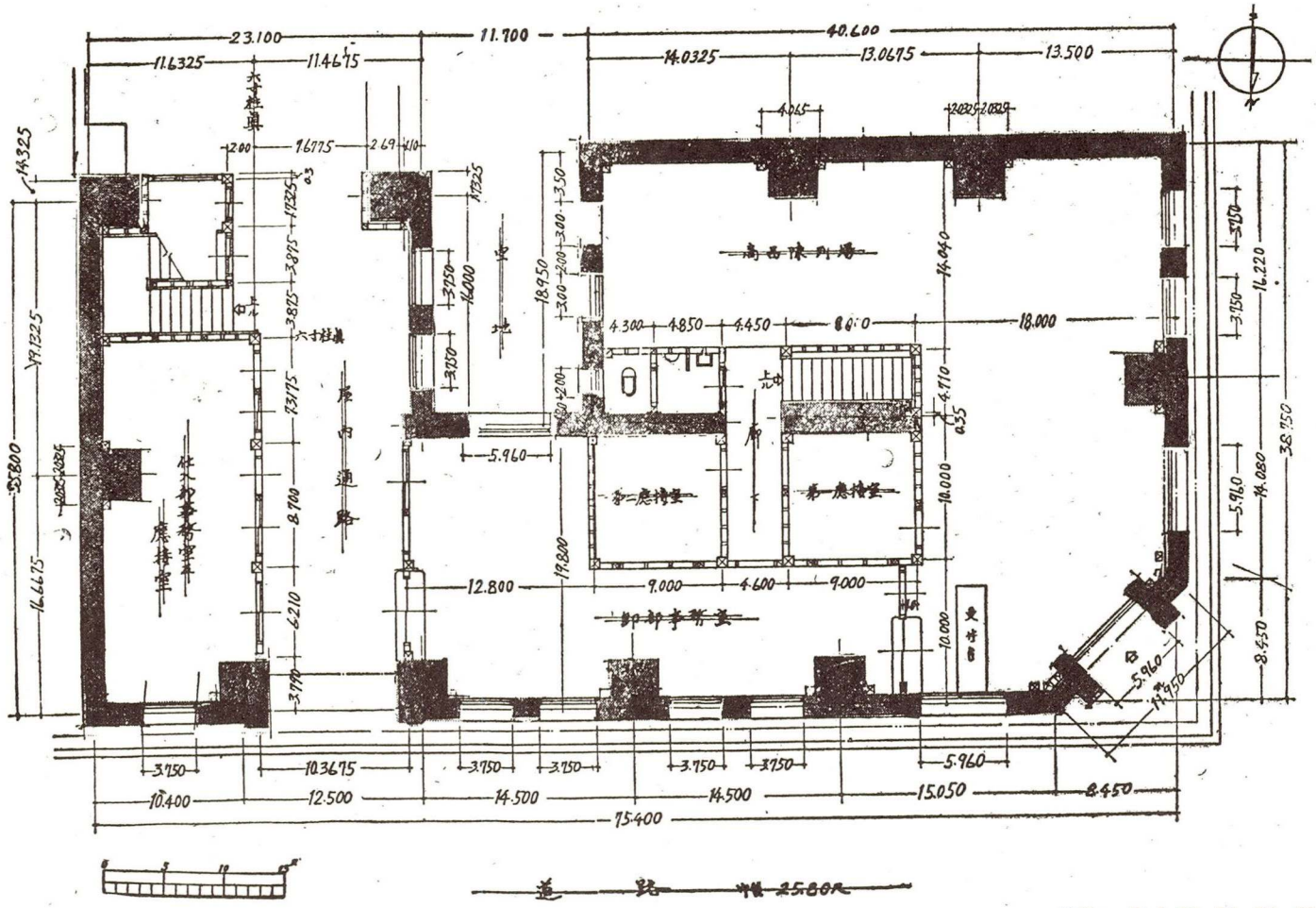


第I2圖北側立面圖



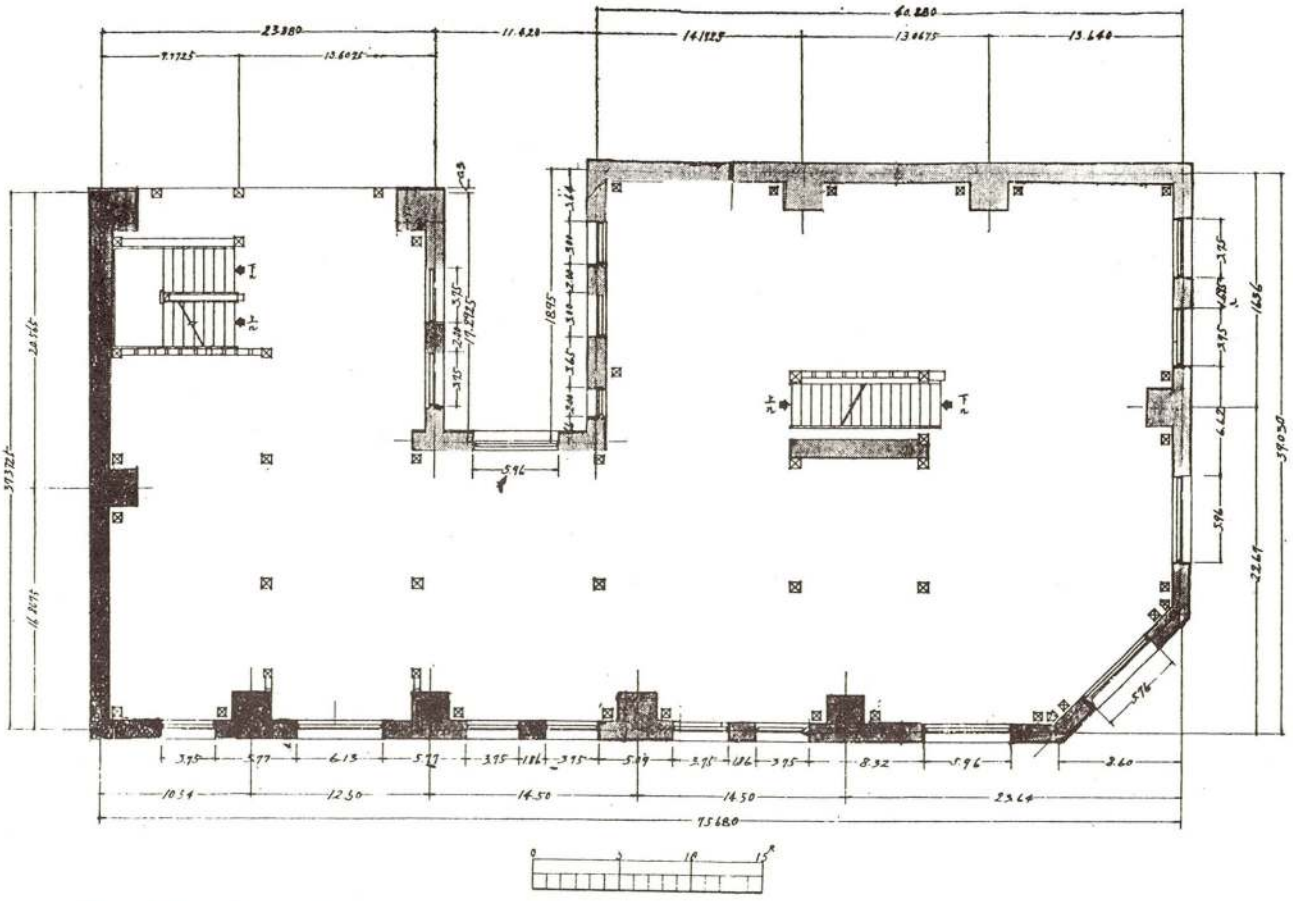
第I3圖西側立面圖



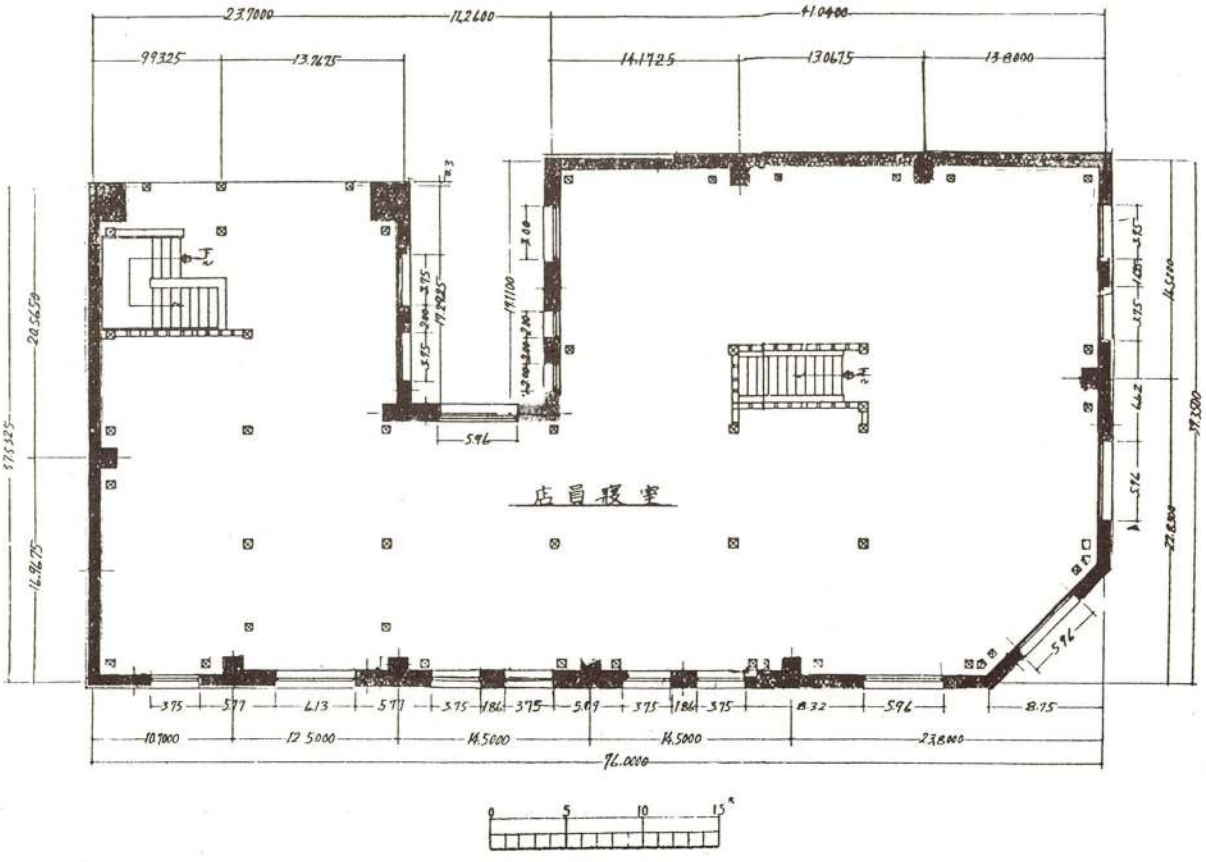

23.100
11.700
40.600
11.6325
11.4675
14.0325
13.0675
13.500
高西陳列場
第一應接室
第二應接室
即部事務室
廊下
六寸柱
鉄筋コンクリート造
18.000
12.800
9.000
4.600
5.960
10.3675
12.500
14.500
15.050
8.450
75.400

第I4 圖1階平面圖

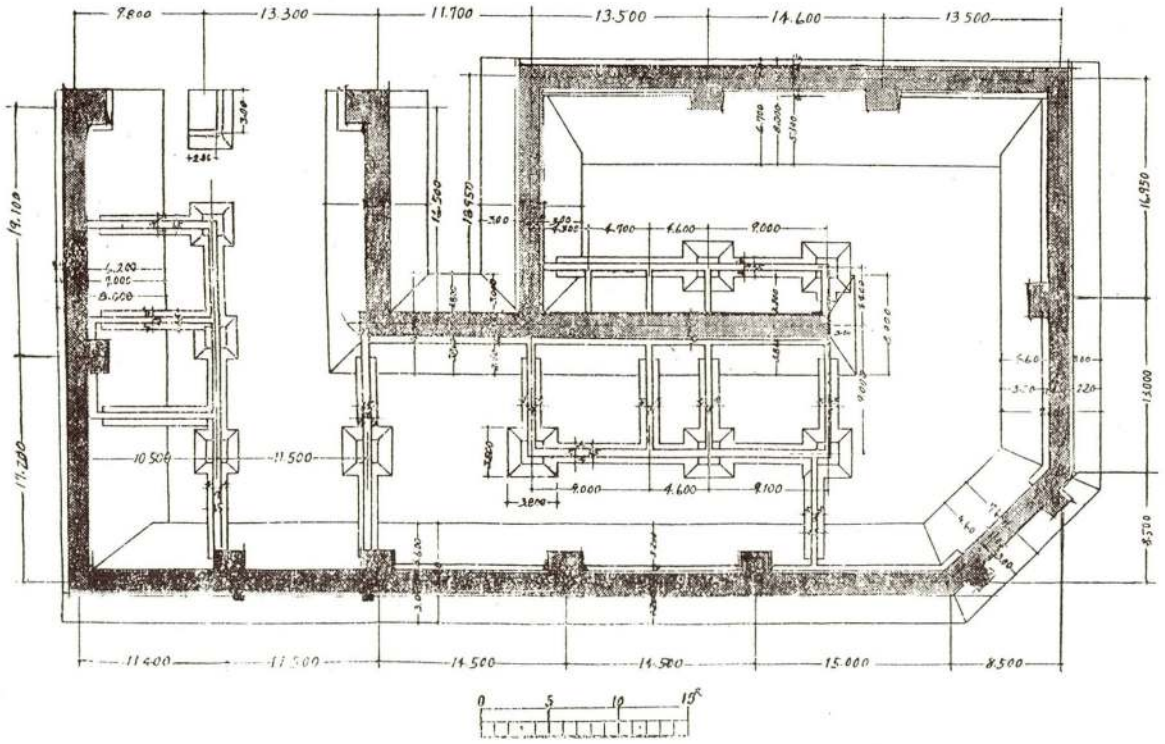
第Ⅰ6圖第2階平面圖



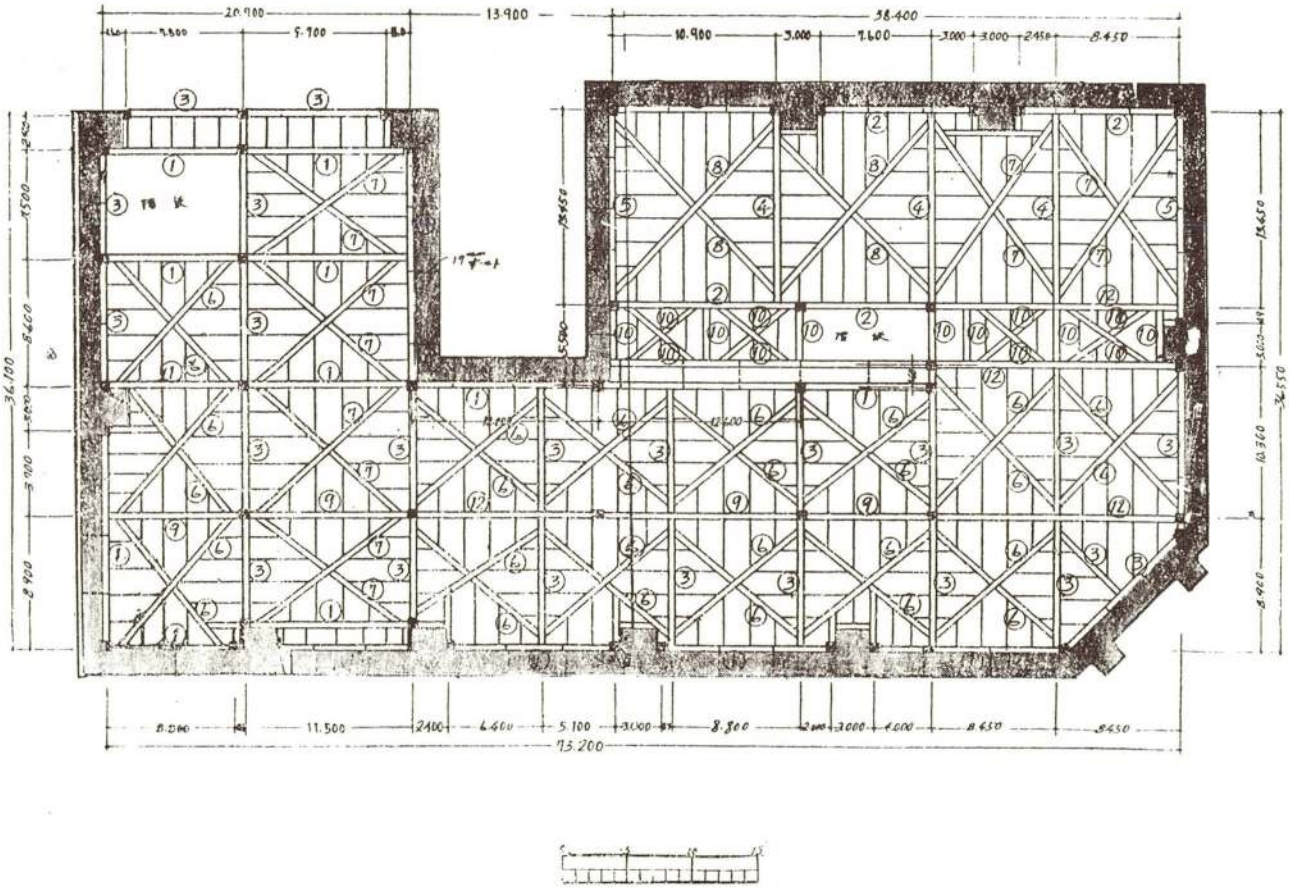
第Ⅰ6圖第3階平面圖



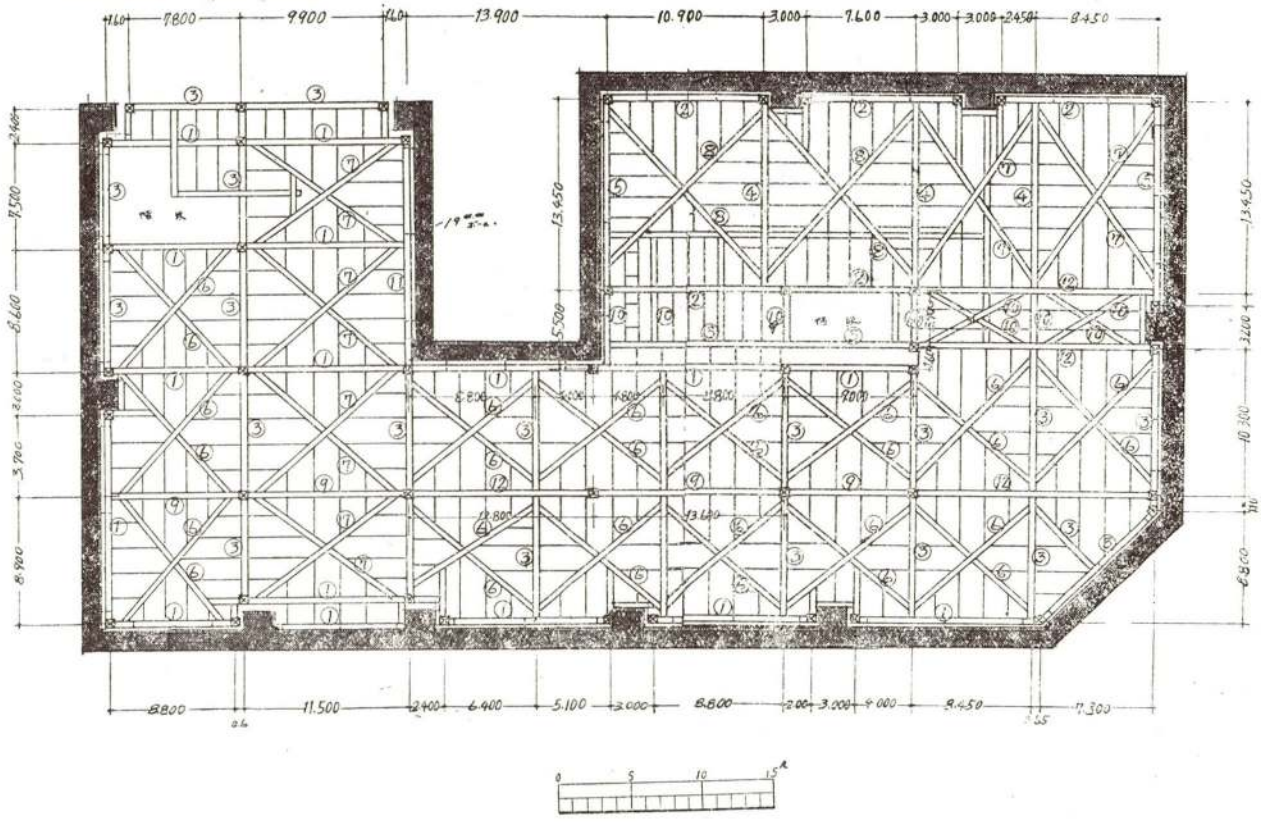
第I7圖基礎伏圖



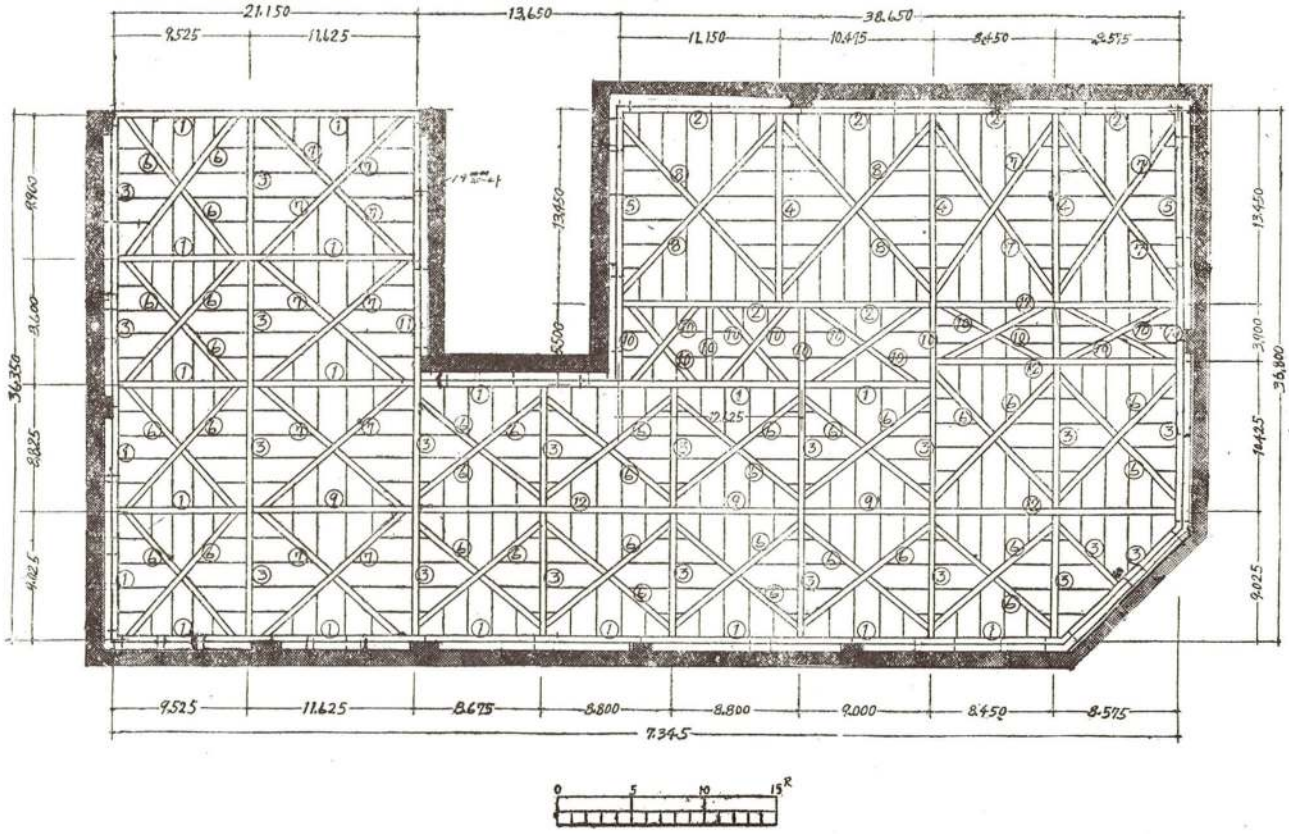
第I8圖第2階梁伏圖



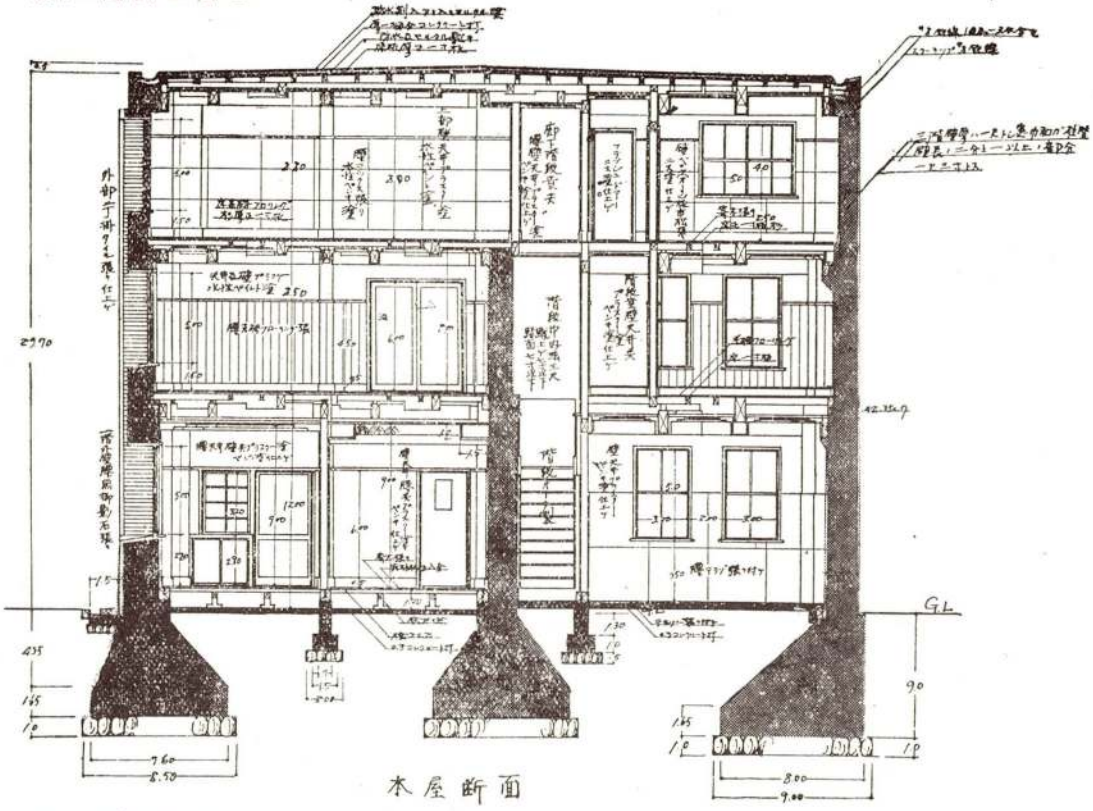
第I9圖第3階梁伏圖



第I10圖屋上階梁伏圖

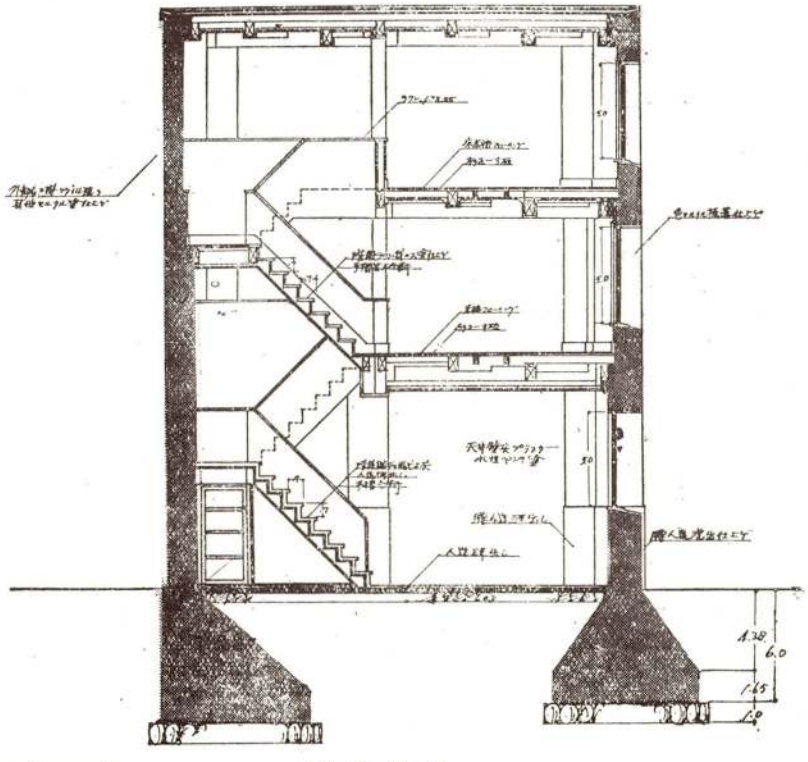


第I 11 圖 斷 面 圖 ①



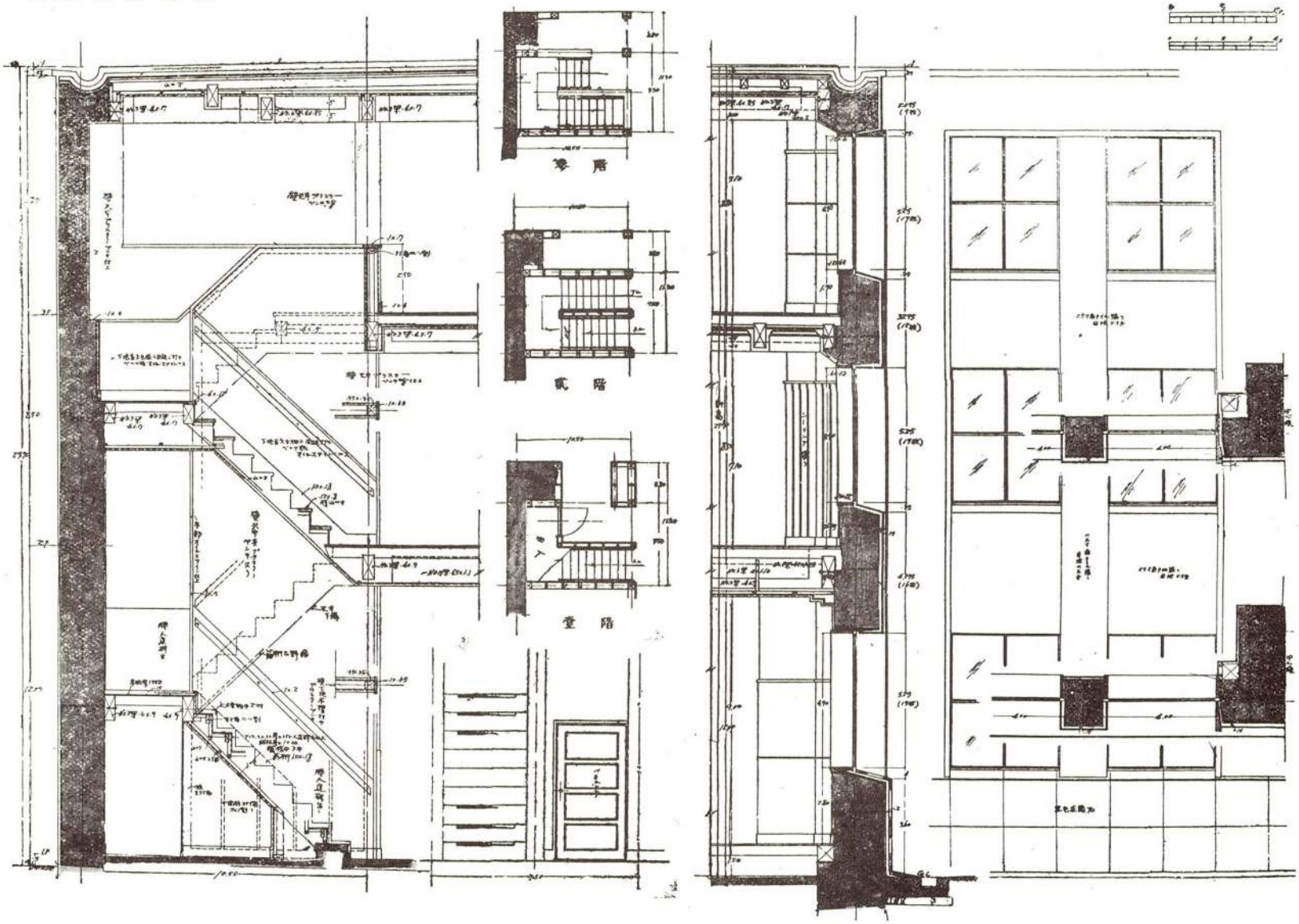
本屋斷面

第I 11 圖 斷 面 圖 ②

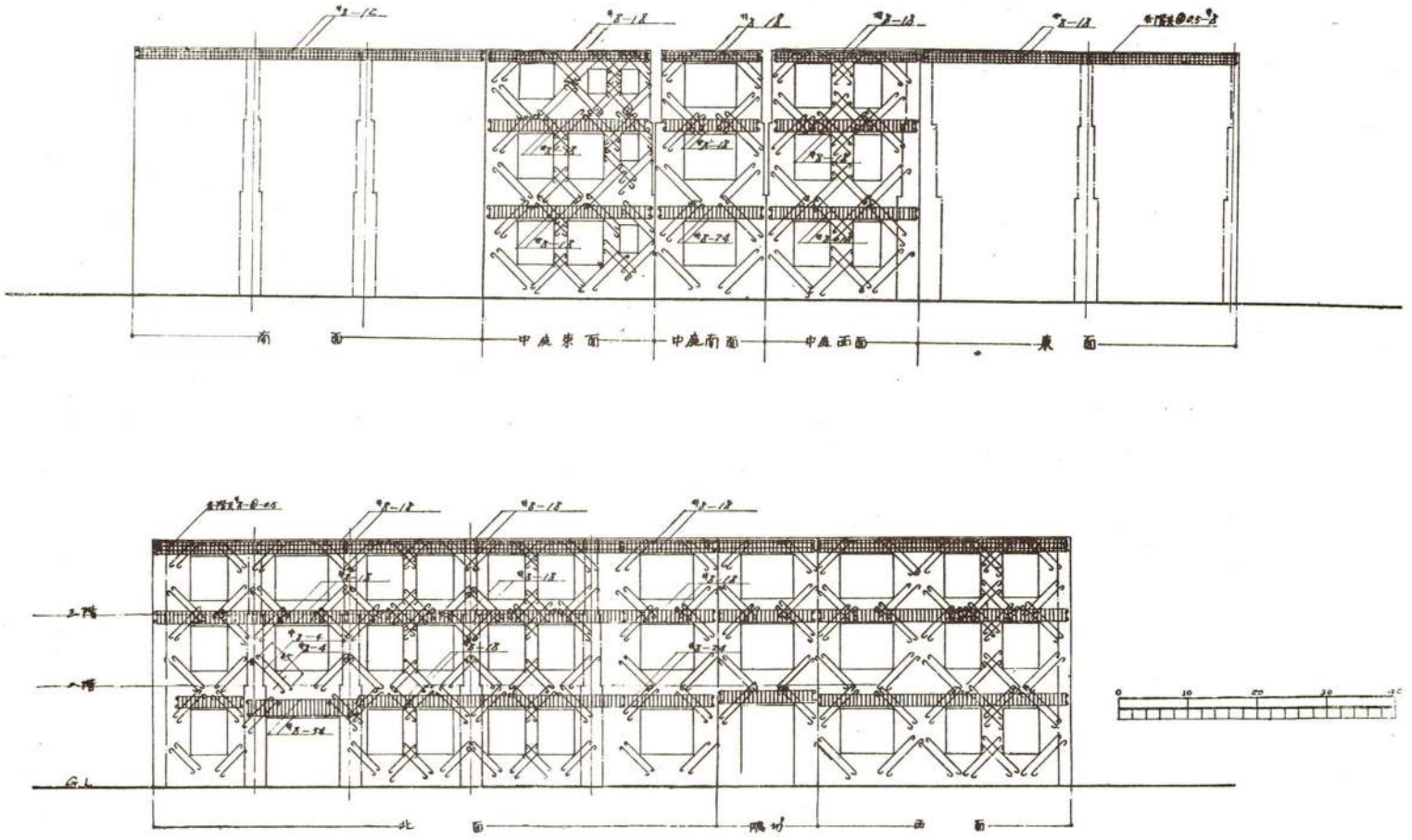


階段斷面

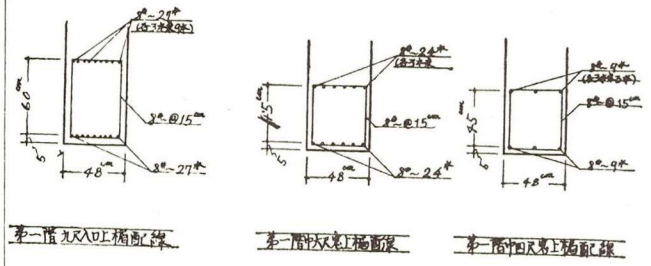
第I12圖詳細圖



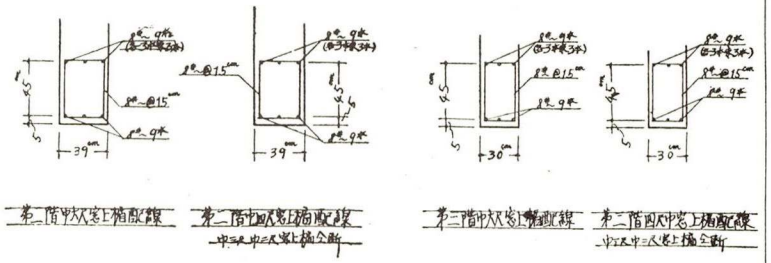
第Ⅰ-13圖補强配筋圖（#8鋼線使用）



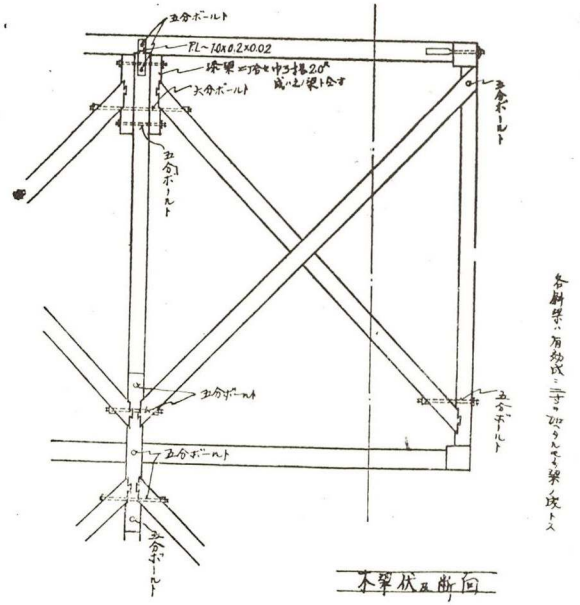
第Ⅰ14圖梁組窓楣部及木柱基礎の詳細



第一階入口上楣配線　第一階中大窓上楣圖梁　第一階中四尺窓上楣配線

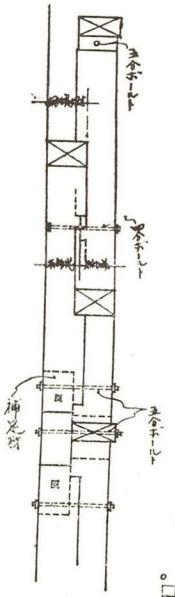


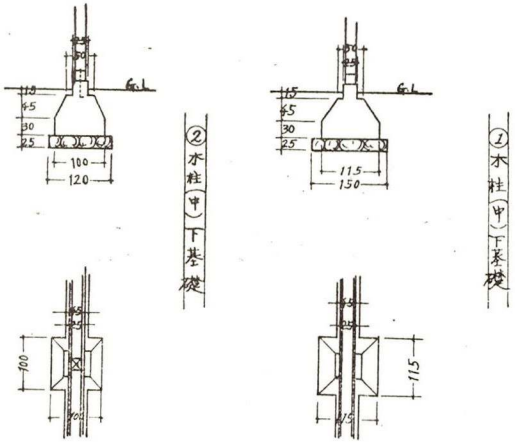
第二階中大窓上楣配線　第二階中四尺窓上楣配線　第三階中大窓上楣配線　第二階四尺中窓上楣配線



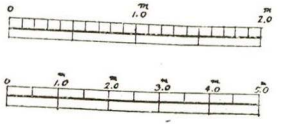
木架状斷面

各桁架ハ有効成ニ寸ノ切ラムセ梁成トス

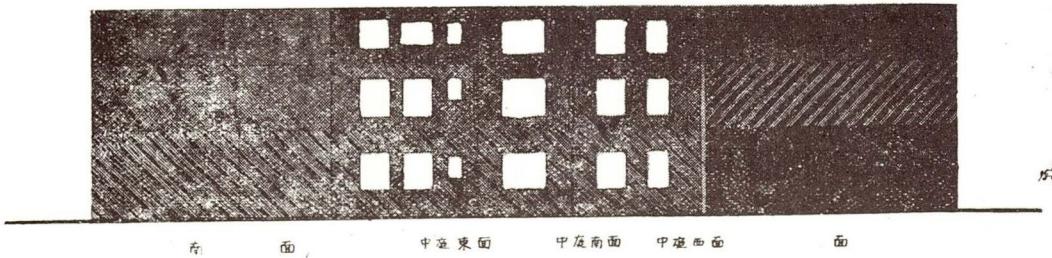


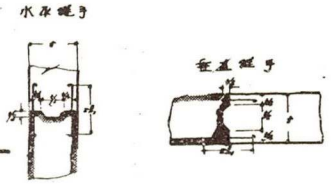


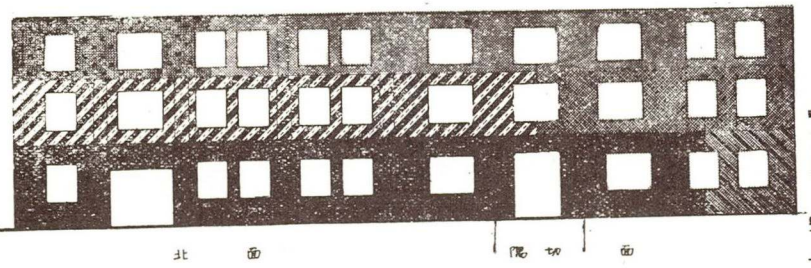
②木柱(甲)下基礎　①木柱(甲)下基礎

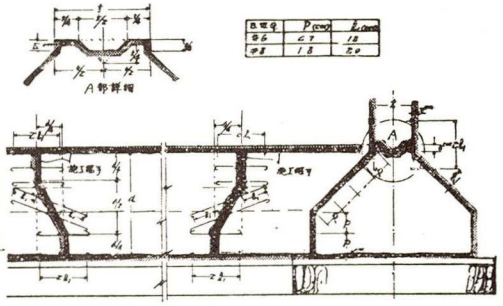


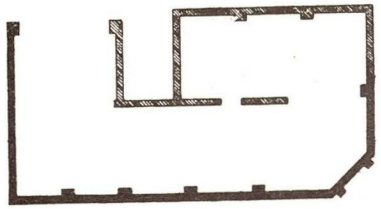
第Ⅰ15圖コンクリート打の計畫及コンクリート打繼部の詳細

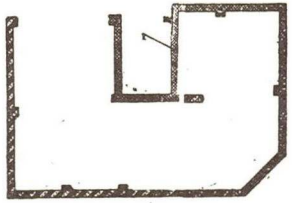


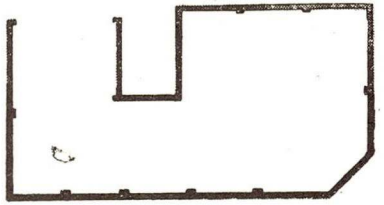


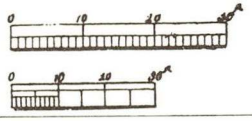






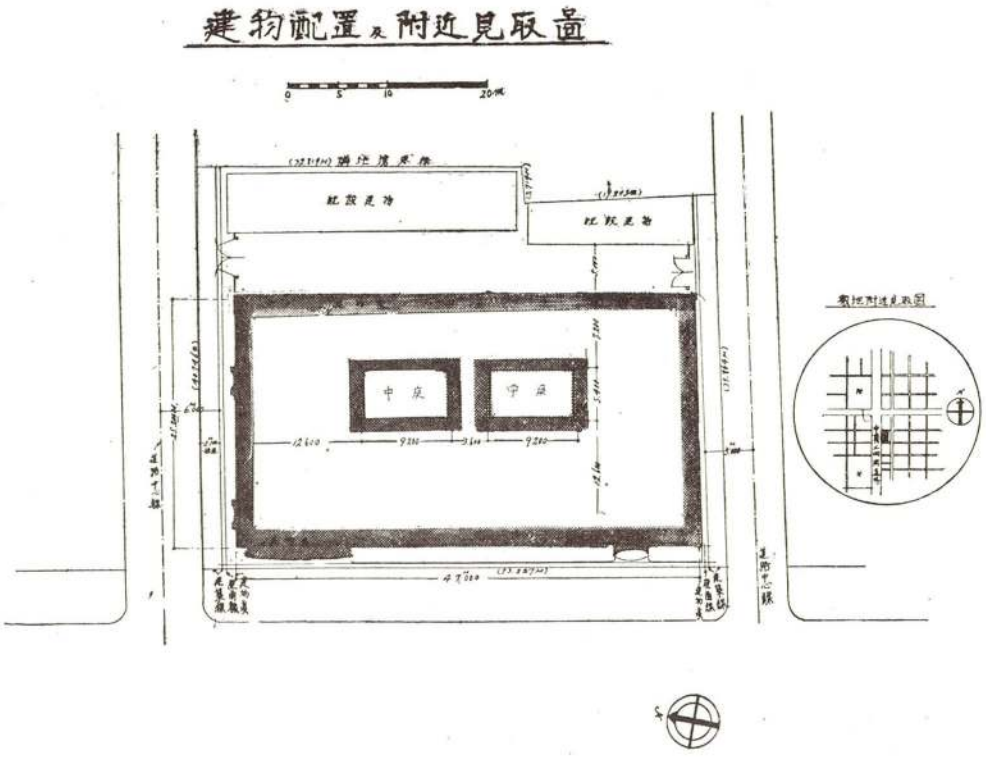




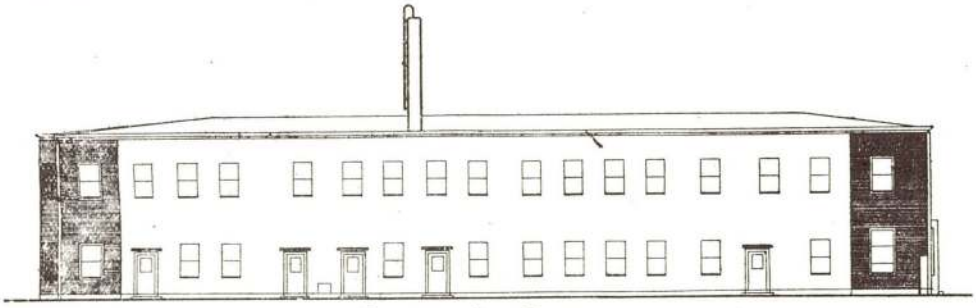


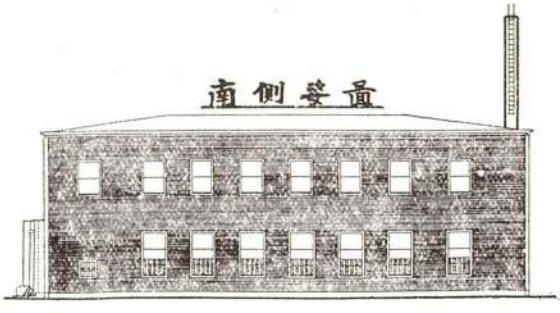
（b） 事務所設計例（其の2）

第Ⅱ1圖配置圖及見取圖

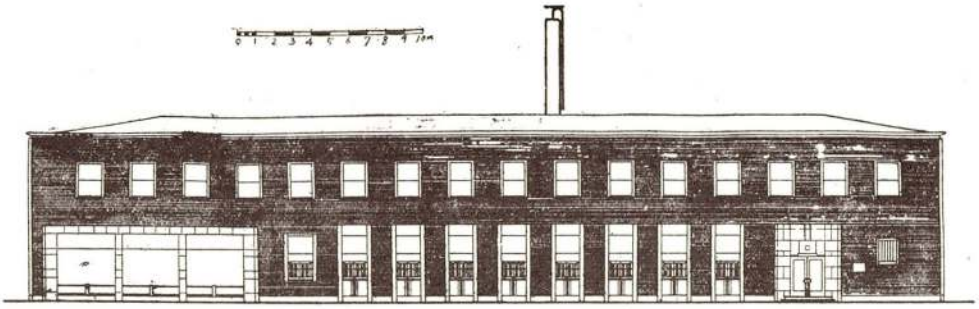


第Ⅱ2圖立面圖①





第Ⅱ2圖立面圖②



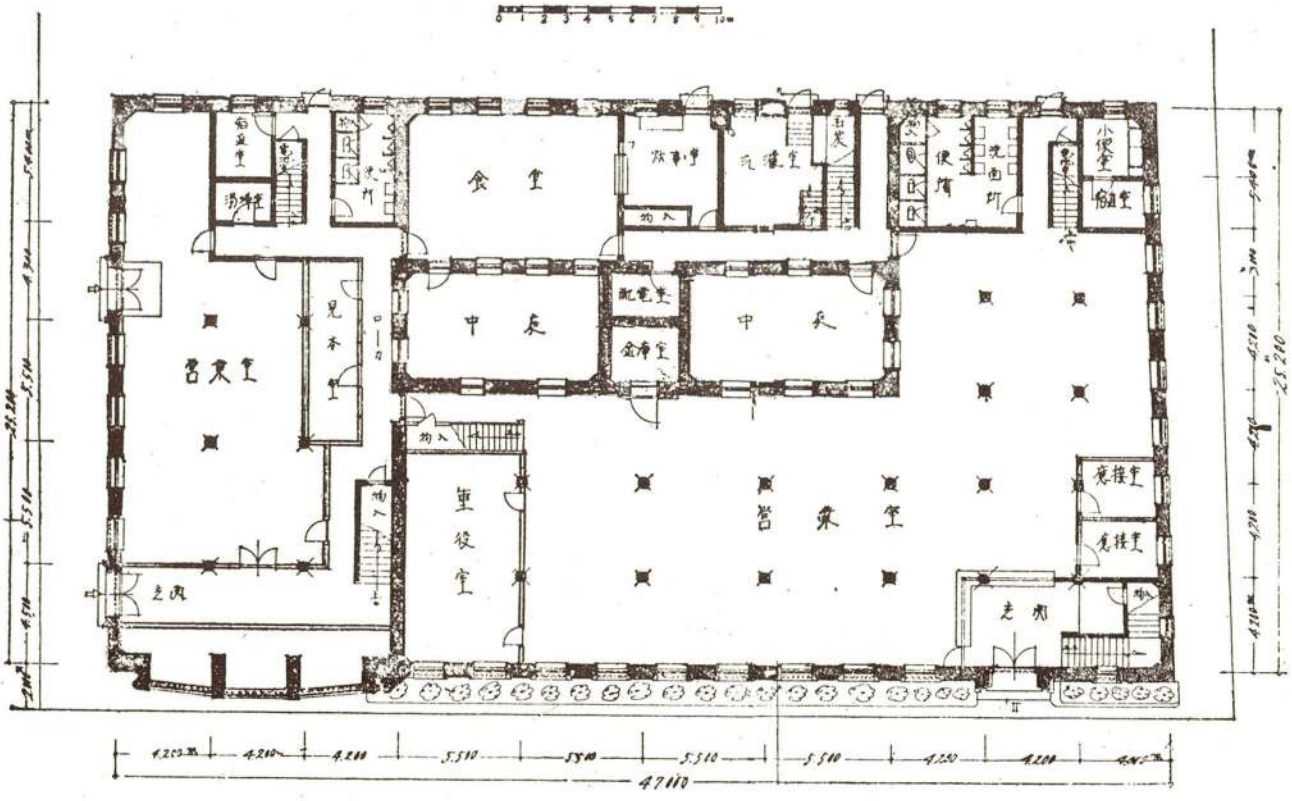
西側姿圖

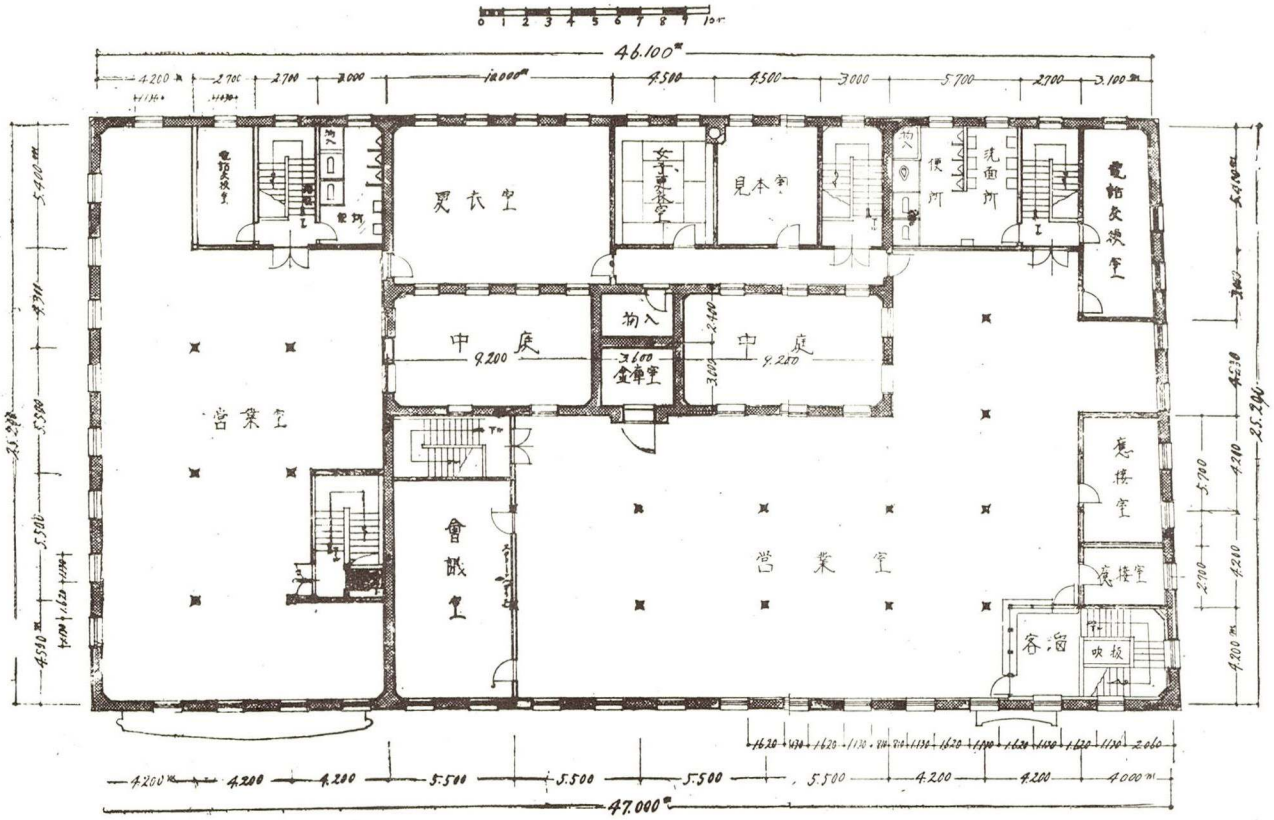


北側姿圖

第Ⅱ3圖第1階平面圖

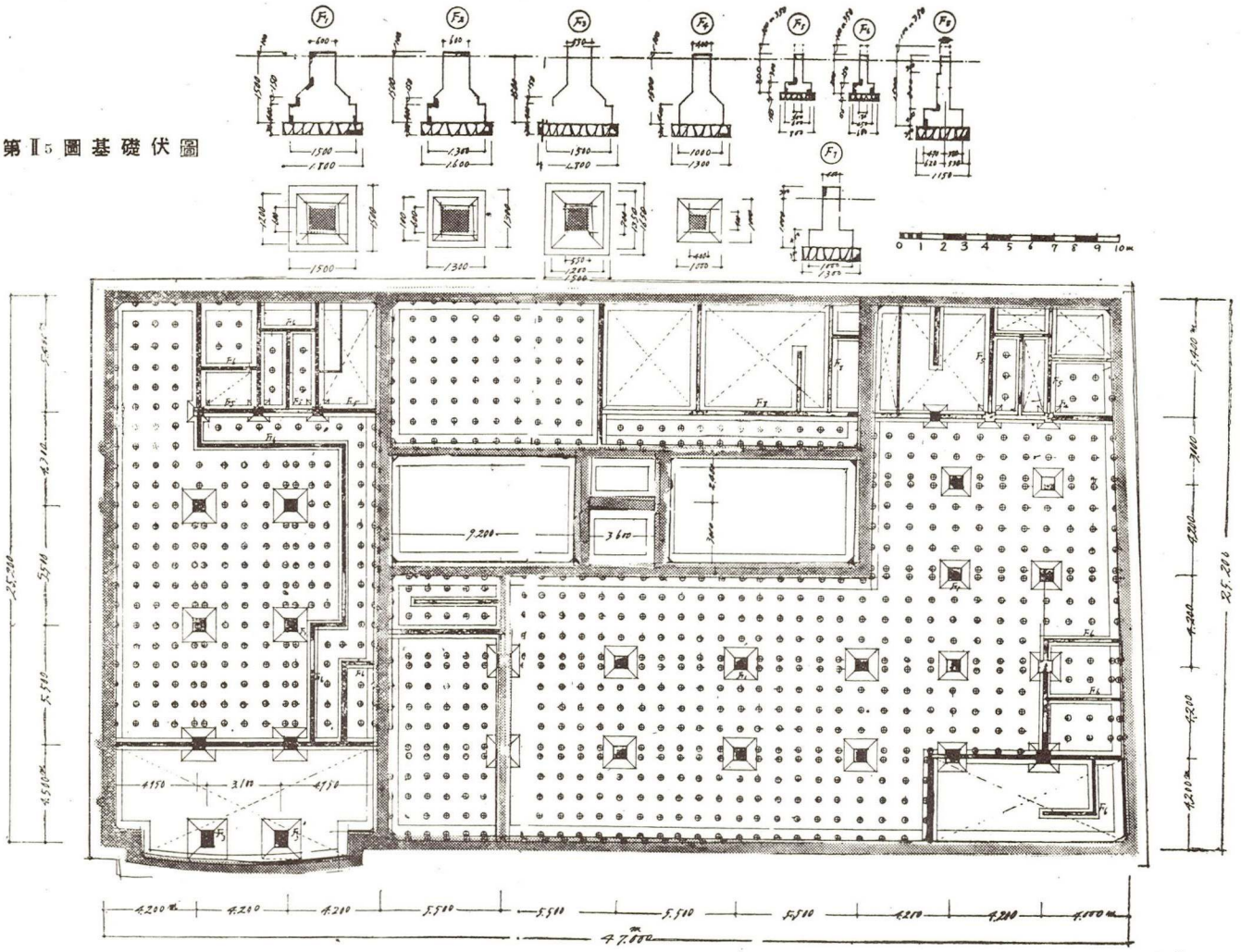
1階平面圖




0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10m
46.100m
4.200
2.700
2.700
3.000
12.000m
4.500
4.500
3.000
5.700
2.700
3.100m
更衣室
見本室
女子便所
男子便所
電話交換室
中庭
9.200
物入
金庫室
3.600
中庭
9.280
2.400
3.000
営業室
会議室
営業室
応接室
応接室
湯沸
吹抜
5.700
4.210
4.210
2.700
4.200
25.200
4.200
4.200
4.200
5.500
5.500
5.500
5.500
4.200
4.200
4.000m
47.000m

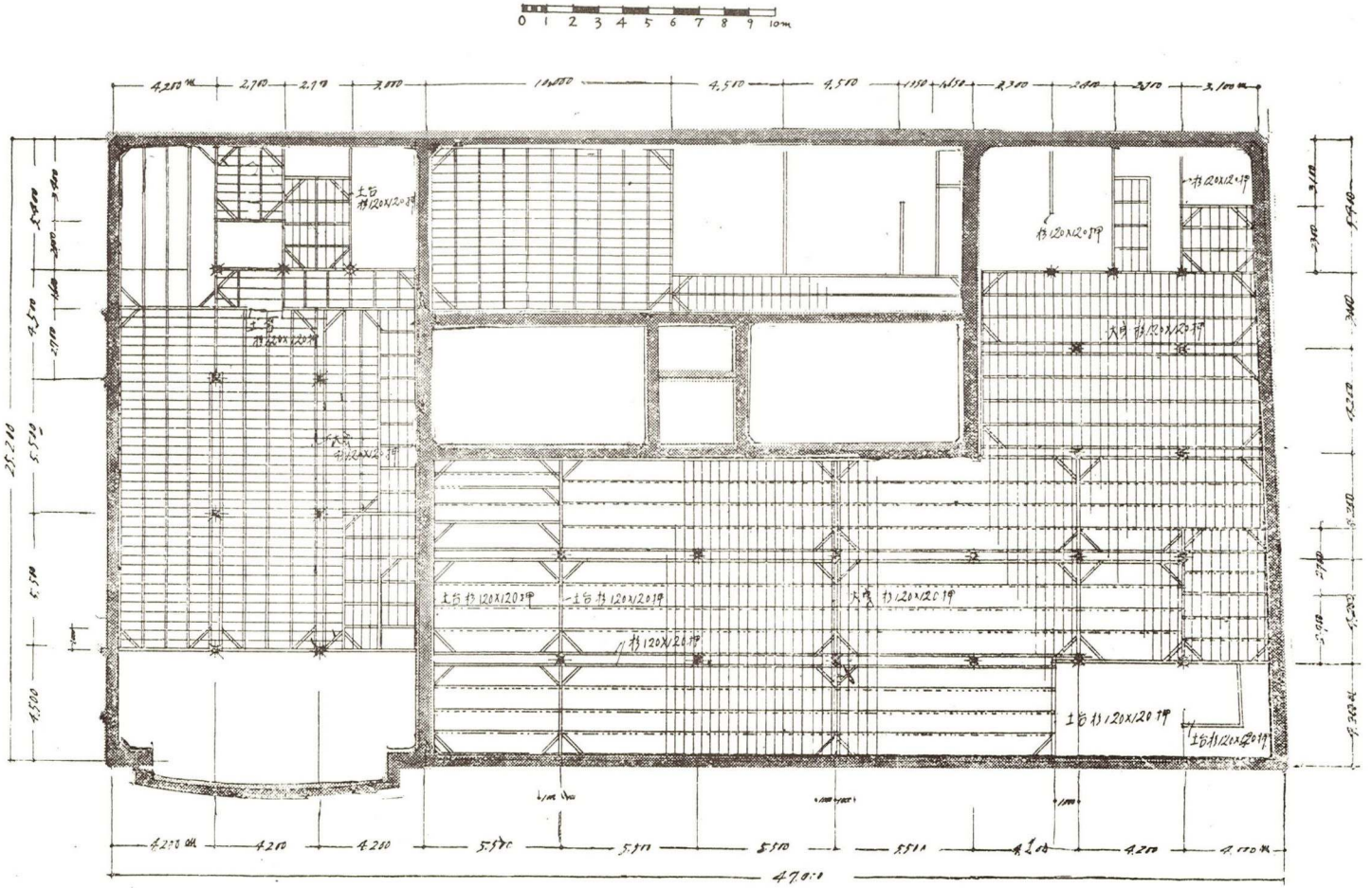
第Ⅱ-1圖 第2階平面圖

第Ⅱ5圖 基礎伏圖


F1
F2
F3
F4
F5
F6
F7
0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10m
9.200
3.610
4.150
3.170
4.150
25.210
47.800

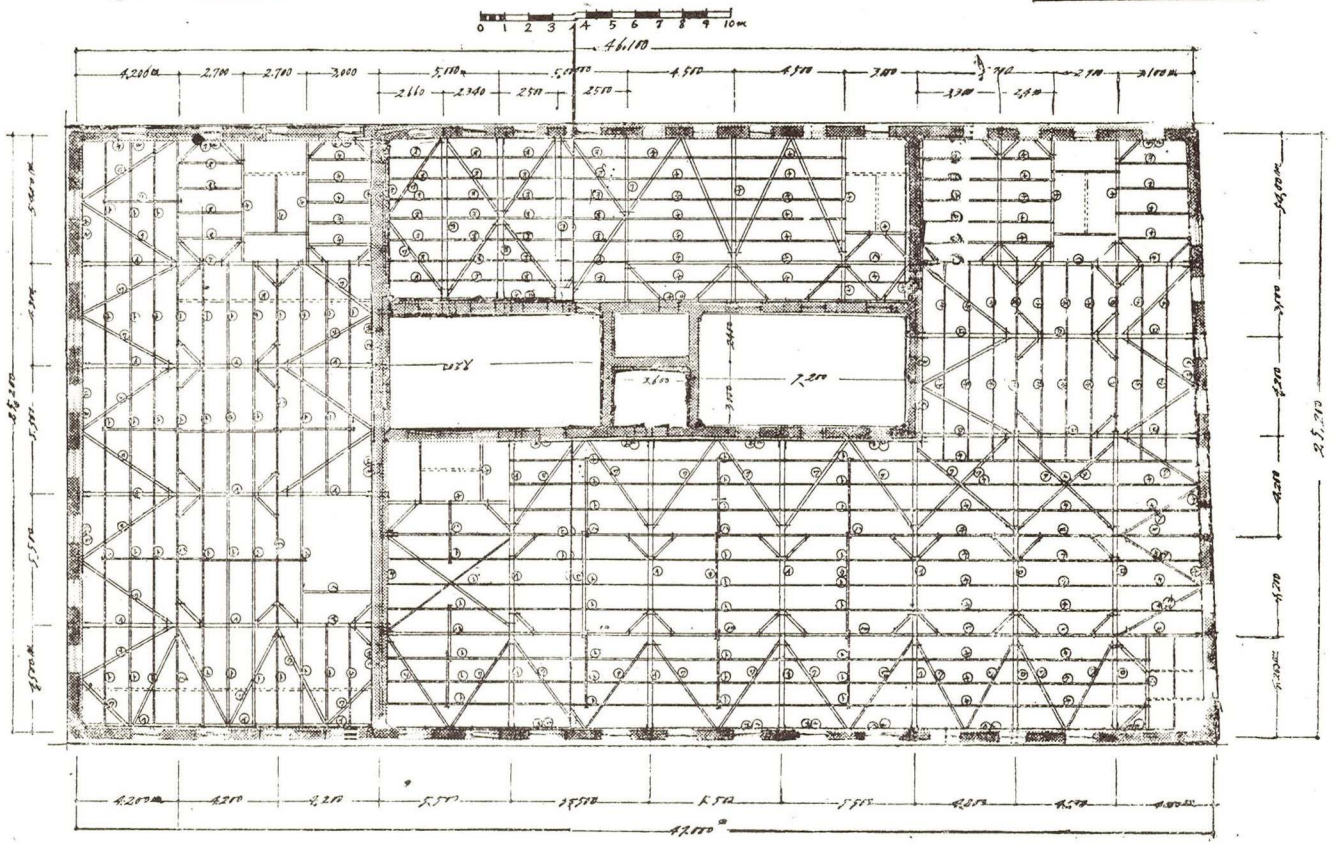
第Ⅱc圖第1階床伏圖

1階床伏圖



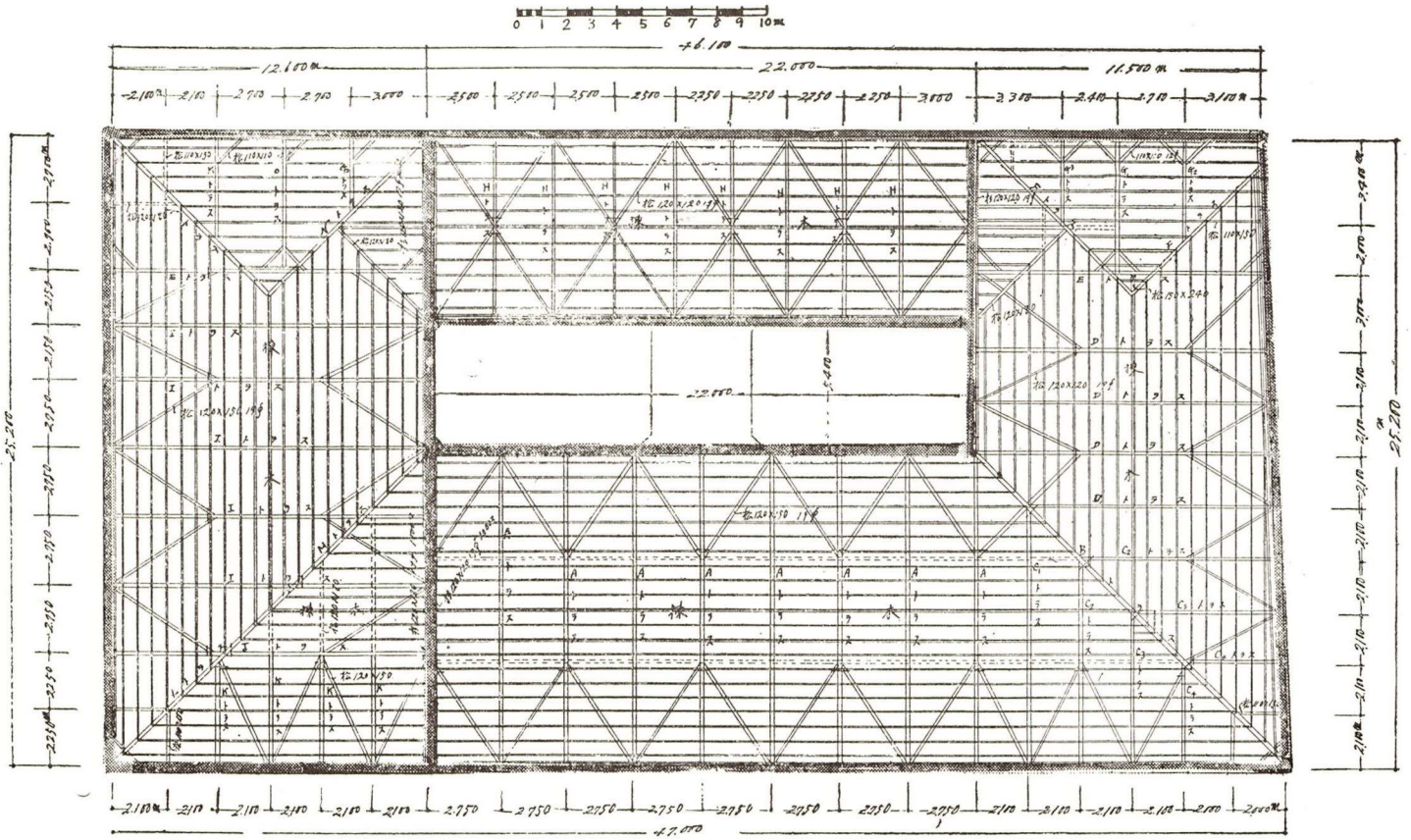
第Ⅱ7圖 第2階床伏圖

2階床伏圖



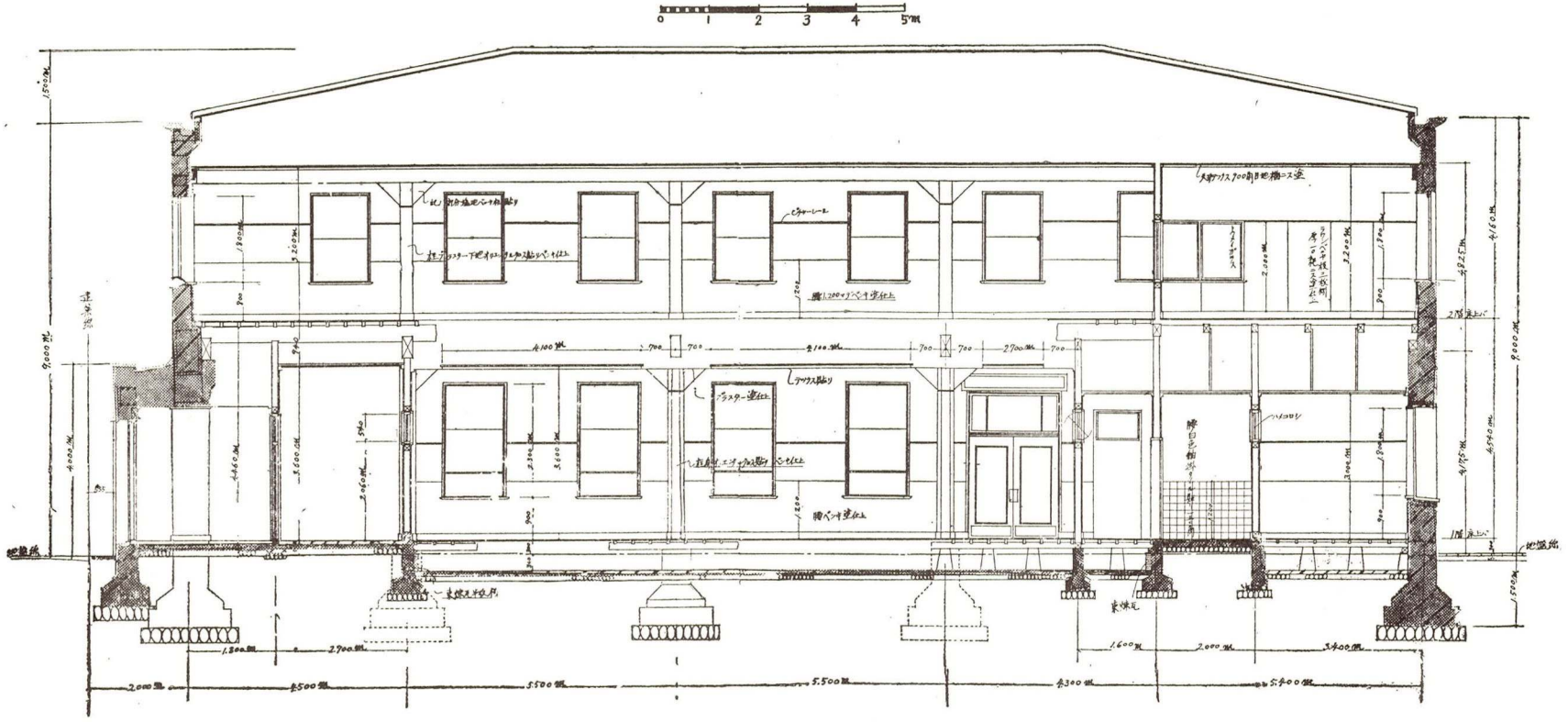
第Ⅱs圖

小屋仗畫

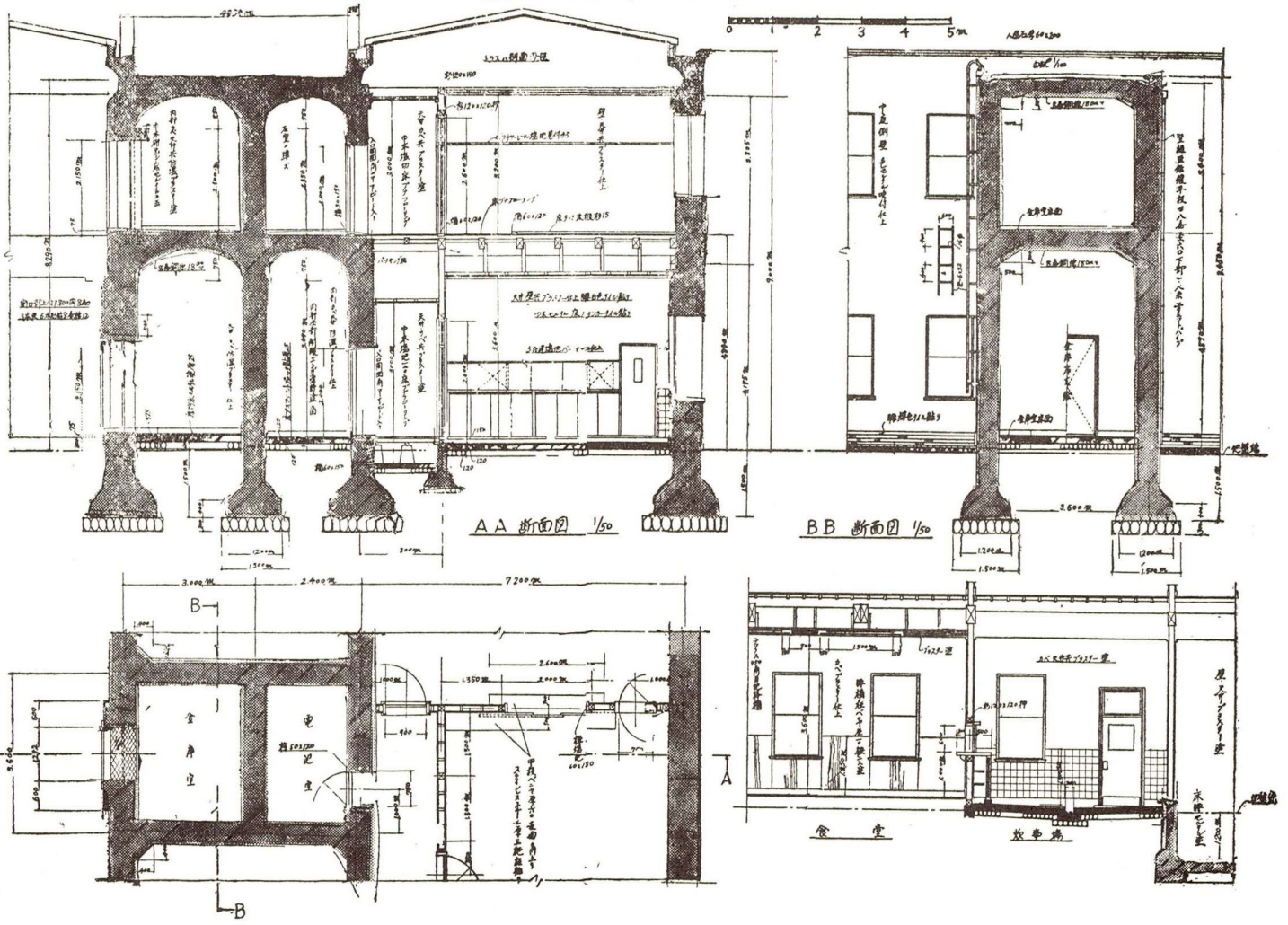


第Ⅱ9圖 斷面圖①

斷面圖

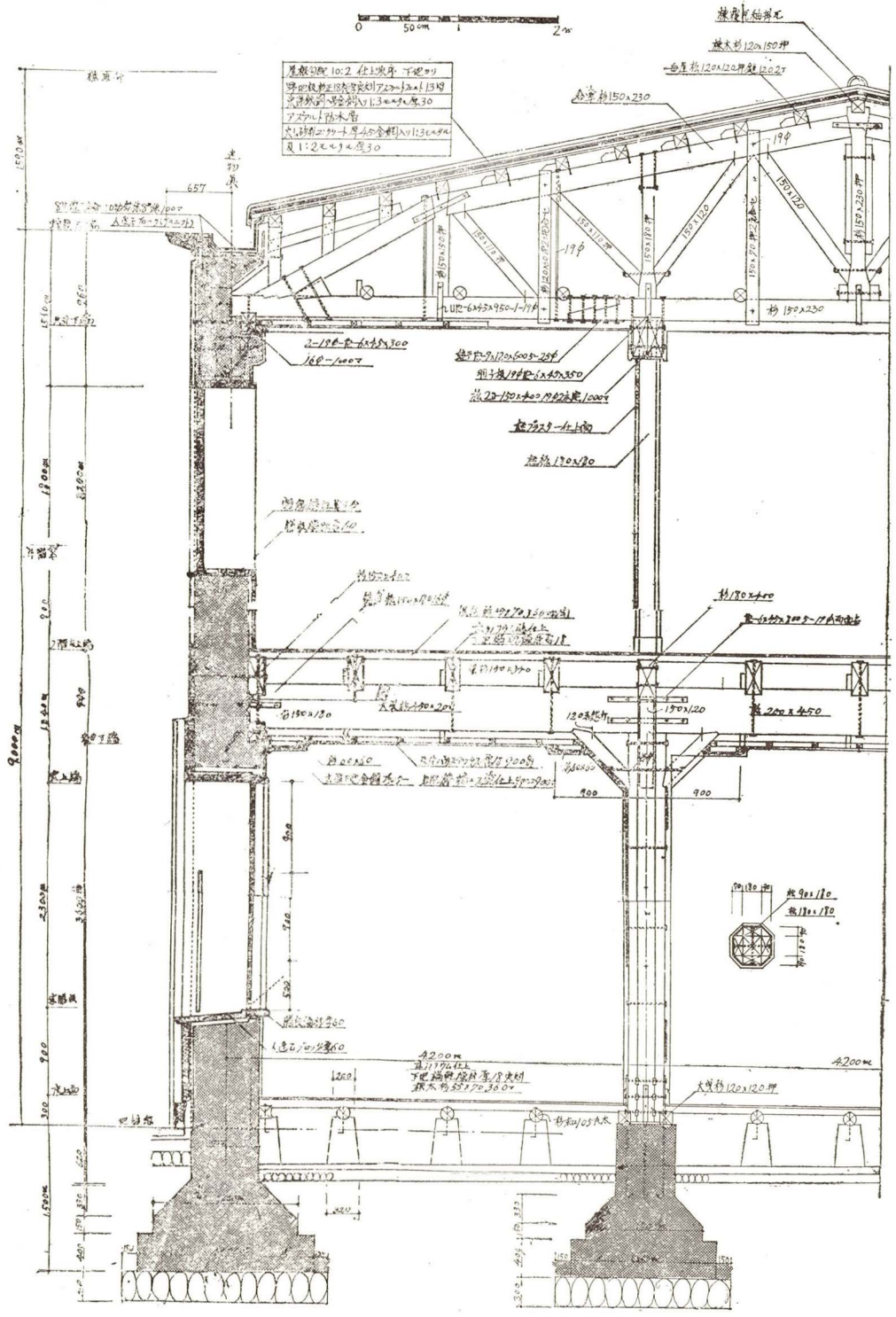


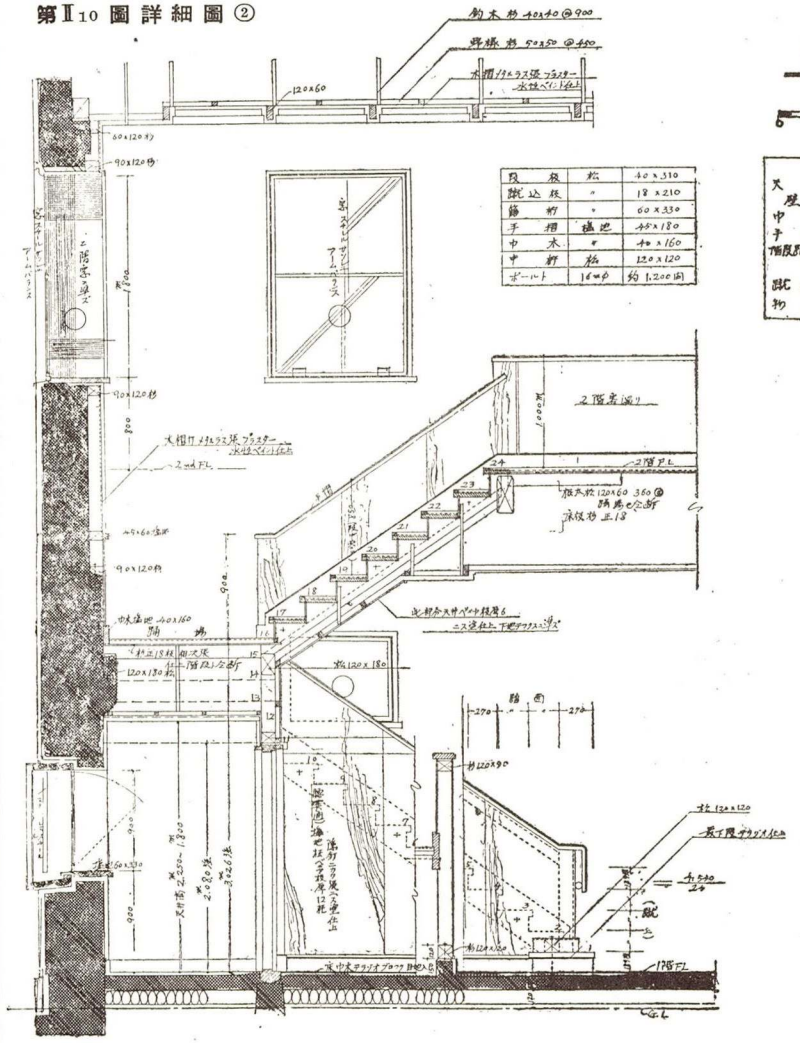
斷面圖



第Ⅱ10圖詳細圖①

一般矩形梁





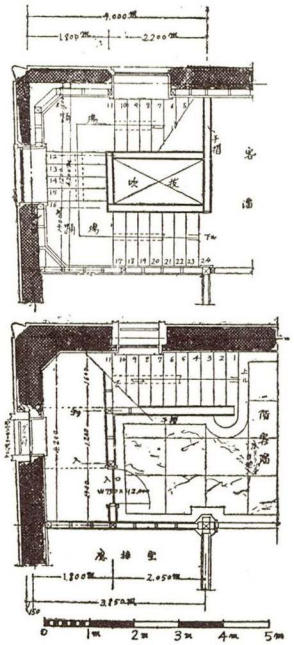
階段詳細圖

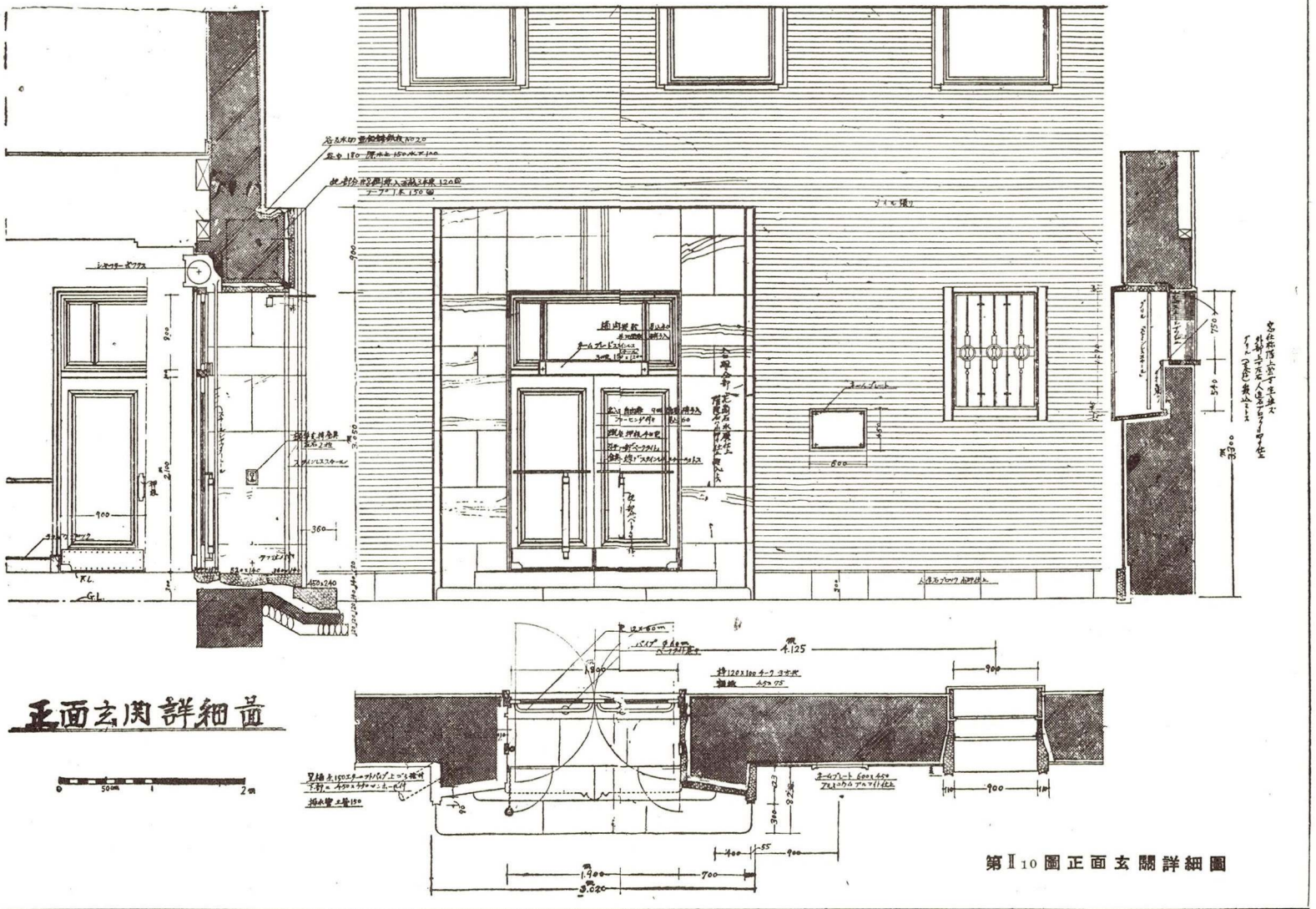


A号階段及階段室仕上及仕様

天井	デリカス張 プラスターペイト仕上及ペヤキ板ニス塗仕上
壁	プラスターペイト仕上 腰ペヤキ板ニス塗仕上
中木	樫肥材ニス塗仕上
手摺	〃
蹴込	樫肥
物入	床モルタル 中木モルタル 天井壁 プラスター

階段昇降路廻りと二階室内床 〃 形正18組木目(但し段板は樫肥材)ラス張モルタル塗リノリューム張仕上

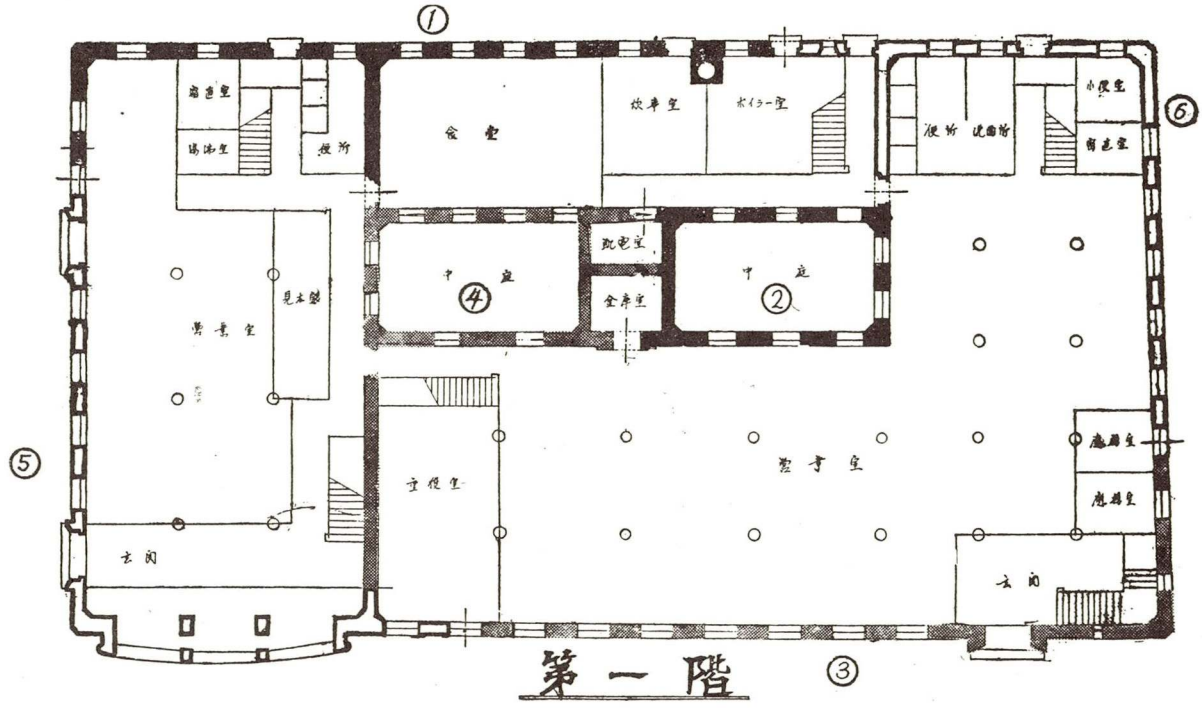

4,000㎜
1,800㎜
2,200㎜
吹抜
階段室
廊下
3階
2階
1階
廊下
廊下
廊下

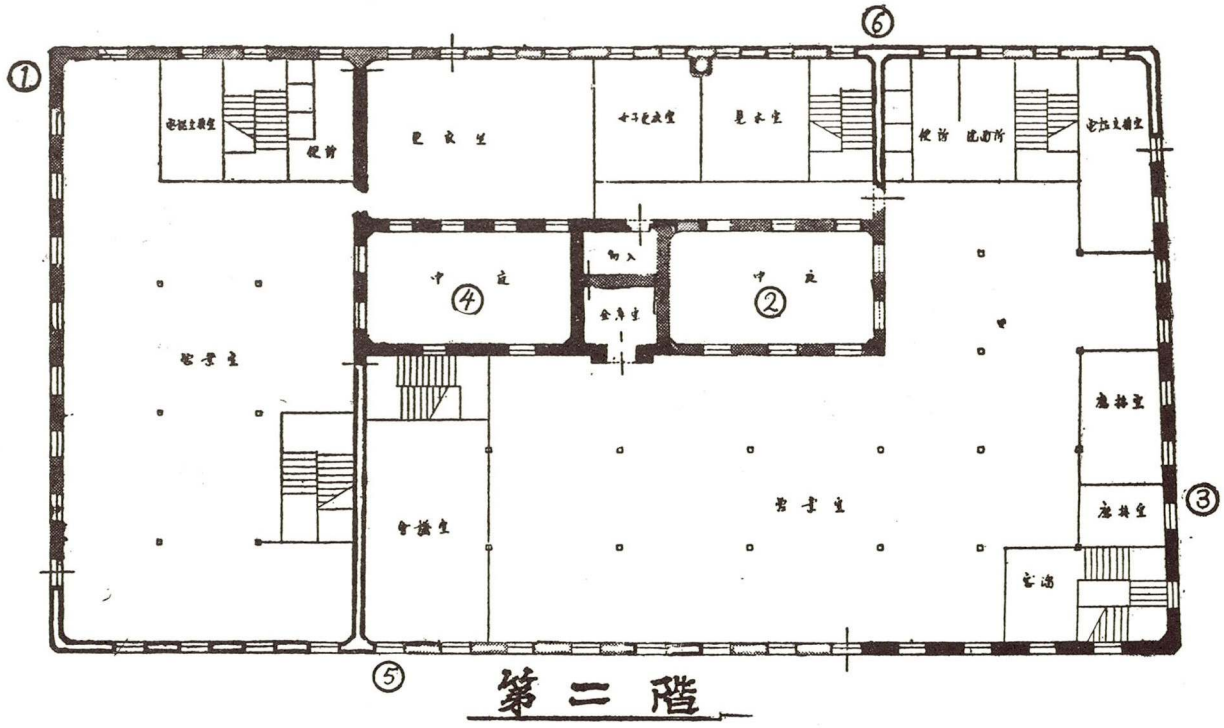


第Ⅱ10圖正面玄關詳細圖

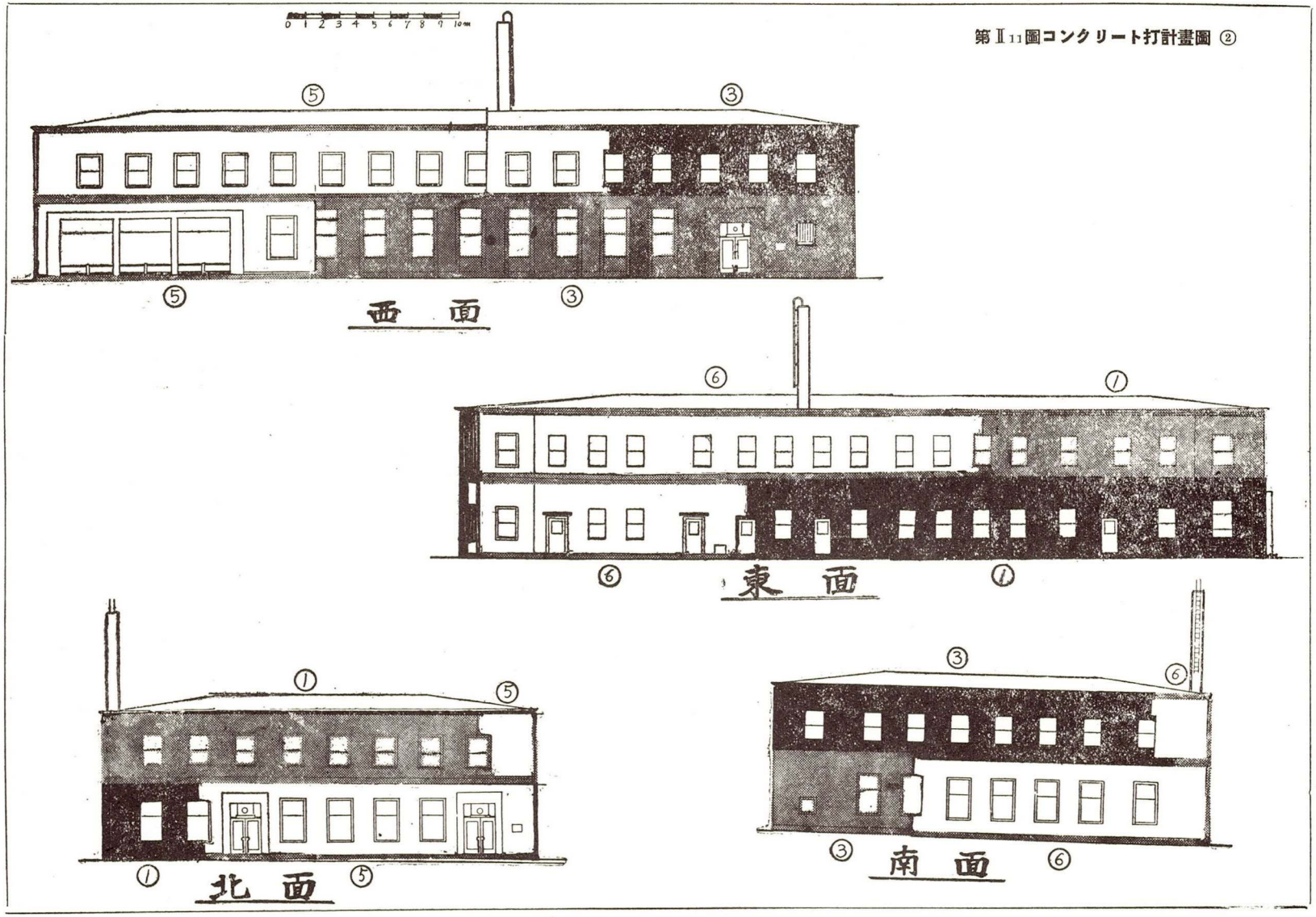
第Ⅰ11圖コンクリート打計畫圖①

（圖中の數字はコンクリート打順序を示すものとす）



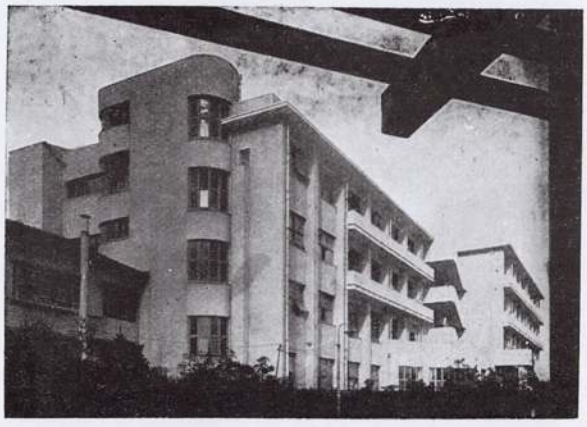


第Ⅱ11圖コンクリート打計畫圖 ②



玄關車寄

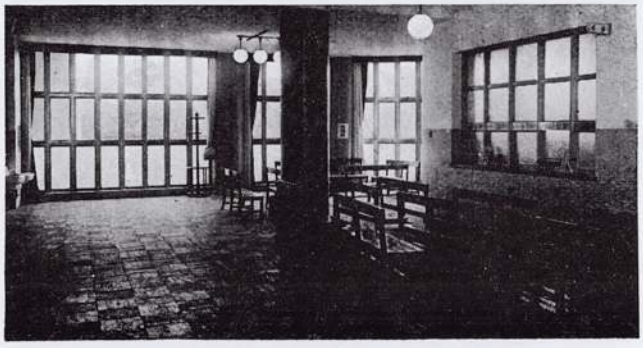




西側外觀



背面全景

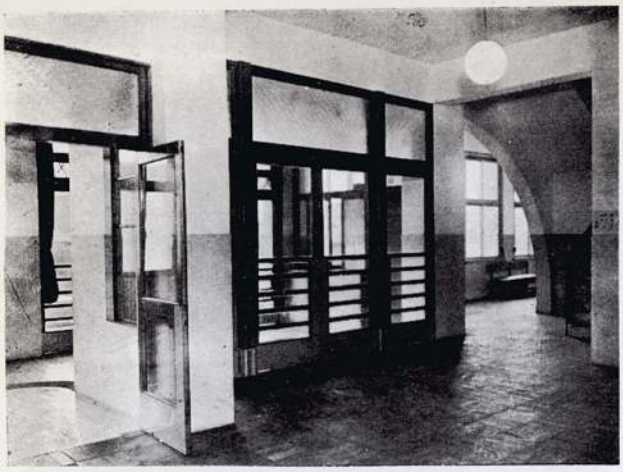


待合所

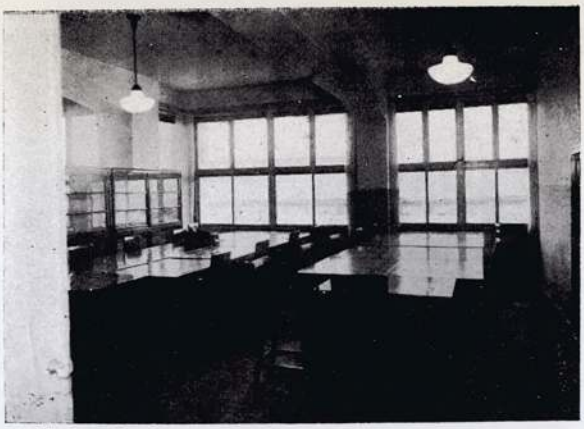
所在地	大阪市此花區西野下之町11番地
起工	昭和13年6月25日
竣工	昭和15年6月5日
敷地面積	3.298.623m²
收容定員	有料92床．無料98床
總工費	1.172.197圓
建築面積	1.934.257m²
延面積	6.550.639m²

（大阪）市立北市民病院

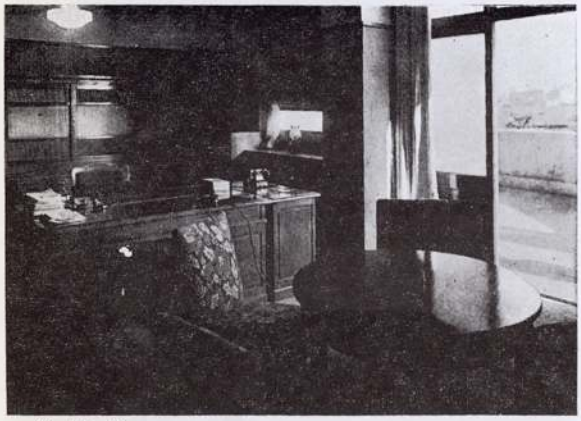
設計・市建築部
施工・鴻池組



玄關ホール



醫　局



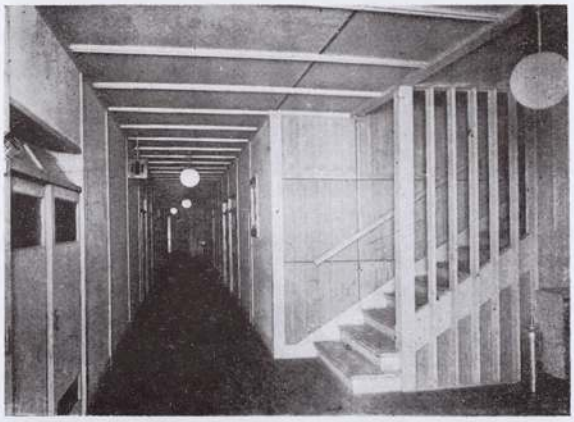
院長室



食堂兼娯樂室

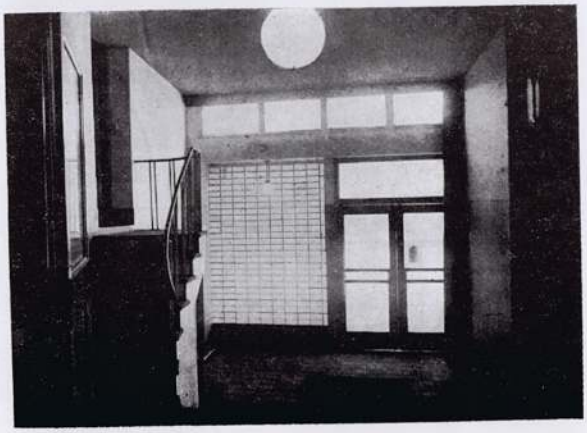


講習室



看護婦寄宿舍廊下

構造・本　館・鐵筋コンクリート造4階建1部地階塔家付
附屬館・鐵筋コンクリート造地階建煙突コンクリート造一基付
看護婦寄宿舍・木造2階建
自動車々庫・木造平家建
ポンプ室・地下2階鐵筋コンクリート造
滅菌機室・木造平家建

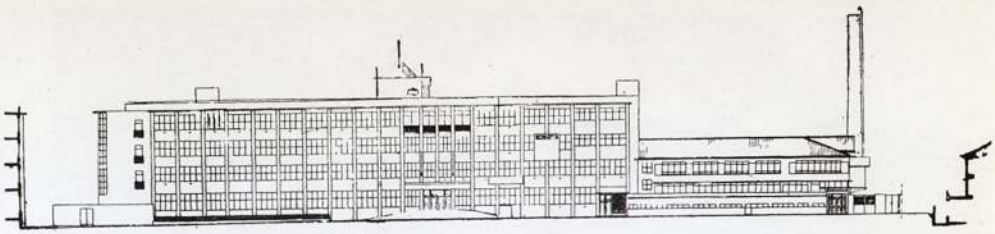


夜間出入口

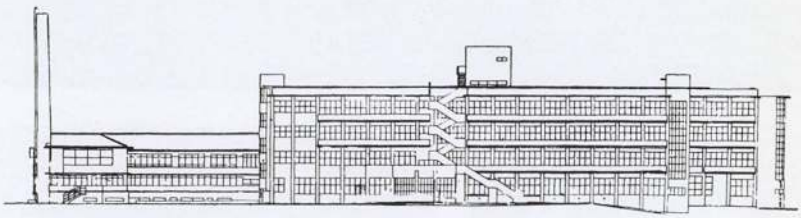
設計・市建築部
施工・鴻池組

（大阪）市立北市民病院

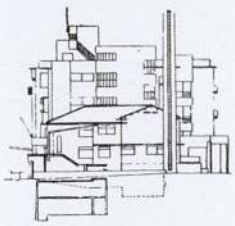
1. 車寄せ
2. 玄關
3. 下足
4. 受付
5 醫間 51 待合所
6. 事務室
7. 藥局
8. 銀行
9. 小兒科
10. 內科
11. 內科特別診療室
12. 檢尿室
13. ポンプ室
14. 宿直室
15. 便所
16. 物置
17. レントゲン裝置室
18. レントゲン室
19. レントゲン診療室
20. 外科診療室
21. 小手術室
22. 準備室
23. 大手術室
24. 材料整備室
25. 脫衣室
26. 浴室
27. 產婦人科
28. 分娩室
29. 處置室
30. 夜間出入口
31. 同上玄關
32. 賣店
33. 看護婦寄宿舍 33_1 踏み込み 33_2 押込れ
34_1 舍監宿直室 34_2 舍監室
35. 寄宿舍應接室
36. ドライエリヤ
37. 洗濯室
38. 寄宿舍玄關
39. 講習室
40. 露臺
41. 自動車庫
42. 婦長室
43. 洗面所
44. 食堂
45. 病院應接室
46. 檢查研究室
47. 醫局
48. 院長室
49. エレベーター
50. 病室
51. バルコニー
52. 看護婦詰所
53. 眼科
54. 同手術室
55. 耳鼻咽喉科
56. 皮膚科
57. 炊事場
58. 配膳室
59. 石炭庫
60. 電氣室
61. 汽罐室
62. 消毒室
63. 使丁室
64. 厨房
65. 從業員食堂
66. 雜役夫詰所
67. 倉庫
68. 監守室
69. 休憩室



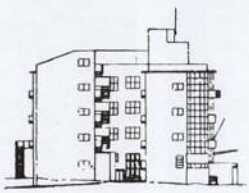
正面立面圖



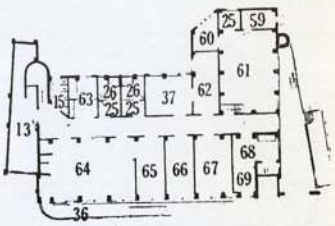
背面立面圖



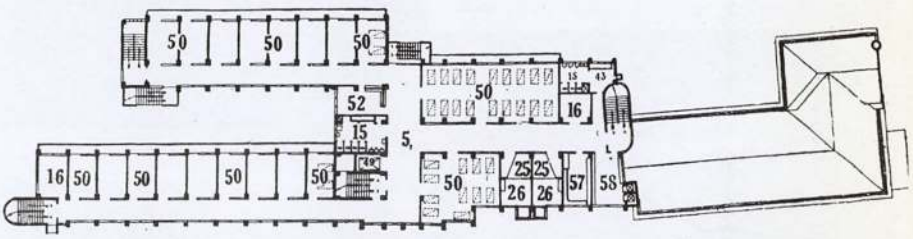
西側面圖



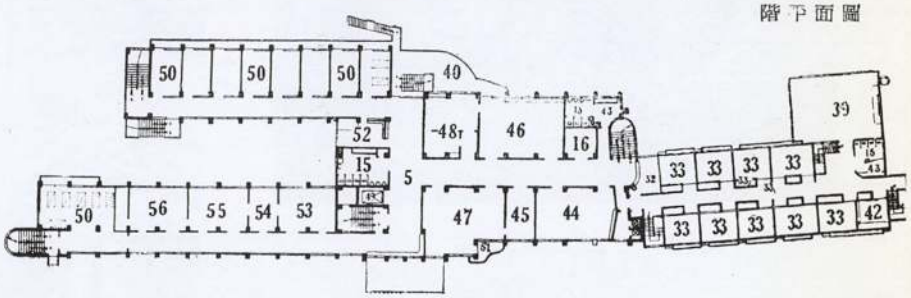
東側面圖



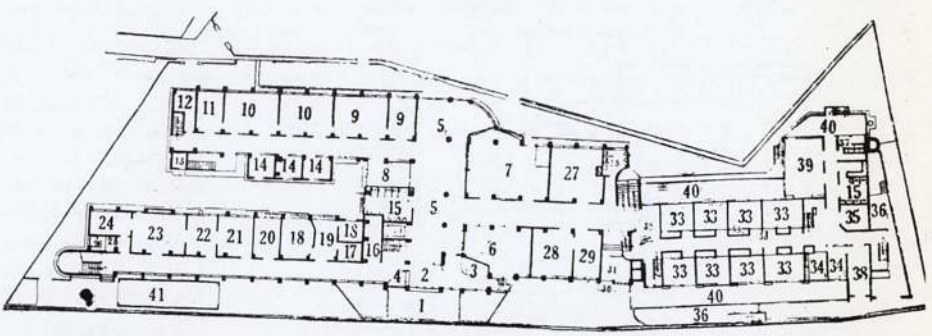
地階平面圖



階下面圖



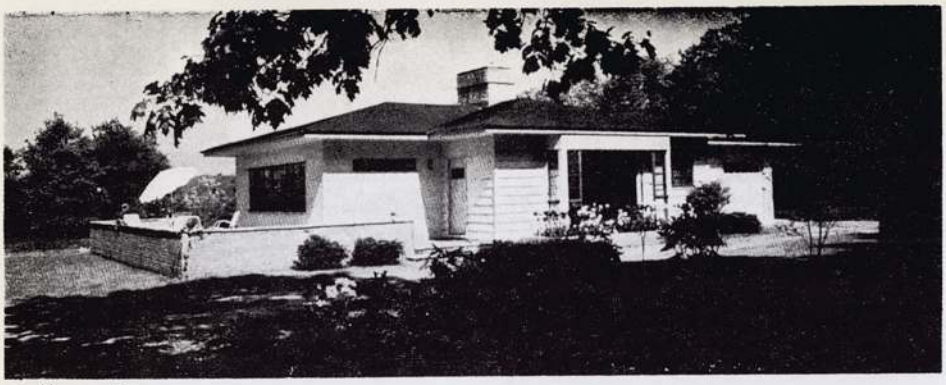
2階平面圖



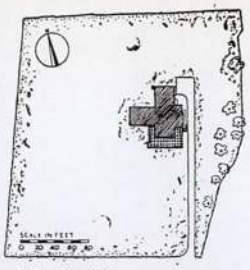
1階平面圖

（大阪）市立北市民病院

設計・市建築部
施工・鴻池組



外　觀



配置圖



寢　室



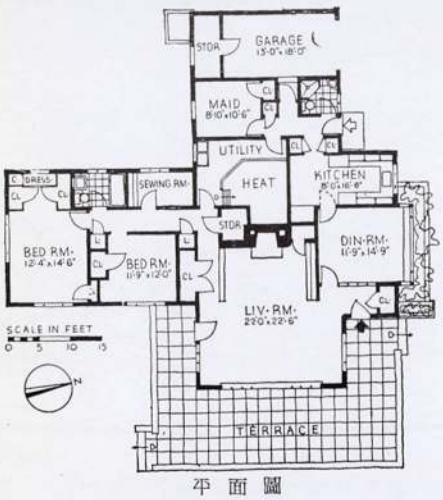
居　間



居　間



食　堂



平面圖

モダン建築と云ふものが，單なる平べつたい屋根と隅につけられた窓になんの關係もないといふ事は既に云ひつくされてゐて，近頃ではもう陳腐な言葉になりきつてゐる。然しながらそのことを證明するに足る様な典型的な好例は實に尠いのである。この寫眞で見ると，その靜寂さのみならず，如何にも外景が非常な素朴さにみちてゐることを聯想させる。なかんづくこの平面圖と室內圖を調べてみると，ガラス張りの食堂の快適さがよくわかるのである。平家建で地階を持たないこの形の平面圖は機構の點からみて相當困難な問題を含んでゐるが，然し此處ではそれが最も必要缺くべからざるものを保ちつゝ實に要領よく取扱はれてゐる。

（アメリカ）コネティカツト州スタンフオードに建つ住宅　　建築家 Lester C. Tichy

ローマより海岸まで擴張の支點としての
1942年萬國博覽會

この博覽會はファシスト政權20周年記念事として．現代都市の樣裝に一典型を與えると共に．數世紀に亙る輝く傳統の止揚再顯のため計畫實施せられてゐるものである。海岸線まで延ばされた記念地域（博覽會を含む）の構成は．ムソリーニ氏の希望により．20周年記念展示の役割を果たすと共にローマ擴張のため．現實の象徴として．又將來この擴張それ自身の支點たらしむる二つの目的の綜合から成つてゐる。

別圖博覽會場配置圖は．同建築事務所一法人．總指揮者．建築家Marcello Piacentini—の計畫決定によるものである。

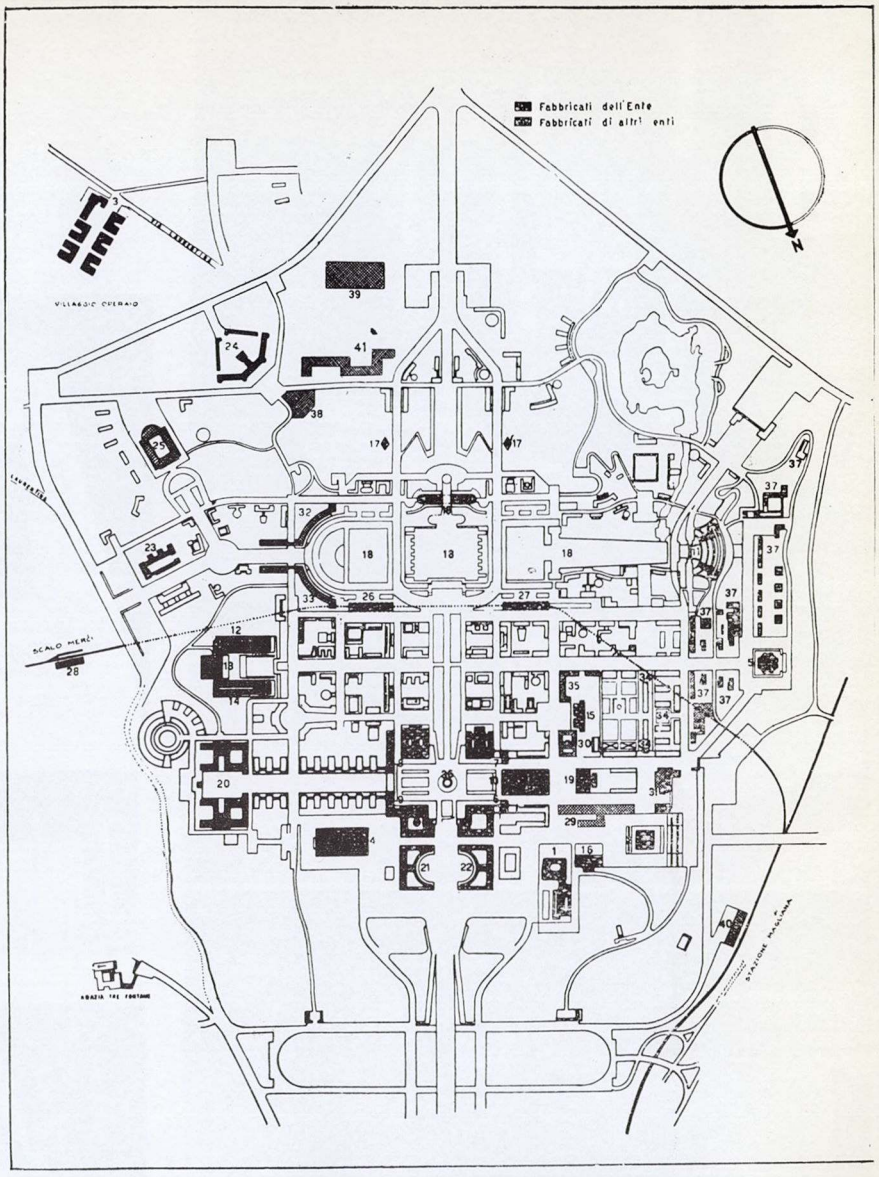
——常設建物及び事業——

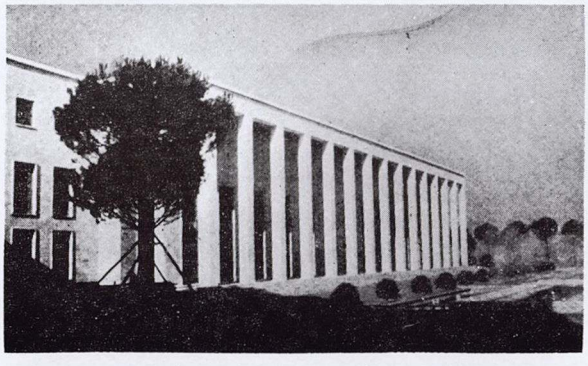
法人諸建築物

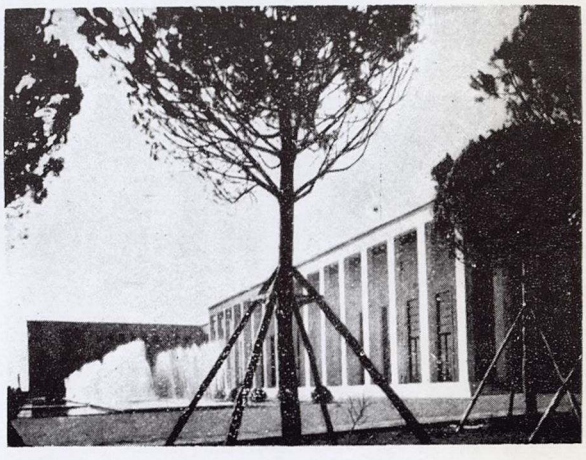
1. 博覽會綜合事務所
2. イタリヤ館（イタリヤの社會制度生活を示す）
3. 勞働者村
4. 會議場並に招待場
5. 教　會
6. 古代美術博物館
7. 近代美術博物館
8. 自然科學博物館
9. 地上生存展覽場
10. 舞臺附劇場
11. 野外劇場
12. 自給自足展覽場
13. 產業聯合陳列場
14. 社會保險及救濟展覽場
15. 會　館
16. 料理店
17. 大アーチ
18. 湖水

其　他　建　物

19. ローマ館
20. ローマ市民展覽場
21. 國立社會保險局
22. 國立ファシスタ社會擁護務會
23. 熔接務會
24. 正統發生館
25. ムツソリーニ山林協會
26. 入場停車場
27. 出場停車場
28. 貨物荷上場
29. 勞働省展覽場
30. 場內防火見張所
31. 公共事業關係者の特別建物
32. 33. 農業並に改良博物館
34. 工藝展覽場
35. 献金箱
36. マルコニ記念物
37. 住居地域
38. 國立獨占事業展覽場
39. 產業務會
40. マリアーナ停車場
41. 衞生施設展覽場

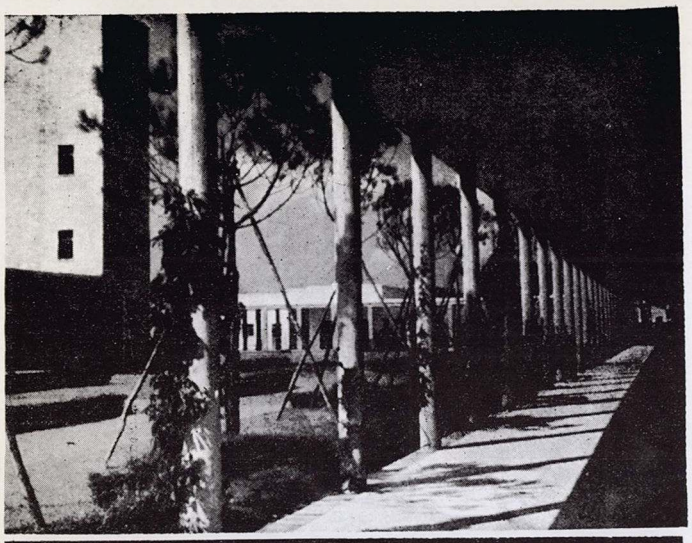




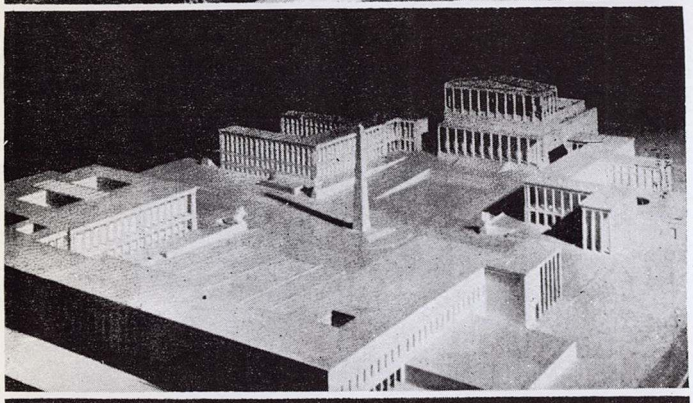


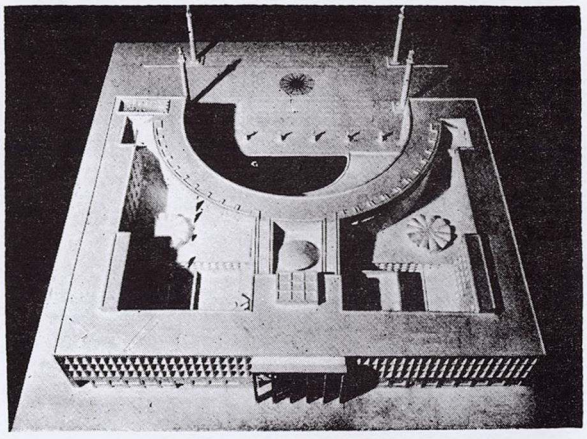
博覽會綜合事務所　　**建築家　Gaetano Minnucci**

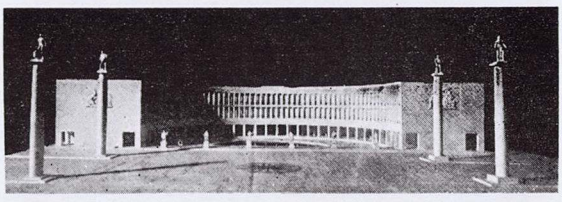
三つの噴水に向い合ふこの建物は（配置圖々示番號1）すでに完成し．法人として大規模の組織の中心として．その機能を發揮してゐる。圖は何れも周圍廣場よりの外觀。

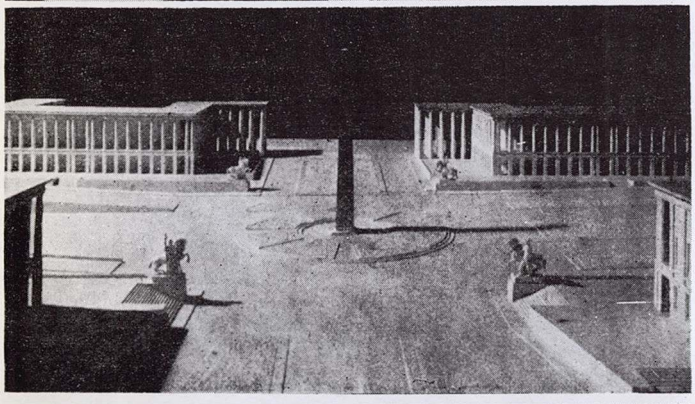


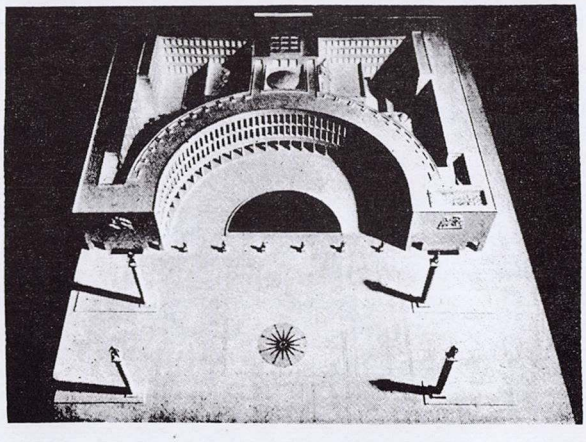
勞働者村
博覽會建設勞働者が參與の當初から使用してゐる。　（配.圖.番3）

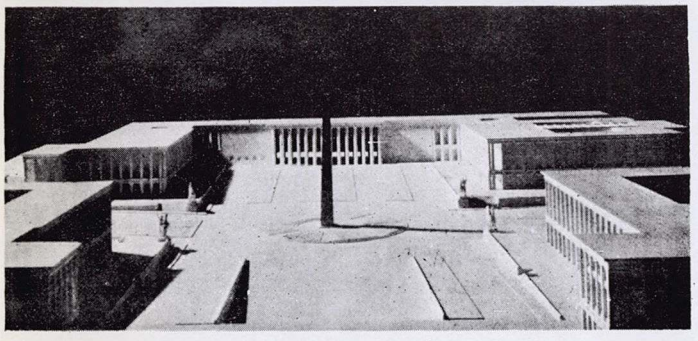










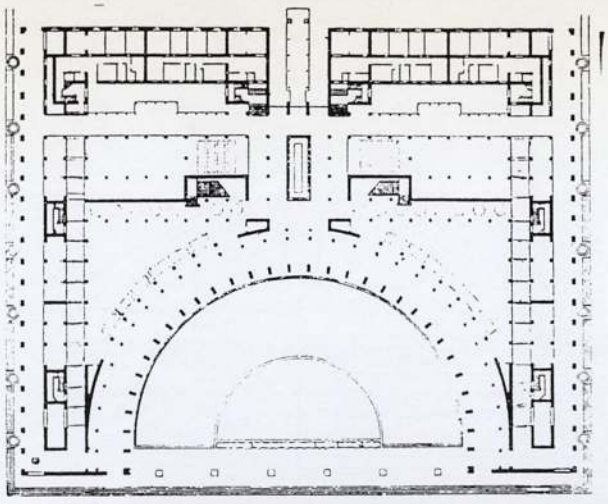


帝國廣場　（以上三圖共同上廣場ノ模型）
博覽會記念の主要な中心をなすもので．廣場の中心には．マルコニ記念塔が建てられる。この廣場は次の建物を取入れてゐる:——大劇場(6000人收容．配.圖．番10)
古典（16）及び近代美術博物館（7）科學博物館（8）地上生存博物館（9）等

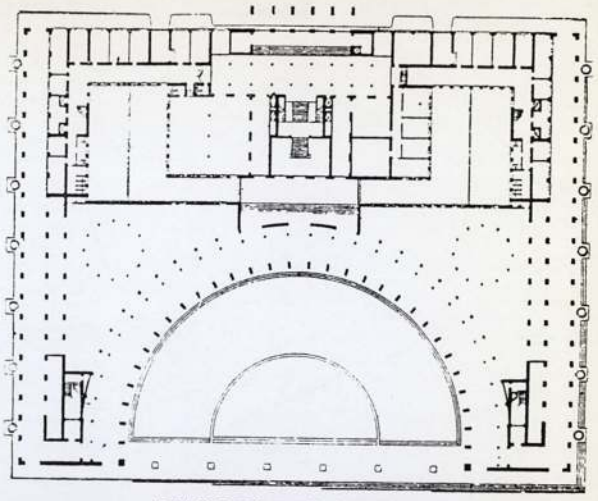
博覽會玄關廣場の二つの建物（21と22）
國立ファシスト社會擁護協會（21）と國立社會保險局（22）
建築家　**Giovanni Muzio, Mario Puniconi, Giulio Pedi Coni**

兩方共に博覽會々期中及び將來も法人廳舍及事務所として使用せられる．兩建物の外觀は全然同一で區別すること困難であるが．その平面計畫は二法人の異なつた目的に沿わしめるため夫々異なつてゐる。（圖は三つ共同上建物外觀の模型）

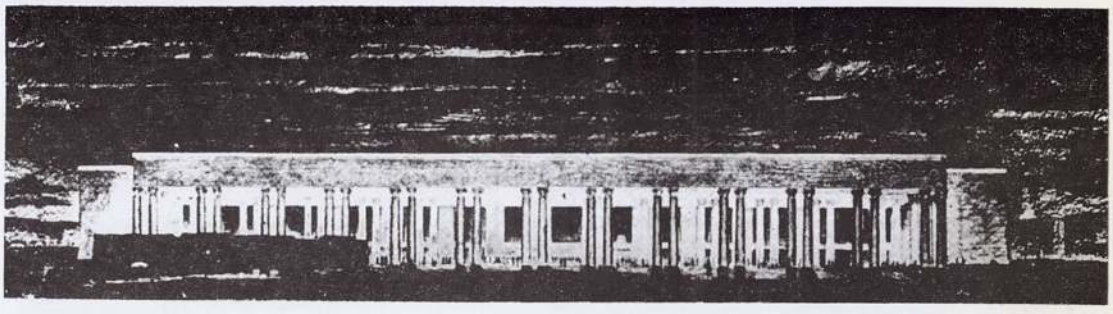
總指揮者　建築家　**Marcello Piacentini**



國立ファシスト社會擁護協會建物 1階平面圖

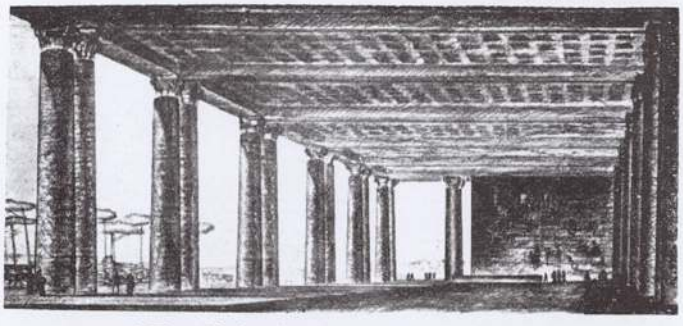


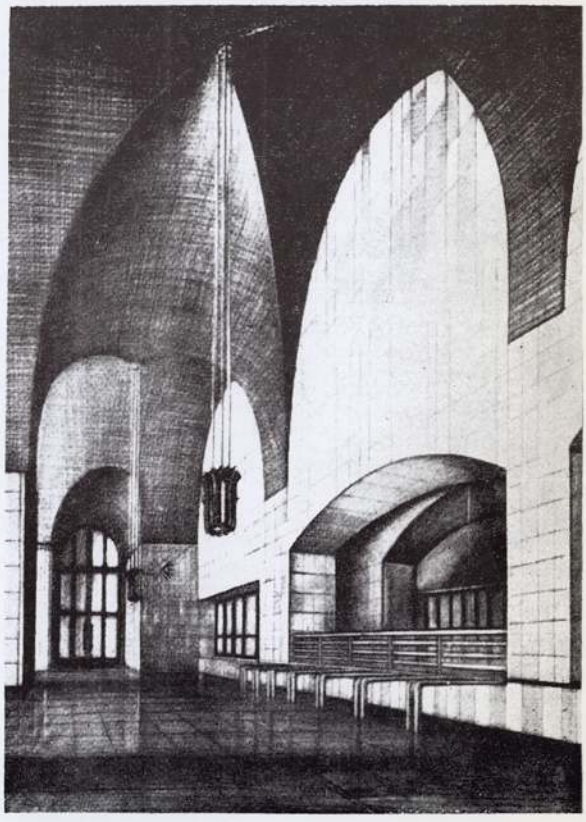
國立社會保險局建物 1階平面圖



新停車場正面夜景

正面車寄內部





切符賣場

ローマ帝國の新停車場を現出

上の目的のため各關係者一鐵道省．遞信省．建築家．技術家等一はムツソリーニを總裁として熟慮協議の結果ローマ終端停車場の改築が計畫．實施せられてゐる．創ち現ローマ中央停車場の建物は殆んど取除かれ一この跡は新しい廣場となる一現存驛構內を基として平面計畫せられた大停車場建築の完成である。この建築を要約すれば:—

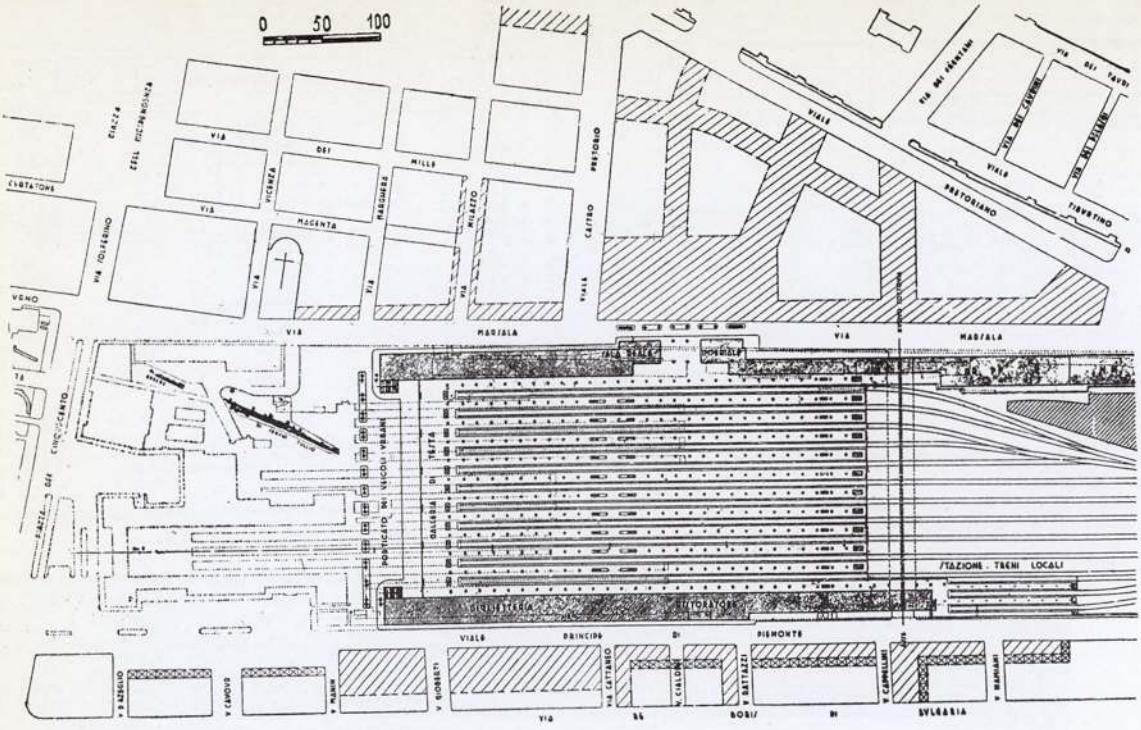
1)新廣場（Piazza di Cinquecento）に面する主要建物。間口232米．到着旅客を運ぶ乘物の通過出來る車寄せを持つ大遊歩室より成る。

2)出口に向けられたピエモンテ大通側の一翼は長さ482米ゐ關出入口．料理店．待合室．賣店等である。サンタ・ビビアーナに近く郵便局と軍駐在所がある。

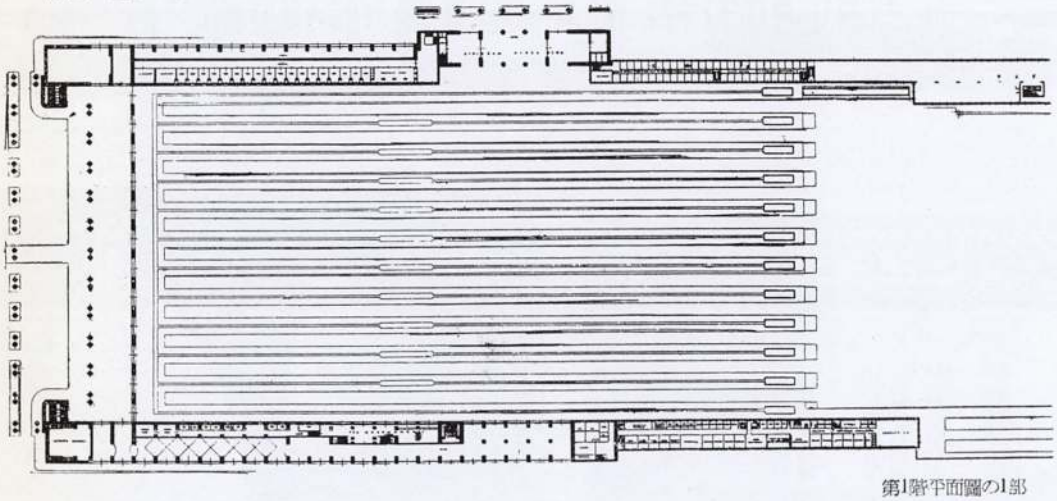
3)マルサラ通り側は．長さ736米三つに區別し．第1は新廣場に面し到着の公衆溜り．案內所．手荷物渡場．市．銀行．郵便．電信等の各出張所．第2は別室を持つ貴賓室．第3は種々のサービス所（公安警備憲兵駐在所．屢臺車取扱所）と事務室である。

このほかプラットフォーム下の地下一階には一般ホテル及種々のサービス所．正面遊歩室の下には廣い教會がある。同第2階は手荷物荷積運搬用に．第3階は各種從業員用にあてられてゐる。

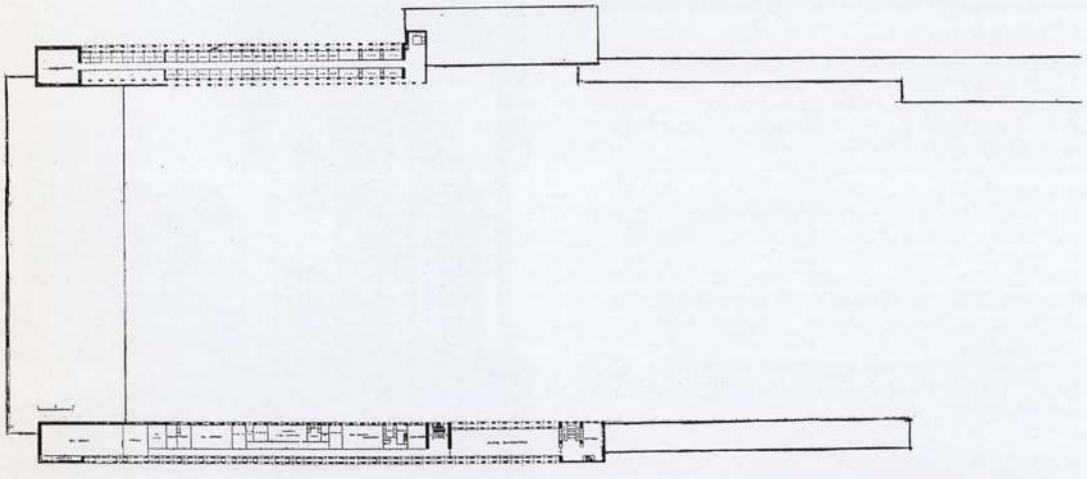
（イタリヤ）　上1942年萬國博覽會・下ローマの新停車場　總指揮者　建築家　Marcello Piacentini　**7** XI



附近を考慮に入れさる新停車場の計畫平面

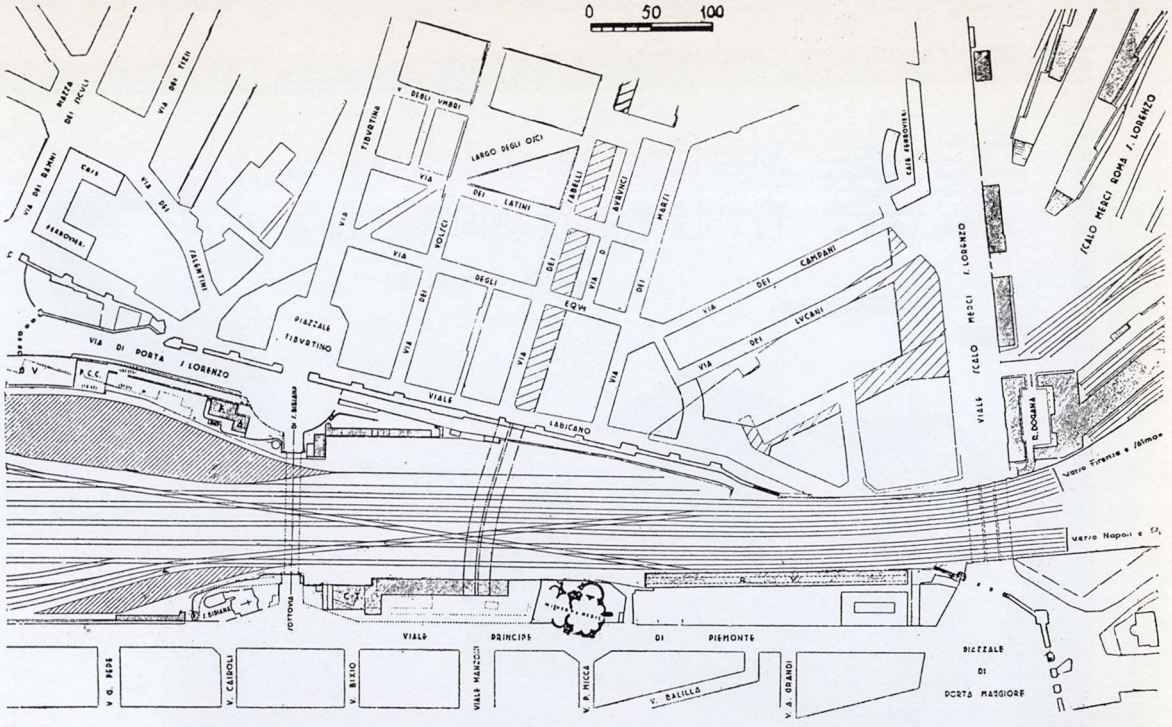


第1階平面圖の1部

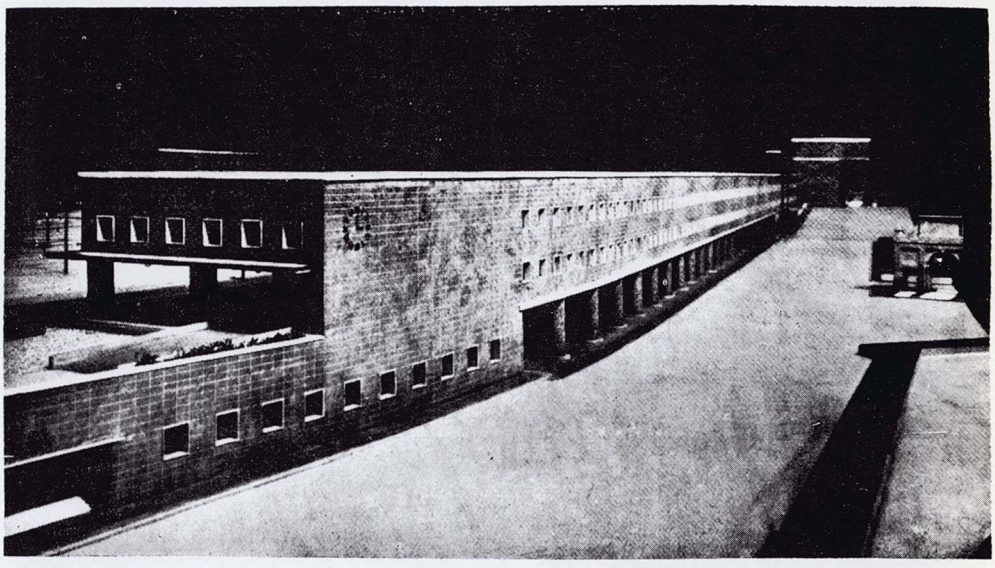


第3階平面圖の1部

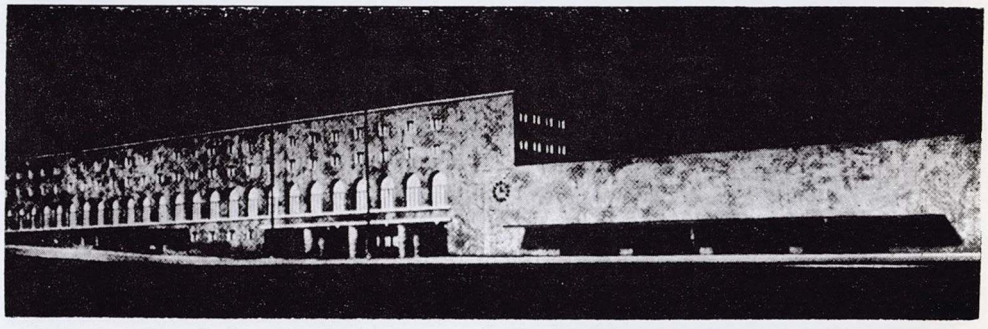
（イタリヤ）　ローマの新停車場　　總指揮者 建築家 Marcello Piacentini



←左圖に續く



停車場の郵便サービス及び特別急行列車の
鐵道當局サービス所にあてられた部分



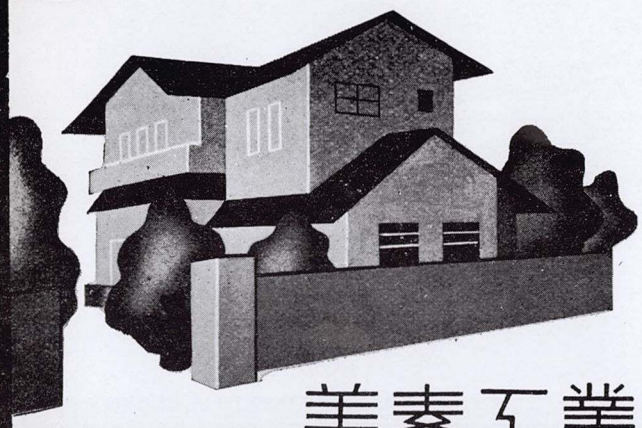
ピエメンテ大通りの部分。左より右へ、勞働者
及び軍隊等の團體旅客出入口への立關。停車場
廣場に向ふ大阪の端にある旅客地下路道入口。

（イタリヤ）　ローマの新停車場　　總指揮者　建築家　Marcello Piacentini

美素

新築住宅にお手入のいらぬ！
古い住宅も新築同様となる！

【カタログ贈呈】



新築家屋美素加工
新築落成と同時に本所獨特のビソ液にて洗淨し木材變色の原因となる樹液を取り．其の上をビソにて仕上の加工をすると完全なる變色防止加工となり．優美な艶を有しフキコミの勞を省き頗る經濟的です。

古家屋新裝美素加工
古家もビソ液で洗淨すると新築同樣となり其の上を新築美素加工と同樣の加工をすると前者同樣の結果となる。
（特種技術を要しますから弊所の請負加工と致して居ります）

美素工業所

大阪市天王寺區東平野町四丁目二一
電話天王寺(77)四〇〇三番

ノボ アルミナセメント

超高級　耐鹹 耐寒 耐火

六時間コンクリート

大阪窯業セメント株式會社

6 HOURS CONCRETE

1:2:4 水比 65 6時間 217kg/cm² 28日 410kg/cm²
1:2:4 水比 45 6時間 300kg/cm² 28日 580kg/cm²

施工6時間後
完全使用が
出來ます

不規則ラーメンの反復試索解法に就て

中澤洵※

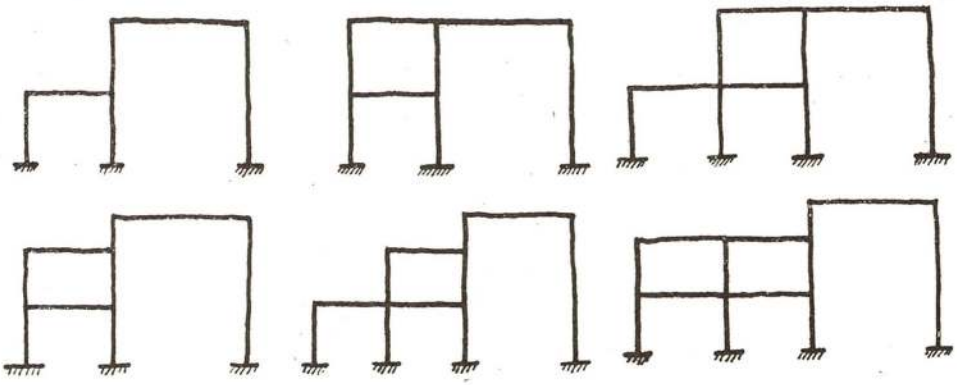
緒言

變電所、淨水ポンプ場等に於てはグレーンやデイゼルエンジン等を据え付くる都合上、天井の高くスパンの大なる1層1スパンのラーメンを構成し、其れに比較的天井の底い2層又は3層のラーメンを接續する場合が多い。

斯の如きラーメンでは各層の梁は大スパンの部分で切斷され全體としては形の不規則なラーメンとなる。

筆者は近時此の種のラーメンを數多く解く機會に接したが撓角撓度法を用ひて聯立方程式を立て此れを解くには簡單なる形のものと雖もその煩に耐へずして鷹部博士の提案されたる撓角分配法の公式を僅に補足したる反復試索法を工夫し此を用ひて容易に解くことが出來た。

本文は第1圖の如きラーメンに鉛直荷重と節點水平荷重が作用する場合に就き此の方法を說明したものである。



（第一圖）

1. 鉛直荷重

a. 節點の方程式　任意の節點 a（第2圖）に集る一群の材を考へる。

材 ao, ar, au, al の撓角の2E倍を各 $\varphi_o, \varphi_r, \varphi_u, \varphi_l$, のし材 ao, au, の撓度の－6E倍を各 Ψ_o, Ψ_u, とすれば

$$M_{ao} = K_o\ (2\varphi_a + \varphi_o + \Psi_o)$$

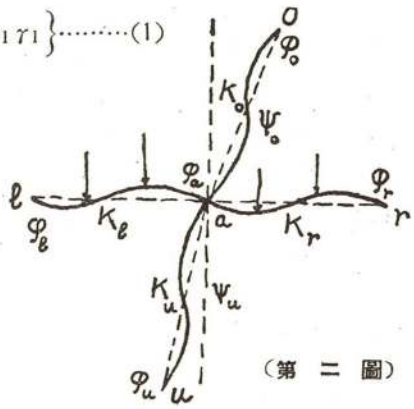
$$M_{ar} = K_r\ (2\varphi_a + \varphi_r) - C_{ar}$$

$$M_{au} = K_u\ (2\varphi_a + \varphi_u + \Psi_u)$$

$$M_{al} = K_l\ (2\varphi_a + \varphi_l) + C_{al}$$

然るに節點 a に於ては $\Sigma M = 0$ が成立するから此れに上記の式を代入すれば

$$\varphi_a = \frac{M_a}{j_a} - \left\{(\varphi_o + \Psi_o)\gamma_o + \varphi_r\gamma_r + (\varphi_u + \Psi_u)\gamma_u + \varphi_l\gamma_l\right\} \cdots\cdots (1)$$



（第二圖）

こゝに $M_a = (C_{ar} - C_{al})$

$$j_a = 2\,(K_o + K_r + K_u + K_l)$$

$$\gamma_o = \frac{K_o}{j_a} \quad \gamma_r = \frac{K_r}{j_a}$$

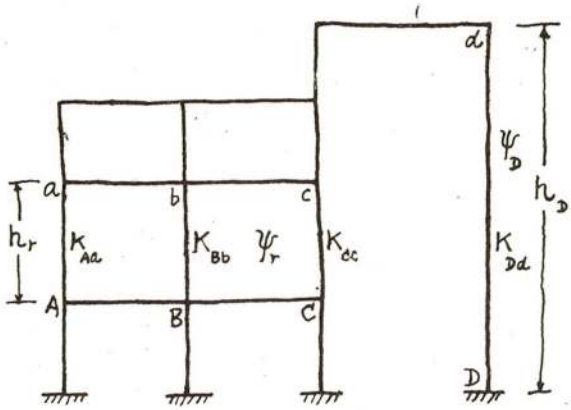
$$\gamma_u = \frac{K_u}{j_a} \quad \gamma_l = \frac{K_l}{j_a}$$

（1）式は撓角撓度法の基本公式から直に導かれる式である。

※筆者は置鹽建築事務所・技師

b. 剪斷力の方程式

任意の層の柱 Aa, Bb, Cc, の剪斷力を X_A, X_B, X_C, 更に柱 Dd 剪斷力を X_D とすれば



（第 三 圖）

$X_A + X_B + X_C + X_D = 0$ が成り立つ。

ここに

$$X_A = -\frac{1}{h_r}(M_{Aa} + M_{aA})$$

$$X_B = -\frac{1}{h_r}(M_{Bb} + M_{bB})$$

$$X_C = -\frac{1}{h_r}(M_{Cc} + M_{cC})$$

$$X_D = -\frac{1}{h_r}(M_{Dd} + M_{dD})$$

これを上式に代入すれば

$$(M_{Aa} + M_{aA}) + (M_{Bb} + M_{bB}) + (M_{Cc} + M_{cC}) + \frac{h_r}{h_D}(M_{Dd} + M_{dD}) = 0$$

然るに

$$\left.\begin{aligned} M_{Aa} + M_{aA} &= K_{Aa}(3\varphi_A + 3\varphi_a + 2\Psi_r) \\ M_{Bb} + M_{bB} &= K_{Bb}(3\varphi_B + 3\varphi_b + 2\Psi_r) \\ M_{Cc} + M_{cC} &= K_{Cc}(3\varphi_C + 3\varphi_c + 2\Psi_r) \\ M_{Dd} + M_{dD} &= K_{Dd}(3\varphi_d + 2\Psi_D) \end{aligned}\right\} \cdots(2)$$

である。此れを上式に代入して整理すれば

$$\Psi_r = (\varphi_A + \varphi_a)\,t_{Aa} + (\varphi_B + \varphi_b)\,t_{Bb} + (\varphi_C + \varphi_c)\,t_{Cc} + (\varphi_d + \tfrac{2}{3}\Psi_D)\,t_{Dd} \cdots\cdots(3)$$

ここに

$$t_{Aa} = -\frac{3K_{Aa}}{2(K_{Aa}+K_{Bb}+K_{Cc})}$$

$$t_{Bb} = -\frac{3K_{Bb}}{2(K_{Aa}+K_{Bb}+K_{Cc})}$$

$$t_{Cc} = -\frac{3K_{Cc}}{2(K_{Aa}+K_{Bb}+K_{Cc})}$$

$$t_{Dd} = -\frac{3K_{Dd}}{2(K_{Aa}+K_{Bb}+K_{Cc})}\cdot\frac{h_r}{h_D}$$

（3） 式の右邊中 t_{Dd} を含まざる項は鷹部屋博士が（梁の切斷せざる）普通のラーメンに就て既に示されたものである。

c. 反復計算方法

節點の方程式（1）式と剪斷力の方程式(3)式とを用ひて撓角と撓度を計算するのであるが此處にはラーメンを畫ける圖上に此れを計算する順序に就て述ぶ。

各節點に集る材に就き γ, 各柱に就き t の値は既に計算濟みとして先ず節點の撓角の概算値を求む。

（1） 式は材端 o, p, u, l に撓角を與へ更に上下の材に撓度を與へた場合の中央節點の撓角を示す式であるが今材端の撓角をすべて零、更に柱の撓度をも零とすれば荷重のみによる中央節點の撓角が出る。

即

$$\varphi_a = \frac{M_A}{j_A} \quad \varphi_a = \frac{M_a}{j_a} \quad \varphi_B = \frac{M_B}{j_B} \quad \text{等々}$$

此れを φ の概等値とす。

此の數値を（3）式に代入すれば Ψ の第1近似値を各層に就て求め得る。但し Ψ_D の値は未知であるから零として計算す。

Dd 柱以外の各層の Ψ が求まれば殘る Dd 柱の撓度の第1近似値は次の式から求まる。

$$\Psi_D = \frac{\Sigma \Psi_r h_r}{h_D}$$

但し Σ は Dd 柱以外の各層に就て加算する意味である。かくて求めたる φ の概算値と Ψ の第1近似値を（1）式に代入すると φ の第1近似値が定まる。

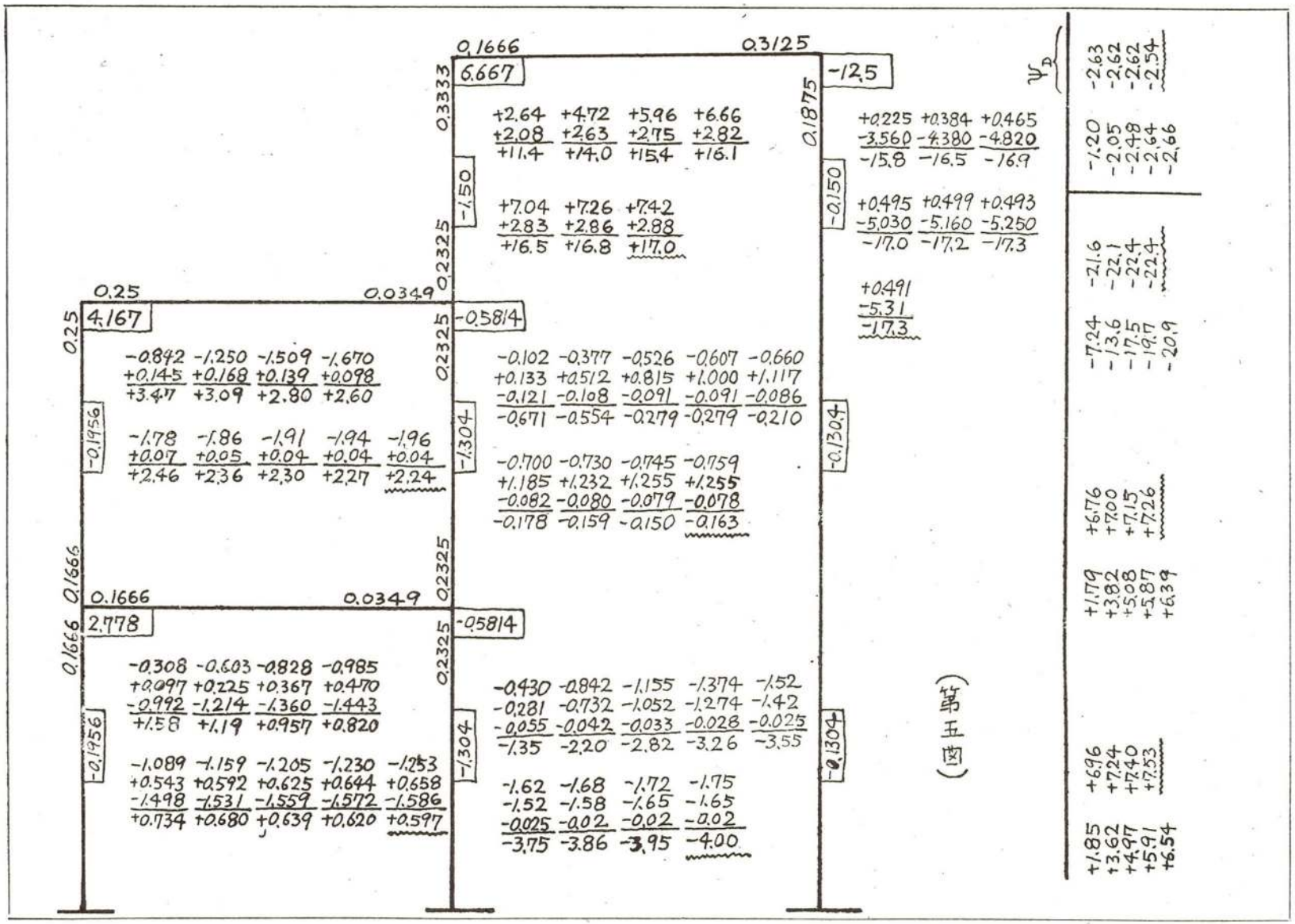
次に φ の第1近似値と Ψ_D の第1近似値を(3)式に代入すると Ψ の第2近似値を得。

Ψ_D の第2近似値は前と同じく

$$\frac{\Sigma \Psi_r h_r}{h_D}$$

にて求む、但し Ψ_r には此の場合 Ψ の第2近似値を用ひることは勿論である。

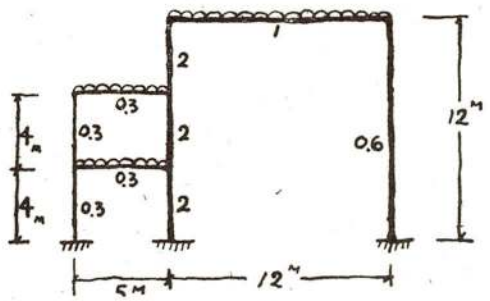
次に Ψ の第2近似値と φ の第1近似値を（1）式に代入して φ の第2近似値を得。


0.1666
0.3125
6.667
-12.5
0.3333
0.1875
+2.64 +4.72 +5.96 +6.66
+2.08 +2.63 +2.75 +2.82
+11.4 +14.0 +15.4 +16.1
+0.225 +0.384 +0.465
-3.560 -4.380 -4.820
-15.8 -16.5 -16.9
-1.50
-0.150
+7.04 +7.26 +7.42
+2.83 +2.86 +2.88
+16.5 +16.8 +17.0
+0.495 +0.499 +0.493
-5.030 -5.160 -5.250
-17.0 -17.2 -17.3
0.2325
0.25
0.0349
+0.491
-5.31
-17.3
4.167
-0.5814
0.25
0.2325
-0.842 -1.250 -1.509 -1.670
+0.145 +0.168 +0.139 +0.098
+3.47 +3.09 +2.80 +2.60
-0.102 -0.377 -0.526 -0.607 -0.660
+0.133 +0.512 +0.815 +1.000 +1.117
-0.121 -0.108 -0.091 -0.091 -0.086
-0.671 -0.554 -0.279 -0.279 -0.210
-0.1956
-1.304
-0.1304
-1.78 -1.86 -1.91 -1.94 -1.96
+0.07 +0.05 +0.04 +0.04 +0.04
+2.46 +2.36 +2.30 +2.27 +2.24
-0.700 -0.730 -0.745 -0.759
+1.185 +1.232 +1.255 +1.255
-0.082 -0.080 -0.079 -0.078
-0.178 -0.159 -0.150 -0.163
0.1666
0.1666
0.1666
0.0349
0.2325
2.778
-05814
0.1666
-0.308 -0.603 -0.828 -0.985
+0.097 +0.225 +0.367 +0.470
-0.992 -1.214 -1.360 -1.443
+1.58 +1.19 +0.957 +0.820
-0.430 -0.842 -1.155 -1.374 -1.52
-0.281 -0.732 -1.052 -1.274 -1.42
-0.055 -0.042 -0.033 -0.028 -0.025
-1.35 -2.20 -2.82 -3.26 -3.55
-0.1956
-1.304
-0.1304
-1.089 -1.159 -1.205 -1.230 -1.253
+0.543 +0.592 +0.625 +0.644 +0.658
-1.498 -1.531 -1.559 -1.572 -1.586
+0.734 +0.680 +0.639 +0.620 +0.597
-1.62 -1.68 -1.72 -1.75
-1.52 -1.58 -1.65 -1.65
-0.025 -0.02 -0.02 -0.02
-3.75 -3.86 -3.95 -4.00
(図中央)
ψD
-2.63 -2.62 -2.62 -2.54
-1.20 -2.05 -2.48 -2.64 -2.66
-2.16 -22.1 -22.4 -22.4
-7.24 -13.6 -17.5 -19.7 -20.9
+6.76 +7.00 +7.15 +7.26
+1.79 +3.82 +5.08 +5.87 +6.39
+6.96 +7.24 +7.40 +7.53
+1.85 +3.62 +4.97 +5.91 +6.54

Ψ の第3近似値は再度（3）式を用ひて求む。

かくの如く（1）式と（3）式を交互に繰返して計算すれば φ 及 Ψ の値が遂に一定値に近づくを以て適當に計算を打切る。

d. 實 例

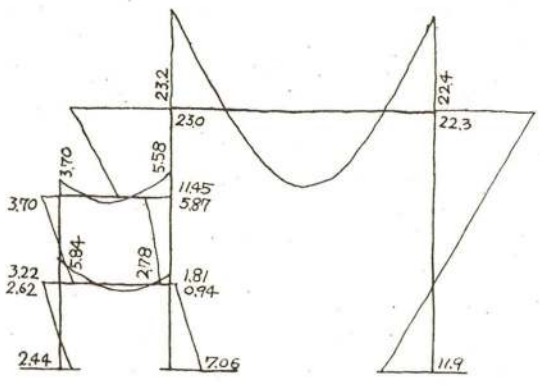


（第 四 圖）

第4圖のラーメンに付きて實例をあぐ。荷重は 12m 梁兩端の固定モーメントを 40Tm とし 5m 梁の兩端の固定モーメントを 5Tm とした。

第5圖（**前頁參照**）は10吋計算尺に依る計算の結果を示す。

節點の廻りに記入したのは γ, 柱の中央に記入したのは t の値である。節點の右下 □ の中に記入したのは φ の概算値である。Ψ の値は紙の右端に φ の値は節點の右下に順次に書き入れて行く。第6圖は曲げモーメント圖を示す。

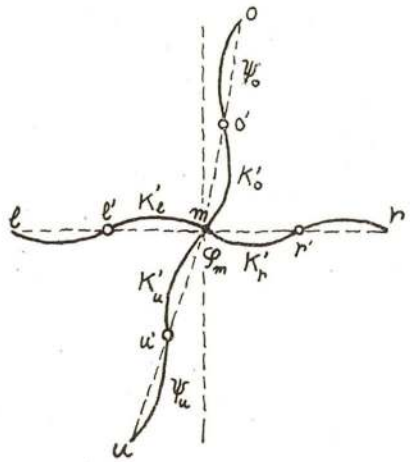


（第 六 圖）

2. 水平節點荷重

a. 撓角の概算値　水平節點荷重を受くるラーメンにては反曲點は大體として柱梁の中央に生ずる傾向を持つ。假に梁柱の中央を鉸としたラーメンの1節點を取り出し第7圖の如き變形を考ふれば

$$M_{m\alpha}' = \tfrac{1}{2} K_o' (3\varphi_m + \Psi_o)$$
$$M_{mr}' = \tfrac{1}{2} K_r' (3\varphi_m)$$
$$M_{mu}' = \tfrac{1}{2} K_u' (3\varphi_m + \Psi_u)$$
$$M_{ml}' = \tfrac{1}{2} K_l' (3\varphi_m)$$



（第 七 圖）

節點 m に於ては $\Sigma M = 0$ なる條件が成立するから上式を此れに代入して整理すれば

$$3\varphi_m(K_o' + K_r' + K_u' + K_l') + \Psi_o K_o + \Psi_u K_a' = 0$$

K′は材長の半分に就ての値であるから全材長に就ては $K = \frac{K'}{2}$ なる關係あり、從つて

$$\varphi_m = -\frac{(\Psi_o K_o + \Psi_u K_u)}{3(K_o + K_r + K_u + K_l)} \quad \cdots\cdots\cdots\cdots (4)$$

即1節點に集る梁柱の各中央に反曲點を假定すれば中央節點の撓角は各材の剛度と上下柱の撓度に依りて定る。

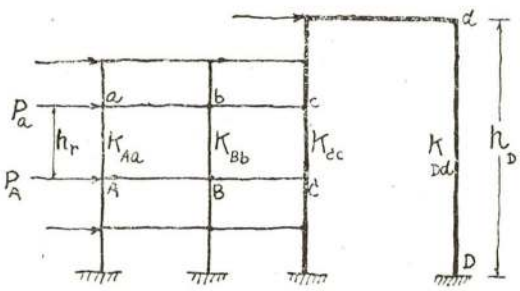
應部屋博士は（4）の式を更に簡易化して居られるが本文の如きラーメンでは各材の剛度に著しき差が有るので寧（4）式により φ_m を計算する方が反復計算の收斂が早い。

尙（4）式はラーメンを解くに當つて始めに唯1回計算すれば宜敷のであるから大して手間の掛ることはない。

b. 剪斷力の方程式

Aa, Bb, Cc 及 Dd 柱（第8圖）の剪斷力を各 X_a, X_b, X_c, 及 X_d とすれば $X_a + X_b + X_c + X_d = -\Sigma P$. が成立す。但し Σ は r 層より上に在る P の總和を意味す。而るに

$$X_a = \frac{M_{Aa} + M_{aA}}{h_r}$$



（第 八 圖）

$$X_b = \frac{M_{Bb} + M_{bB}}{h_r}$$

$$X_c = \frac{M_{Cc} + M_{cC}}{h_r}$$

$$X_d = \frac{M_{Dd} + M_{dD}}{h_r}$$

なるを以て此等の値を上式に代入すれば

$$(M_{Aa}+M_{aA})+(M_{Bb}+M_{bB})+(M_{Cc}+M_{cC}) + \frac{h_r}{h_D}(M_{Dd}+M_{dD}) = -h_r \Sigma P.$$

更に (2) 式の値を代入すれば

$$\Psi_r = + \frac{H_r}{T_r}\left\{(\varphi_A+\varphi_a)\,t_{Aa}+(\varphi_B+\varphi_b)\,t_{Bb} + (\varphi_C+\varphi_c)\,t_{Cc}+\varphi_d+\tfrac{2}{3}\Psi_D)\,t_{Dd}\right\} \cdots(5)$$

ここに $H_r = -h_r \Sigma P$

$$T_r = 2(K_{Aa}+K_{Bb}+K_{Cc})$$

$$t_{Aa} = -\frac{3K_{Aa}}{T_r} \quad t_{Bb} = -\frac{3K_{Bb}}{T_r}$$

$$t_{Cc} = -\frac{3K_{Cc}}{T_r} \quad t_{Dd} = -\frac{3K_{Dd}}{T_r}\frac{h_r}{h_D}$$

(5) 式中の t_{Dd} を含まざる項は鷹部屋博士の「一般剛節構の實用解法」の中に既に示されてある。

c. 反復計算方法

各節點の γ 及柱の t の數値は鉛直荷重の場合と全く同じ。先ず各層の撓度 Ψ の概算値を次式より計算す

$$\Psi_r = \frac{H_r}{T_r}\,\alpha$$

ここに α の値は鷹部屋博士が普通のラーメンに就では經驗上最下層にて 1～2 の間、中層にて 2～4、最上層にて 2 附近と述べられた。筆者が本文の如き特種のラーメンを解いたのでは最上層のが中層の α ものに殆んど等き場合が多くあつた。α を適當定めて Ψ の概算値が定れば Dd 柱の概算値は

$$\Psi_D = \frac{\Sigma h_r \Psi_r}{h_D}$$

但し Σ は Dd 柱以外の各層に就て加算する意味である。次に（4）式を用ひて各節點に就き φ の概算値を求む。

此の φ 及先に出した Ψ_D を（5）式に代入すれば Ψ の第 1 近似値を得。Ψ_D の 1 近似値は

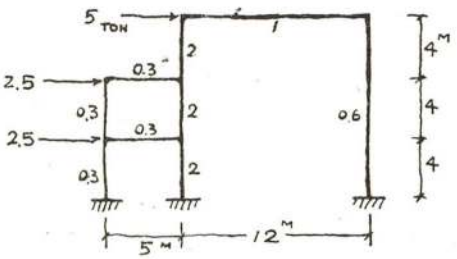
$$\Psi_D = \frac{\Sigma h_r \Psi_r}{h_D}$$

より求む。

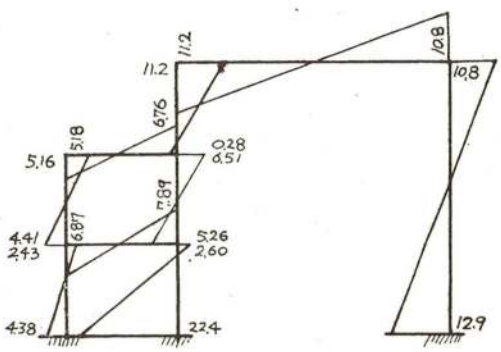
Ψ の第 1 近似値と φ の概算値を（1）式に代入して（但し M = 0）φ の第 1 近似値を求む。次に Ψ の第 2 近似値は (5) 式に φ と Ψ_D の第 1 近似値を代入すれば求まる。更に φ の第 2 近似値は再度（1）式を使用して計算す。かくの如く順次に（1）式と（5）式を繰返して計算すれば φ 及 Ψ の値が一定値に近づくを以て計算を打切る。

以上の計算はすべて圖上に行ふのであつて次に實例を示す。

d. 實 例



（第 九 圖）



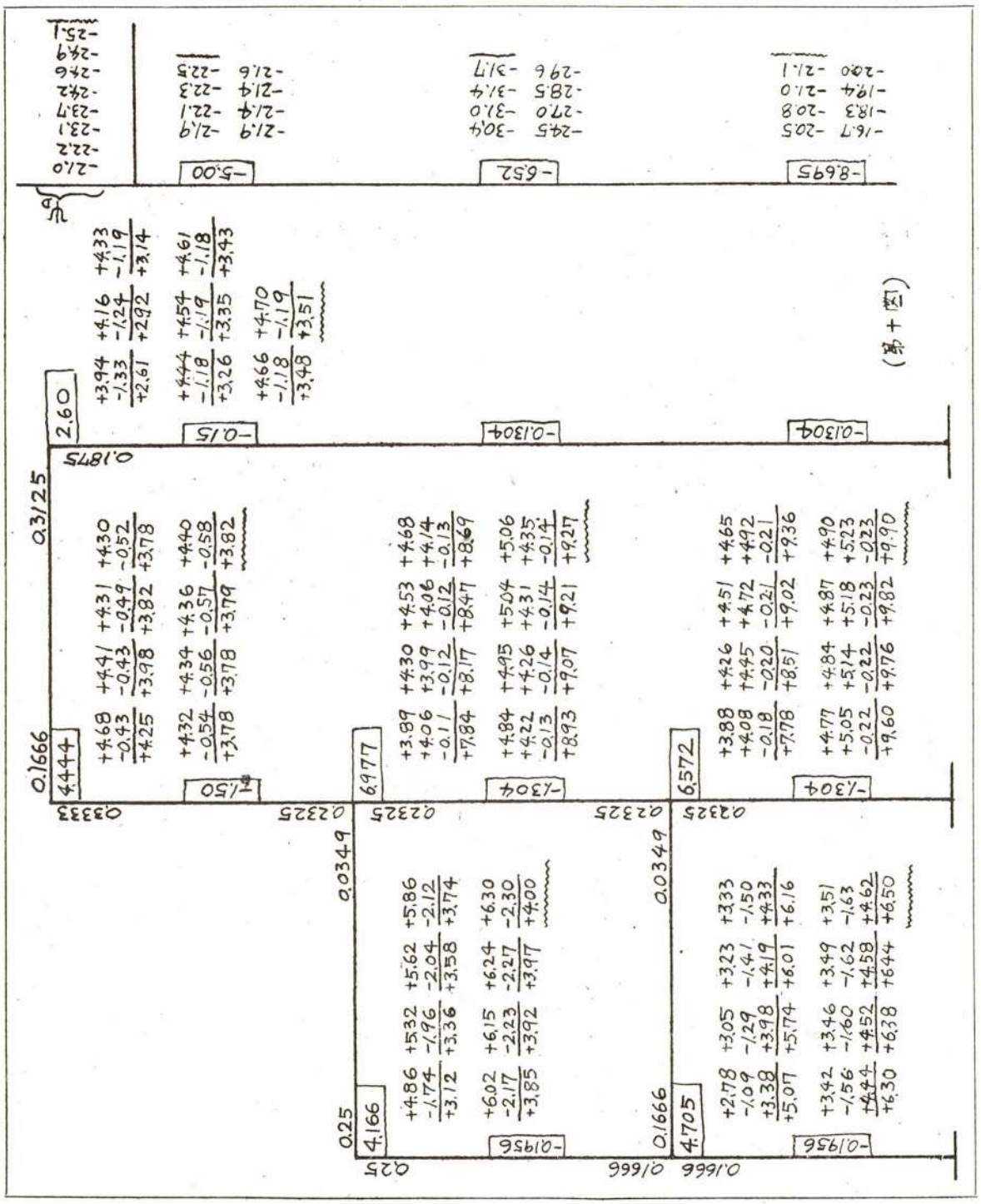
（第十一圖）（紙面の都合でこゝに入れる）

鉛直荷重に就て解いたと同じラーメンを水平節點荷重に就て解く。

α 數値は最下層が 2、中層が 4、最上層が 4、とした。第10圖の計算中 γ と t の値は鉛直荷重の

場合に既に計算済である。此等の値を各節點の廻りと柱の中央に記入することも亦前と同じ。H/Tの値は紙の右端を横に □ の中に記入し、撓角の概算値は各節點の右下 □ の中に記入してある。φ の計算は各節點の右下、Ψ は紙の右端に横に計算することも鉛直荷重の場合と同じ。

第11圖はかくて求めた φ 及 Ψ より計算した曲げモーメント圖を示す。



新東亞を建築す

大須賀巖

本年に入つて又々、わが建築家の聖戰への、動員があつたことは、慶賀すべきことである。銃を執つて第一戰に戰ふのも忠義であれば、建築家がその技術を以て、第一戰に御奉公するのも忠義である。わが國の建築家諸君の體肉には、日本的な血が流れて居る。日本の文化は、その本來の精神にかへて、曾て亞細亞大陸から流れ入つたものゝ磨きがかゝつて居る、また西歐文明の洗鍊をも經て居る。これ等のものを克く消化して、近代に於て、獨自の文化を創始した。日蓮と法然の說く宗教は民衆の宗教として發展した。短歌から俳句川柳の民衆文學が發生し、隆達節から義太夫節から新內常盤津長唄一中等歌謠が生れ、浮世繪、しつぽく料理、牛鍋と、封建制設から明治維新に至るの間、その戰亂の巷から德川氏300年の太平にして科學なき時代を通して、日本的な無量ある文化が創造されて居る。これが影響の日本の建築に表はれたことはいふまでもない。

日本の建築が、明治の初年から今日まで、3期の發達を遂げて、オスカーワイルドの「模倣の窮まるところに藝術が始まる」といふところのものを實踐しつゝあることは、萬人の認むるところである。この初期に於て、日本銀行の建築に、現場監督としてあつた高橋是清氏は、後に總理大臣と爲つた。オーストリアとバイエルンの國境、ブラウレナウの町に生れ、16才から21才まで、ウチンに悲慘な生活をつゞけた建築助手は、今や時代の英雄と爲つた。偉らくなるには、男子須らく貧しい建築家たるべしと一寸いひ度い氣にならぬでもない。乍併、獨のヒツトラー大總統は、建築に關する限り、その限下に於て、ウイナア、ウエルクシテツテの閉鎖とバウハウスの終焉といふ、一幕を演じて居る。ウイーンのウエルクシテツテといへば、在古にその指導者アセフ、ホフマン教授とコロ、モーザア教授とを連想する、歐洲大戰後の華やかな存在であつた、またバウハウス、ワイマールはワルタア、グロピウス教授を連想するところのもので、同教授の後をうけた、ハンネス・マイヤアの指導精神が問題となつて追はれ、シース・ファン、デア・ローエがこれに代つたが、ナチス政權の下に解散を命ぜられた。しかし、これに代つて「バウハウス・ベリン」として新しいナチス建築に添ふ實驗室の出現したことは、世人の知るところである。しかし、ナチス建築は素朴と簡素と明朗と健全との「自然は創造」せないが兎も角も「自然を構成」した。これに反して、わが高橋是清氏は、日本の都市計畫するに反對して、「英蘭銀行の横町は0間しかない、日本の道路を12間の24間のなんのと喜んでもない」といふと、氏は專ら高度金融機關の大御所として、東京は赤坂御所の傍の封建的な宏大な屋敷と巨富とを殘して逝いた。日本の封建制から資本制へ移行するについては、何程かの貢獻はあつたらうが、遂にその次に來るもの、勤勞大衆への時代へは、藝術を自然に模倣せしめたに過ぎなかつた。

再びナチス建築に立かへつて眺むるとき、住宅建築について、わたくし共は、明白に下の事實を認め得る。その大きに於て小さくなつたこと、大都市よりも中小都市に建築數の多かつたことである。（1）私人建築主の增大したことは、獨逸建築土地銀行年報の報するところであるが、住宅建築の小さくなつたことは、一面に、これに反して公共建築物の大を物語るものであつて、相當有名なこれ等大建築が報ぜられて居る。これを日本について考へる時、封建制から資本主義制へ移行の時代にあつては、舊制度の建築は勿論表はれつゝあつたが、資本家の家屋はその富を誇るものであるかのやうに——職業の自由が認められ、親の家屋は必ずしも、息子に適當した家といふことの出來ない時代であるにもかゝはらず、馬鹿げた邸宅が不必要に構へられ、從つてその家の主婦は、建築家を顎で使ふといふ驕慢心すら增長して、建築家の良心は、金の爲めに虐げられてしまふ、悲喜劇が無いとはいへなかつた。（2）また公營住宅

の流行は日本の津々浦々にも及んだ筈であるが、今日までの實情として、こんな金のかゝる事は、大都市の誇示的施設であつて、中小都市はただ申譯ばかりのものに過ぎない。その結果は、大都市への人々偏奇と爲つた。（3）更らに個人よりは中小都市、中小都市よりは大都市が、建築主としてある社會では、建築するものが、それに住む國民の爲めに經營せられるものでなく、算盤玉に引合はすとして個人はこれを停め、中小都市も手控へ、只大都市といふ無駄費の餘裕のあるもののみがこれを營むといふことでは、住宅を建築することは、國民生活から浮動す非經濟的生活であることに歸着するのみである。ナチスあつては、それが個人經營に於て斷然多きを占める現狀にあるといふことは、決して悪い現象でない。わが國從來の建築家泣かせの、悪かろう安からう主義の、1年で建築費を大部分取かへしてしまふ式の、貸家住宅でなく、利廻はりは薄いが、經濟的に他の方向に比較して、相當の打算もつき、建築家の良心をも傷つけることなく、眞の住宅が獨逸國民に供給せられて居るだろうと想像して、現下わが國の住宅難時代を顧みるとき羨ましく感ぜざるを得ない。1929年2月であつたと記憶する。ナチスは國民社會主義政權を買つて「住宅建築金融の根本的改良を行はんとする國民社會主義側の提案は、國會議にまだ一度もその日程に上つたことがない。高度金融資本はかくして獨逸國民に對し新しい勝利を克ち得たのである」と叫んだ。今やその時の聲明を如實に實行しつつある。わが日本としても、金融機關の國有は、獨り建築についてのみでなく、必要な時勢と爲つたと考へる。

（2）

士生無事卅　動作不平鳴　息言生戰國
重手取功名　唯知眞英雄　智計隨處生
太平善聚財　亂世善用兵

讃岐の勤王詩人燕石はかくうたうた。戰爭に於いても平時のライバル——政權の爭奪、富の獲得に於ても、いづれも勝つことが目的であるに相違ない。が、その目的が直接のそれによつて、何等かの社會秩序の維持が第二の目的としてあることは否むことを得ない。而してその秩序は、單なる原狀回復なく、新らしい秩序が一層よく社會民族の生存を保障し、生活の安全と道義的に正義が確保せらるゝ時に、文明史上に光輝を放つものとして賞讃せられるゝのだと誰やらがいふた。

都市人口の向心的運動と遠心的運動との二つの作用は、その土地價格の變動と相關に係のあるものであることは、アメリカの都市社會學會、主としてシカゴの都市社會學者の研究によつて示唆されるところである。すなはち、一方都市の文化的利便を利用せんとして、その中心地に集まる傾向とその混亂からハミ出される都市人の、近代的機關を利用して、近郊から中心地へ往復するものゝ增加とは、土地の價格を從來よりも一層昇騰せしめる。しかも、これ等遠心運動によつてハミ出されたものは、大都市の中心以外に又一つの小さい中心地を成立せしめ、それからそれと通信交通運輸を中心として營業地區が發展して、大都市の場末よりは寧ろそれ等近郊の營業地區の方が、地價が高く買はれる奇現象さへ生ずる場合があり得る。こうなると、大都市とその衛星都市の小營業中心とが、大山系の各連峰山嶽の充立する如くに、丘陵を伏したる形ちの地價が生れて來る。從つて其處に建築せらるゝものは、自らにこれに從つて2階 3階 4階 5階の高建築を以て都市生活の需要に應ずることより、外形的にも如上の姿を地上に現出することと爲る。そこに建築投機或は建築の悪性投機の起るべきチヤンスが潜在することと爲る。少し古いが、昭和13年10月號の社會事業研究に載せられたる波部光氏の昭和元年大阪市住宅年報による「勞働階級の住宅統計」によると、「彼等勞働者は全體としてよりよき收入獲得のために郊外地の有利な借家に住み得ない許りでなく、彼等自身の中に於てすら收入の多い者は少い者に比してより有利な位置即ち勤勞先の近くに住んで居る」といふ鐵則が示された。わたくし共から觀れば、何故アヽ穢いジメジメした居住地に住んで居るのであろうか、少しく電車賃を奮發すれば健康地に住ひすることが出來るであろうにと、通勤電車の窓から眺めて每度感ずることなのであるが、研究すればこうした惱みもある譯なのである。而して彼等の單純な情操は "Window' s, Windows every where" "Like a temple of the future" の光輝と "C-avyons around wall" " looking down on a giant" 莊嚴さに恍惚として憧がれて、阿片中毒者のやうに、譯もなく大都市の隅に呼吸して居る。ウエル

ズの a. g. wells はいふた。現代女性美の標準は（1）若さ（2）健康さ（3）聰明さ（4）信仰勇敢の具備して居ることであると。而して年令について、昔は20歳臺であつたものが今日では50歳臺に延長されて、將來は更らに長壽して、その若い時代も違つて來るともいふた。現在の日本都市について見ると、その大都市生存者はどうヒイキ目に見ても健全でない、又健全であり得ない。勿論役者の好きな娘子は、その鉛白焦けが好ましく、何とかいふ野蠻人は黑色が嫌ひで、日本人が黑色を愛好するからとて日本人を毛嫌ひするそうで、俗にいふ蓼喰ふ虫も何とやらで、大都市禮讃者は何とか彼とか理屈を夫々並べることであろうが、國民體位の向上なんてことは先にて落第するに決まつてる。「腐敗しつゝ、安心しつゝ」

片岡會長は申すまでもなく、わが國都市計畫の先覺者である。今回使した國のムツソリニ首相はローマ帝國の昔を今に偲ばすローマ都市計畫の實踐者として輝いて居るし、先日リビアで戰死したとの報のあつたバルボ總督は移民村へ2萬人宛の農民移住の集團家屋に成功して居るし、ミケロアンヂエロの國でもある。東亞新秩序建設の礎石が定置せられんとするの時、その齎らすお土産は、鶴首して待つところである。今回の命を承ける少し前に、わたくしは、銀座の地下鐵プラツトホームで、會長と久方振りにあふて言葉を交はした。在來ますます元氣なそのお姿は、わたくしをしてこの期待を一層大ならしめた。

（3）

小鳥を飼ふやうなものは祿なものでないと、そうした天資に惠まれた國民——西班牙や伊太利人を國民性として感心しないと、嚙むで吐き出すやうにいふ人もある。又昔の何とかいふ賢君は、小鳥を籠の中から放つて、これに自由を與へた美事が語り傳へられて居る。しかし、小禽を飼つたり盆栽を植へたりすることは、矢張り人生を潤す一つの文化技術であることは否まれない。殊に鐵筋コンクリートといふ固い感じのある、しかも、その中で取扱ふものとては、事務的である現代の都市生活にあつては、山や野に自然に生える樹木を移して、山や野よりも狹苦しい公園や道路に植へることが必要である如くに、籠の鳥も盆栽も、人間本位に考へたならば同じく必要なる譯だ。

斯る餘裕のない日常取引は、人の身體ならば、神經衰弱とか胃下垂とか全身病的な、體位下向と爲つて來るのは論ずるまでもない。又經濟的方面としても、資本主義の多くの學者によつて算へらるゝところの弊害とも爲り、都會生活の短所を發揮するばかりであろう。

東亞新秩序の一環を爲す支那人、殊に北支といはず滿洲といはず又蒙古に於ても、維等は天分として小禽飼育の上手に惠まれて居る。といふと、それだからいけない須らく彼等を指導して斷然これを停めさせて、剛健なる東亞プロツクの國民たらしむべきであるといふ硬派論者もあるかも知れないが、わたくしはこれに興味しない。こうした改革を企圖することは、黃河の水を逆まに堰かんとするものであつて、政法でなくつて暴擧である。

わたくし共は組織の力を認め、何等かの協同の方法によつて社會に組織あらしめ、その最も力强いものとして都會を選んだ。都會を有する社會と無之社會とは、今日到底競爭にならないことは、數千年來の人生記錄によつて證明濟の事實であるので、現代は如何に、更によく都市をあらしむるか、これを調査し、計畫し、考察し、農村と都會との連絡統制にまで及んで來た。而して會に北支の事變から東亞の新秩序と、更らに歐洲の新秩序而してこの東西の新秩序建設による世界の新秩序にまで發展せんとしつゝあるのである。

こゝに世界の新秩序とは何ぞやと考ふる必要が生して來た。佛蘭西の郊外にあげられた革命の炬火は、佛蘭西一國の革命にとゞまらず當時の舊秩序に反抗して、蓋世の英雄ナポレオンの雄圖は空しく挫折したものゝ、新歐洲の革命的變動は社會經濟政治の各方面に影響し、全世界にも波及するものがあつた。その當時にあつても、大修正をにて革命の思想は、實際生活に用ひられたのではあるが、その自由主義と資本主義との合體するところのものが、先頃歐洲大戰の原因と爲りまたその結果となり、更らに今次の事變戰役がこれに因して新秩序を作るべく闘はれつゝあるのであるといふて差支なかろう。人間生活の再檢討再組を內容とするものが、今次東西の新秩序の建設でなけれ

ばならぬ。しかも、頭の中で考へられた空理でなく、人間生活の實際に測したものでなければならぬ。世界の人類を皆殺しにして新たなる人間によつて、理想の世界を創造するものでない限り、人間の長所を採り短所を矯めて從來の誤りのないやうにするのは當然である。

民族の本性はこれを殺すことは容易でない、都市生活を人間生活から取去る譯にいかぬ、寧ろこれ等は善用して行かねばならぬとすれば、今日わが國の各地大都市の百貨店に見る、屋上或はその他の一隅に小禽の飼育場が置かれて、幾多の婦人小供は勿論大人すらとも、その目まぐるしい雜沓生活の裡に一時の休憩慰問を與へらるゝ如くに、都市生活の裡に小禽飼育の休憩慰安が存することは必要なことであるであろう。

ナチスのジードルングに附隨する二つの重要なる項目は、小菜園と小禽飼育場とである。小禽は小鳥でないことはいふまでもない。その卵をその肉を食用にすることの出來る家禽及び小動物が目的とせられて居るには相違ないが、これに觀賞用の小鳥がつけ加へられたからとて惡い譯ではなかろう、作となれば、こうしたものを飼ふことは單に物質的なものにのみ限られたことでなく、寧ろ精神的に、これを飼ふ心持ち、すなはち飼ふときの落つきに人間味を貯藏せしめやうとするのが、その大目的であるからである。わたくし共の常に見る經驗として、大都市と郊外地との電車のうちの雜沓裡に——アゝ猛獸の檻の中のやうな、不作法、模着、狹智といふ人間の醜い方面をマザマザと露呈したうちにあつても、赤ん坊を抱いた淑まらかな若婦人には、席を讓るもののあるのを見受ける。これが老婦人へも男の老人へも擴張せられることとなつたら、日本は昔に還つて君子國と見られるやうになるであろう。その時は大都市人がモウ少し人間らしい生活になるのではないかと思はせられたこともあつた。

事變3周年記念日を前にして、藤原前商相の投じた、奢侈品の製造と販賣に關する禁止令の一石は、わが國民心裡の上に少々ならざる波紋を生じた如くである。新體制は事變解決の最要點である。國民の合理的生活は本會年來の主張であり、已に椅子式座席の新日本住宅はその一端を示すものとして已に提唱せらるところである。少くとも本會々員たる建築家諸君は今後に對する重い責任を負ふて居られるのである。その好むと好まざるとにかかはらず。

（4）

わたくしは、はからずも、反古袋のうちから、大阪の都市計畫が施行せらるゝ前年に、福岡の市役所で、同市吏員の爲めに書いた訓話の原稿を發見した。その中に、アメリカの百貨店主が、小店員を採用するに際して採つた方法のことが論評されて居る。百貨店主は、"2人の前に糸で括つた小包を拋り出して中味を出せといひつけた。1人は鋏で無雜作に糸を切つて、中味を出したが、他の1人は丁寧に糸を解いてから中味を出して、店主の前に置いた。店主は前の者を採用したといふのであるが、わたくしは之に對して、店主が中味を早く出せと命じたならば、前の者の採つた方法は適當であるけれども、そうでなかつたら、後の者の採つた方法が適當であるといひ、市役所の吏員たるものは常に後者の親切があつて欲しいとつけ加へて居る。いまでもなく、前の者のやり方は、資本主義的な遣口で、大正年間はこうした仕打が常に賞讃され、所謂「成功」第1主義の世の中では公務は愚ろか會社銀行員等ビジネスマンの事務をはじめ各生活方面に至るまで、この利口な遣方が風を爲した。最少の勞力を以て最大の利益を獲得する經濟の原理は、生產者から生產費以下で仕入れて、需要者に仕入値の數倍數十倍で賣ることが商人の信條であつた。かゝる問屋の要求に應ずるが爲めに、生糸を減らして糊でこれを補つた製造家もあつた、この時代の流れに棹して、わたくしは、セメテ公務員丈けなりと、こうした遣方であつてはならぬと上記の訓話を試みたのであつた。この時代から今日まで、わが國の建築家諸君といへども、不知不識の間に、この資本主義的な影響をうけた生活方法が多分に存したことは、否むことが出來なかつたと思ふ。

小住宅や農村住宅を、如何に價値あるものを作つたからとて、その建築家は惠まれた報酬を貰ふことは出來ない。而して八百屋にしろ米屋にしろ、この傑作を作した建築家に請求するところのものは、普通人に對すると同じ値段の靑果の値であり米の價である。勢ひ建築家は、成金氏の別莊一つを作つた方が、たとへ成金趣味の、建築家の良心

は多少傷けらるゝところがあるにせよ、飯を喰ひ社交上の負擔も負はなければならぬ爲一個の人間である以上——生きんが爲めには、忍むで之を擇ばざるを得なかつた。しかるに今や、社會的情勢は日支事變を契機として急廻轉を爲した。資本主義的經濟或は金融に對して統制經濟が叫ばれ、政治も社會も自由主義なものを許されなくなつた。日本も亦「死か勝利か」の岐路に立つたのである。東亞新秩序の建設は、日本民族の爲すべき第一段階として高く揭げられた。

今回の事變がはじまつた當初に於て、よく人々の訊くことは、この事變は何時息むであろうか何年かゝるだろうかであつた。而して、事變さへ片つけば、社會情勢は元にかへり、自由主義と資本主義との金融經濟が再び榮えるであろうとの思い込が、ありありとその顏に讀めた。また事變の重大性を說く人々も、事變なるが故に之を忍ばなければならぬが事變さへ濟めば、最早忍ぶ必要が無くなる如くに聽かる言葉を不用意に漏らした。わたくしには、事變の終止とはドレを指すのであるかそれすらが已に疑問であるのであるが、蔣政權が倒れた時を以てこれであるとして、第一段階であるところの東亞の新秩序の基礎は定まろうが、これが直ちに成就するとは思はれない。日本の歷史に稽へて、今回の事變は、日本が曾て任那に日本府を置き神功皇后が三韓を征伐し給ひし時代に相當するものであつて、これより日本に加はる大陸的壓迫は愈々大となり、阿部の比羅夫將軍や毛野君將軍が鬪ふたが如くに、蔣政權の背後の勢力は愚ろか自餘の社會的勢力とも、自然的な生存競爭が直接に不斷に行はるゝ、ことと爲ると覺悟せなければ爲らぬと思ふ。若しこゝで、日本人が氣を緩めたとすれば、欽明天皇の御宇に任那と日本府を喪ひ、天智天皇の御時に白村江に破れたコースを再び辿らなければ爲らぬこととなるは必定で、日淸の戰役以來近くは日滿日支の事變に喪つた尊き英靈に對して申譯のないことと爲る。

白村江の戰の後よりこの方、支那建築はわが國土の上に華を開き、それが封建時代を通して、日本固有の建築の態樣を整へ、明治以後更らに西洋建築の模倣から日本人の手による日本建築の華を開き實を結ばんとして今次の事變にあふたことは日本建築の大成の爲めには、寧ろ多幸といふべきであろう。

前にいふ如く、建築家とても人間である。米も要れば社交費も要る。共封建制下にあつては、大名が工藝のパトロンであつた。生活に心配の必要なく、工藝家はその天分に從つてその良心的な作品を充分に造ることを得た。良いものを作るに專心することが出來た。わたくしの常としては、日本の建築家に新時代の象徵たるべき良い建築を作成せしめんが爲めには、社會機構を改めて、建築家の生活を確保する、新たなる組織を發見すべきであると思ふ。この問題は政府側にのみかゝるものでなく、建築家自身も共に攻究すべき問題であるとも思ふ。

ナチスは獨自の建築を創成して、恐らくは、戰勝の餘威を以て西歐文明の樞軸として、これを押つけるであろう。日本は、新東亞の秩序建設に、その獨自の建築を以てこれに對し、ナチス建築と日本建築とが兩々相待つて世界文明の創造に貢獻することは、痴人の白日夢ではない。

（5）

要するに、東亞の新體制に建築するものは東亞を建築するものである。

各種簡易
防空暗幕
迅速・安價・設計・施工
新案
田中式防空遮光暗幕
工場用遮光・通風・換氣兼用
田中商會
大阪市北區堂島船大工町二〇
電話北㉖7186番

會員各位に告ぐ！

木材規格に關する件

木材市場品寸法規格に關しては當委員會に於て數年前より研究に着手既に昭和10年末本會々誌を以て其の成案を發表致候處昭和14年10月農林省令を以て用材規格規程の發令有之、依て本年度より前記規格規程に準據し寸法規格の改正案を研究中に有之候處（農林省に於ても目下改正委員會を設置の上研究中の由）今般下記の通り其成案を得るに至り候に就ては此際會員各位の御協力を得て一層完璧を期し之を當路に建議仕度存候間可然御批判の上御意見御希望等至急御申出被下様切望に不堪候

昭和15年11月

材料委員會委員長　松久保敬三

木材規格寸法改正案　（單位寸法ハ分）

市場在庫品寸法（斯シク設ク）					（許可ヲ要セザル）製材規格寸法			
種別	厚分	幅	用途	長サ	厚分	幅		長サ
板	2.0 2.5 3.0 3.5 4.0 4.5 5.0 6.0 8.0	四寸以上五分建	天井板、下見板、野地板、戸板、障子腰板、板塀、蹴込板、 羽目板、野地板、天井板、腰板、板塀、戸板 同上、棚板 同上 同上 同上、床板、棚板、緣椹 同上、巾木、流板、破風板、鼻隱雨押入 同上、上ゲ板 同上	厚四分以下六尺五寸 厚五分以上十三尺 十六尺五寸	左記ニ同ジ	左記ニ同ジ		厚サ五分以上長サ十三尺以上五寸建
厚板	10.0 12.0 14.0 16.0 20.0	四寸以上五分建	床板、巾木、棚板、破風板、階段板 同上、足代板 同上 矢板 矢板	十六尺五寸 十三尺 十五尺	左記ニ同ジ	左記ニ同ジ		十五尺以上五寸建
木摺	2.0 2.5 2.5 3.0 3.0	12.0 10.0 12.0 10.0 12.0	木摺、小舞下地 同上 同上 同上 同上	六尺五寸				
樋	3.5 4.0 4.5 5.0	30.0 35.0 35.0 35.0	貫、雨押、簀子、壁下地 貫、雨押、簀子、壁下地、塀胴緣 同上 同上	十三尺	6.0 7.0 8.0	30.0 35.0 40.0 30.0 35.0 40.0 30.0 35.0 40.0		十六尺五寸

胴縁	6.0	15.0	胴縁	六尺五寸十三尺				
	6.0	20.0	同上					
	7.0	20.0	同上					
	7.0	25.0	同上、野縁、桟木					
	8.0	20.0	同上、雨押、水切、腕木笠木					
	8.0	25.0	同上、假枠桟木					
	10.0	20.0	同上					
長押	端2.0 鏑8.0	30.0	長押、（内法軒）	六尺五寸十三尺	端4.0 鏑12.0	35.0 40.0	長押、巾木	十三尺以上 五寸建
	3.0 10.0	33.0	同上		4.0 15.0	35.0 40.0	同上	
	3.0 12.0	35.0	同上		5.0 15.0	35.0 40.0	同上	
	3.0 16.0	40.0	同上、巾木					
	2.5 5.0	60.0	下見板		2.5 7.0	70.0	下見板	
	2.5 6.0	70.0	同上					
小割	6.0	6.0	小桟物、小舞、瓦桟	六尺五寸十三尺 十六尺	14.0	20.0		十三尺以上 五寸建及左記長サニ同ジ
	6.0	8.0	同上		14.0	25.0		
	10.0	10.0	竿桟、釣木、影子、見切縁		16.0	20.0		
	12.0	12.0	同上		16.0	25.0		
	12.0	14.0	同上、附鴨居		18.0	20.0		
	14.0	14.0	同上、野縁廻縁、根太		18.0	25.0		
	16.0	16.0	同上、間柱					
	18.0	18.0	同上					
割	12.0	30.0	板掛、笠木、敷鴨居	六尺五寸十三尺 十五尺	左記ニ同ジ	左記ニ同ジ		十三尺以上 五寸建
	14.0	35.0	同上、間柱、水切、根太					
	16.0	35.0	同上					
	14.0	33.0	同上					
	16.0	38.0	同上					
	18.0	40.0	同上					
正角	20.0	20.0	桂、バタ、根太、椎木	六尺五寸十五尺以上 十尺ニテ十三尺十五尺二十七尺迄五寸建	70.0	70.0		五寸角以上 二十七尺以上 五寸建及左記長サニ同ジ
	25.0	25.0			80.0	80.0		
	30.0	30.0			100.0	100.0		
	33.0	33.0			120.0	120.0		
	35.0	35.0						
	38.0	38.0						
	40.0	40.0						
	45.0	45.0						
	50.0	50.0						
	55.0	55.0						
	60.0	60.0						
平角	厚	20.0	以上八寸迄五分建	六尺五寸十尺十三尺十五尺十五尺以上二十七尺迄五寸建	厚	30.0	以上五分建 八寸迄	五寸建及長サ二十七尺以上左記長サニ同ジ
	幅	25.0	以上五分建		幅	120.0	以上 寸建 二尺迄	
盤					厚		二寸以上五分建	
					幅		六寸以上五分建	



防空建築規則その他

林　豪藏

○

獨逸がロツテルダムを空襲した時の話に據ると、和蘭第2の繁華な都會も僅か1時間半で全くの廢墟と化し、宛も大震災直後の東京の様な有様となつたといふ。當時來襲した獨機千數百臺に對し、之を邀撃し得る和蘭機はその10分の1に過ぎなかつたとは言へ、都市が本當の破壞爆撃を受ける時は、甚だ脆いものだと言ふ事を敎へてゐる。殊にその建物が、我國から見ると著しく防火的な煉瓦造であることを思併せると、更にこの感が深い。和蘭は是ですつかり參つてしまつて、是以上の抵抗の無意義なるを覺り、降伏したものであらう。

○

一體軍部又は內務省邊りでは都市の防空に就てどう考へてゐるのであらうか、徹底的に敵機を1機も近付けぬ確信を有つてゐるのか、或ひは萬一の場合には都市は灰燼になるものと諦めて居るのか、或ひは家庭防火群その他防護團に絕對なる信賴を置いて居るのか、乃至はその災厄をどの程度に迄喰止め得ると考へて居るのであらうか。

防空訓練にした所で、燈火管制は頗る有効なものと考へるけれども、防火訓練などは本當の空襲に對して如何であらうか。かういふと甚だ敬意を失した言ひ方であると思ふが、今日の防火訓練は矢張り防火訓練に過ぎず、防空訓練にはなつてゐない、少くも相當距離がある様に思はれる。一般市民のこの熱心なる關心をもつと他に有効に指導する途はないものであらうか。

空襲警報中、通行人を家の軒下に待避せしむるのは演習訓練なれば止むを得ないとしても、眞實の空襲を受けた場合には兩手で耳を塞ぎ目を押へて地に伏すのが最も手取早く難を避ける方法なのだが、此のことを知つてゐる者が幾人あらうか。

各地の防護團や家庭防火群は中々美事な演習をやり、我々さへしつかりすれば空襲恐るに足らずと言ふ誠に敬愛すべき自信を持つて居るものも少くない。殊に熱心な人達程さうの様である。この訓練素より意義なしとせず、就中精神的効果は見るべきものありとは思ふが——。

そして又徒らにその自信を奪ひ、之を恐怖に陷れるのは策の得たるものでもないとは思ふが、もつと燒夷彈に非ざる爆撃の如何なるものであるか位は知らされてもよいのであるまいか。私は市民の防空に對する熱意が大部歪曲されてゐる様に思ふ。

○

防火改修家屋の實驗が各都市で近頃頻りと行はれる、名は實驗であつてもその實宣傳であり、大衆敎育が目的なのは言ふ迄もない。然し是迄にさうした實驗に總理大臣が見學したといふ話しもしなければ、參謀次長或ひは企畫院總裁が立會つたといふことを聞いた事もない、大衆敎育もさることながら、眞にその實現を期し、宣傳に努むるとならば、かゝる要路の人達にも是非とも泌々是を痛感せしむる要がある。成る程新聞にも出るし、ニユース映畫にも現はれるけれど、その實現を一般市民にのみ期待するのは、金もなし資材も不足な今日に在つては無理なのではあるまいか。

遮莫、防火建築規則も現行の儘では一寸妙な事が起きて居る様に思ふ。規則は既往に溯らぬが爲めに、所謂舊市內といふ様な所では木造の家屋が簡比した儘であり、新市郊外の家屋密度少き場所に是が强要せられて居る。大阪と違つて東京の近郊に殊にその感が深い。即ち空襲を受ける危險率も多く、一旦空襲を受けた場合の損害、（空襲感度）も高く且都市の重要部たる部分が、何等顧られず、却つて危險率の少い部分が嚴重に造られるといふ事は一見して主客顚倒の様に思はれる。勿論郊外も何年かの後には市街化するであらう。然し焦眉の急を救ふといふ建前を採るならば、郊外地の防火化は不必要な贅澤であるとさへ思はれる。同じ金網がありセメントがあるならばもつと有効に使ひ度い、即ちこの場合重點主義を採用すべきであると思ふのである。

○

靜岡市が受けた火災に據る損害、8千萬圓に復舊費4千萬圓を加へた1億2千萬圓あれば、六大都市の防火改修が大體出來上る勘定だとの事であるが、この事柄だけを以つてし

ても防火改築奬勵の意味が充分にある。須く先づ保險料を拂ふ樣な意味合で其の實現に邁進すべきであらう。然し乍ら其れは飽迄防火改修であつて防空改修ではない。「防空は木造家屋の改修から」といふのは眞にその通りであるが、然しそれだけでは充分ではない。今日我々の考へてゐる空襲には殆ど燒夷彈ばかりを目標にしてゐる樣であり、成程今日の都市には燒夷彈が最も怖しいとしても敵は燒夷彈ばかりを落すと決つたものでなし、寧ろ爆彈の方を餘計に使ふのではないかとさへ思はれる。然も防火改修家屋と雖もこの爆彈に對しては無抵抗なる事、普通家屋と五十歩百歩であるからである。

建築家達はもう一歩勇氣を振ひ起して出來るだけ完全な防空都市の出現に最善の努力を致すべきであらう。都市が防空的に弱體であるといふ事は、一旦火急の場合に非常に危險であるばかりではない。市民の生命財産や、工場その他の經濟活動資財が危險に曝されるといふ事ばかりではない。例へば第三國と外交交涉する樣な場合に當つても、そこに非常な引け目を感じハンデキヤツプを背負はされるのである。押せる所も押せなくなる。讓らなくていゝ所も讓る樣な羽目になる。私の最後に特に强調し度いのはこの點である。

(15.9.7)

建築倉庫業

佐藤信仁

建築の設備技術者として何時も、どうにかならないものかと考へられる事に次のような事がある。私ばかりでなく多くの御同業もそう感じて居られるのであらうと推察するのであるが——。

例へば電燈の器具——近頃は大抵の建物で電燈の器具を特別に設計して、その建物との調和を圖る習慣のようである——にしても、設計に基く必要箇數を數へてその數だけの注文が發せられ、メーカーはその數だけの器具を製作するのが普通である。これが施工中に何かのために破損したり、或ひは設計變更で增燈するようなことになると、直ちに追注文が發せられる。處が追注文の出る頃はもう竣功期限が近づいて、製作が間にあはない。すつたもんだのあげく、竣功式の當日ようやく取付けを終つたり、一時假の器具で間にあはしておく等はよくあることである。それなら、あらかじめ必要數より何箇かを餘分に作つておけばよいのであるが、そういふ特殊の器具は外に（餘つた場合に）使ひ道がないし、それも優秀な意匠のものなら、他日然るべき建築に利用するといふ手もあるけれど、拙劣な意匠の、他に振り向けようもないような器具を餘分に作つて、餘つた場合、そのストツクに惱むのは嫌な事であるからたとへ追注文を受けて困る事があつても、それはその時の事として、決して餘分なものは作らうとはしない。

又、外裝用のタイル等でも、假りに正確にひろい出して何萬枚入用と見積つたとして、一體何割の餘裕をみて注文すべきか。寸法色彩の正確さに對する要求の程度にもよる事ながら、破損も見ねばならず、不良作業に因る再施工の損失も見ねばならず、又、メーカーが注文を受けてからでも、工場の腕や窯の調子、重油や石炭の品質をも考慮に入れて、ここでも再び何割かの餘裕を含めて製作せねばならない。然しこゝまでは經驗からその割合を算出する事が出來ないとは云へない。ところが、現場では、この外に設計變更といふやつが突發して、そのためのタイルの追注文といふ事になると、問題は簡單であるとは云へなくなる。器具の場合と同じく納期は僅かしかないし窯の割當がつかなかつたり、土が變つたり、顏料が調はなかつたり、メーカーは四苦八苦しなければならない。

かゝる惱みを解消するためには、現場主任は思ひ切つて、充分な、といつても數量的には何のよりどころもない多くの材料を注文してかゝらねばならない。電燈の器具が40箇いるものなら50箇位、タイルが20萬枚いるものなら30萬枚位といつた具合に注文する。そうしておけば、まづあらゆる當然の損失と思ひがけない設計變更による增要に對し、充分にカバーする事が出來る。然し、こんな馬鹿々々しい、浮世離れのした注文の仕方が世界中のどこにあるものか。現場主任は、竣功後、材料置場に、1枚の瓦、1本の鐵筋も殘さずあらゆる材料に過不足なき注文、注文額と需要額との完全な一致、を以つて工事の合理化と考へ、そのために腦漿を絞つてゐるのであるから、こんな無闇な注文などは以つての外である。

甚だわかりきつた事を述べて來たが、實際は設計變更どころか、色々の事情に原因する材料の思ひがけない過不足のために、材料置場には、色々の材料が殘つたり、或ひは建物に仕上殘りが出來たりすることは極めて普通の事である。

しかもこの極めて普通の事柄が、建築工事施工の合理化にとつて致命的な癌になつてゐる事を思へば、何とかしなければならないであらう。

そこで餘る方は構はないとして、足らない事のない樣に、材料は充分に注文してもらふ。そして竣功後の

殘材を、それを購入したと殆んど同じ單價を以つて買ひとる。そんなうまい話があるものかと思はれるであらうが、買ひとる方では多方面から色々の殘材を蒐集する結果、整理してこれを巧みに利用し——例へば60萬圓の工事の殘材タイルを以つて、8000圓の住宅の外裝腰貼を完成し、或ひは、ビルデイグの廊下燈を住宅の玄關燈に利用するといつた風に——買ひとつた單價より更によい單價の販路を見つける工夫をすればこの商賣は成り立つのである。

こゝに云ふ『**建築倉庫業**』とは、こういふ事業をする商賣なのである。

建築倉庫業者はかくて、現場の殘材の購入と轉賣をなし、その利鞘を稼ぐ外に

建築材料の保管、即ち材料倉庫として請負業者の手持ち材料や製作會社のストックの保管を引きうける。

建築材料は大體に於いて、製作會社の工場から現場へ直送されるのが普通であり、それが最も運送費もかからず、品傷みも少いのであるからこの倉庫業が出現しても、總べての材料をこの倉庫を通過させる必要はないのであつて、各工事毎に發せられる注文材料の到着に先きだつて、相當工事を進捗せしめるためにこの倉庫の保管材料を利用するのである。又事業の中止や工事の見合はせ等による材料の一時的置場として有意義に利用せられるであらう。

又、**材料の保管委託者が材料を金にかへる必要を生じたる場合には、この倉庫業者は、現場殘材の購入と同樣の扱ひを以つてこの材料を購入する。**

次に、**この倉庫業者は、この倉庫に工作場を設備して、請負業者の注文を受けて工作業務を營み、竣功せる建築物の修繕保守の仕事も引きうける。**

私が、こゝに提唱するところの、建築倉庫業の大綱はざつと上述の如きものである。業界の先輩各位が忌憚なき批判を賜はらば幸ひである。

(16.8.22)

小池の訃を聽いて

小泉嘉四郎

9月6日、N兄からアパートへ電話がかゝつて來た。

「小池が……(よく聽きとれなかつた)から直ぐにDビルまで來て吳れ」

好きな芝居でも、一緒に觀に行かないかと誘つて吳れたのだらう位の輕い氣持で着流しのまゝプラツと出かけたのだが、N兄から、餘りにも意外な小池の訃を始めて聞かされて「え！本當か」と思はず突き出た。

小池の逝去はそれ程急だつた。4日前には確かに共に文樂人形の寫眞展を觀に行つて、人形使ひの履く下駄の特殊性や、人形の足について論じたり、また圍七九郎兵衛の殺し場が凄慘だとか、黃八丈の娘姿がどうのとまで話し合つたのが……。

現實に小池の棺の前に坐つた時どうしたものか混沌とした感情しか沸いて來なかつた。が小池を失つた寂しさはこれから後になつて、しみじみ身に泌みて來ることであらう。小池君と僕の交際は五年に渉るが、その間、隨分無理な依賴をしたこともあつたが彼は、いつもやさしく僕の我儘を通して吳れた。今、彼が亡くなつてしまつては、僕は友情の借りつ放なしの樣な氣がしてたまらない。

小池君の死に遭ひて

奈良幸次郎

さいきん、これは私だけの經驗か知らないが、おびただしく「厭やな奴の登塲」と「好きな奴の退塲」といふことがくりかへされる。悲しいことに小池君の死もその一つになつてしまつた。世間では「ミイラとりがミイラになる」といふことがよく云はれるが、彼は始めからミイラになるつもりで勇敢に、人生探求といふ彼の道に這入つて行つた。そして好い意味にせよ、惡るい意味にせよ、私は彼ほどデレツタントとしてその生活を終始し、それに殉死した人間を知らない。殊に晩年における彼の人生に對する眞向からの闘爭は、もはや普通に意味してゐるデイレツタントといふ言葉とは比較にならぬほど悲壯なものであつた。

では彼が日夜勉强し、研究してゐたのはどんな事だつたか。それは專門の建築學は云ふまでもなく、哲學、論理學、經濟學、社會科學、自然科學、美學、文學、演劇映畫、繪畫等凡そ文化と名のつくあらゆる部門に渉つてゐた。私はこれらの言葉を單に羅列したのではない。

彼のアパルトマンの六疊の部屋三方に積みあげられた夥しい數千册の本を見た人ならば以上の言葉が誇張でないことがわかつてもらへると思ふ。

私達友人がこれらの知性の集積がいつか花咲き實る日のあるのをどんなに期待してゐたことか。彼のサイゴの無念さも恐らくそれを果さずして中途にて倒れたことであらう。これからも「好きな奴の退塲」と「厭やな奴の登塲」が數限りなくくりかへされることだらう。私もまた虚しき生活に戻つて行こうと思ふ。

會報

本協會員中軍務公用者氏名

前號發表後に於ける本協會員中軍務公用者下記の通りであります（受付順）

普通賛助員　仁木謙治君

常務會（第20回）

時　10月7日午後5時—7時
所　陳列塲別室
出席者　理事　片岡會長
今林副會長
常務　北垣主記　中西主記
三浦主記　藪中主記
岩尾主計久保田主計
棚橋編輯　政岡編輯
議事
1. 重要都市に於ける建築物防火方策急施に關する建議の件
2. 都市問題會議出席者變更の件
3. 委員會、幹事會等の報告原稿料支拂の件
4. 厚生大會研究報告出席の件
5. 元常務、會員浦英之助氏逝去に付香花料贈呈の件
6. 建築用物資配給協議會出席の件
7. 會員詮衡

報告
1. 倶樂部室大會開催の件
2. 出征、應徴、除隊報告

常務會（第21回）

時　10月21日午後5時30分——7時30分
所　陳列塲別室
出席者　理事　片岡會長
今林副會長　坂副會長
常務　中西主記　三浦主記
藪中主記　桐本主計
久保田主計政岡編輯
議事
1. 昭和16年度豫算編成大綱方針の件
2. 日本建築文化展覽會開催の件
3. 會誌表紙變更の件
4. 雇採用の件
5. 會員詮衡

報告
1. 9月分會計報告
2. 全國都市問題會議理事任期滿了報告
3. 出征、除隊報告

都市計畫委員會（第13回）

時　10月8日午後6時—8時
所　倶樂部室
出席者　委員長　井上
幹事　内藤　錦田
委員　川勝　稗田　松森
森口　吉田
1. 第7回全國都市問題會議總會報告
2. 幹事1名改選の件

法制委員會（第8回）

時　10月10日午後6時—8時15分
所　陳列塲別室
出席者　委員長　池田
幹事　玉置
委員　竹中　平野　森口
横見　中野　淺野
1. 建築關係法規抄纂發行に關する報告
1. 建築用物資配給に關する講演會の件
1. 本年度委員會報告の件

材料委員會（第16回）

時　10月10日午後6時50分—9時
所　倶樂部室
出席者　委員長　松久保
幹事　楠瀬
委員　薗部　後川　道田
1. 木材寸法規格案に付最後の檢討を加へ一部分修正す

災害强度委員會（第8回）

時　10月9日午後6時10分—8時
所　倶樂部室
出席者　委員長　渡部
委員　薗部　長尾　景山
中野　後出
1. 釘の强度に關する長尾委員提出の文獻につき研究

陳列場幹事會（第11回）

時　10月14日午後6時——9時30分
所　陳列塲別室
出席者　常任幹事　小林
幹事　北垣　野中
松久保　矢田
1. 二日會秋季會合に關する件
2. 新事業計畫に關する件

都市武裝促進幹事會（第10回）

時　10月11日午後6時——8時20分
所　陳列塲別室

出席者　幹事長　池田
常件幹事　宮田　吉田
幹　事　淺野　瀧　竹内　塚本

1. 本年度本幹事會事業報告の件
2. 明年度幹事會に引繼事項の件
3. 婦女子避難所防空壕の實例をパンフレットに作成の件

會勢幹事會（第9回）

時　10月14日午後6時—9時
所　倶樂部室
出席者　幹事長　松本
幹　事　大下　川人　北垣　坂口

1. 本年度最後の會員募集に關する件
2. 11月見學に關する件

建材配給に關する講演會

時　10月15日午後6時10分—9時
所　倶樂部室
出席者　今林彦太郎氏外約150名

1. 午後6時10分今林副會長開會を告げ本夕は今般大阪府より告示せられたる大阪府建築用物資配給統制協議會規程に基き協議會の内容其他につき當局の説明を聽取することは會員各位の稗益する處大なるものありと思考し本講演會を開催したる旨の挨拶あり直に玉置講師を紹介す
1. 講師大阪府建築課地方技師玉置豐次郎氏は下記題名の下に懇切なる説明を2時間に及び講演あり聽衆會員一同靜聽す
建築用物資配給統制に就て
1. 午後8時より質疑應答に入り各會員より種々質問あり之に對し玉置講師は一々應答あり會員の稗益實に不尠
1. 午後9時今林副會長より玉置講師に對し謝辭を述べ一同拍手を以て之に和し盛會裡に閉會解散す
1. 會場狹隘のため聽講出來ざりし會員各位に多謝す

倶樂部室秋季大會

時　10月20日午前11時——午後7時30分
所　千年家阪田氏邸見學並有馬兵衛旅館懇親會
出席者　吾妻義一氏外36名

1. 當日は早朝より生憎雨天となりしも熱心なる會員各位は集合所たる神有電車神戸驛に三々五々集合殆んど豫定の人員に達す
1. 午前11時50分發の電車にて一同出發同線谷上驛に下車3丁餘にして千年家阪田眞治氏邸に到着一同小憩の上辨當の配付を受け中食を喫す
1. 午後1時三浦幹事一場の挨拶を述べ同家の研究者たる神戸高工教授野地修左氏を紹介す
1. 野地教授は同家建築の年代、樣式其他に亘り研究の結果より參考となる有益の講演あり夫れより一同熱心に同家の各方面を見學す
1. 見學終了後二班に分れ懇親會場たる有馬兵衛旅館に向ひ午時3時全員會場に到着午後5時まで自由行動（此間圍碁、將棋、溫泉入浴、散策等各自思ひ々に時間を過す）
1. 午後5時半一同着席三浦幹事幹事長に代りて挨拶を述べ次で高坂幹事より本大會開催に當り大林組より多大の援助ありたる旨を報告し出席者一同を代表して大林組殿に對し感謝の意を表し直ちに開宴
1. 午後7時半各自十二分の歡を盡し盛會裡に閉宴無事散會す
1. 當日は降雨のため出席者各位に對し何かと御不便を與へ且萬端不行屆の點多かりしことを多謝して擱筆す

會員動靜

入會

會員

井上友太郎君　旭區赤川町1.123（建築事務所自營）
市川正三郎君　南區瓦屋町2の61 共立電氣商會內（共立電氣商會）
加藤　義男君　旭區赤川町1.788（鍵仲組　電天王寺2.927）
岸本　精君　兵庫縣武庫郡瓦木村下新田字甲子園口180の2（株式會社山田工務店）
田邊　正雄君　西區江戸堀南通4の11大和鐵工所內 田邊工務店內（田邊工務店）
增田邦二郎君　兵庫縣武庫郡鳴尾村燒屋敷5眞鳴園（ヤマト產業株式會社不動產部工務課）
石田　定文君　神戸市葺合區脇濱町1の53 大林組神鋼山手詰所內（株式會社大林組）
菊田鹿治郎君　府下北河內郡枚方町字阪（自營）
桑原　勇君　兵庫縣武庫郡大庄村西大島北の口322（東洋コンプレツト株式會社）
藤井　菊二君　兵庫縣武庫郡瓦木村甲子園口字豐年225（長谷部竹腰建築事務所）
吉本　濤渡君　普通贊助員より轉格

特別贊助員

菊池五男利君　豐中市櫻塚本通4の24（增成土木建築株式會社大阪支店）
仲野梅太郎君　渡速區東神田町873（瓦商自營）
村谷　定君　普通贊助員より轉格
山本　昇一君　京都市上京區下長者町新町西入88（大阪鐵道局工務部　建築課）
小林　久男君　港區北境川町3の95（大阪マブラス工案所）

豐岡　順三君　神戸市灘區船寺南通1の33（日本モリノイト建材製造所）

山本　友松君　西區阿波座下通1の16（合資會社谷口商店）

退　會

會　員

廣澤　紀行君

地方會員

本田　富雄君

普通賛助員

濱田幸次郎君　大林　武君

轉居・轉勤

會　員

扇　源助君　旭區新森小路北一丁目

高橋　誠義君　四日市市濱田南起2.996 東邦重工業社宅1.021號内

幸木　眞夫君　住吉區萬代西五ノ8

並木　長吉君　府下泉南郡多奈川村谷川港

坂本　啓一君　尼崎市杭瀬堤外3

田中　辰夫君　住吉區萬代東4の1株式會社木村組（電南6005）

伊藤　幸一君　條式會社清水組大阪支店

西原　直一君　府下三島郡茨木町殿町（大阪市役所建築部第一建築課）

龜井幸次郎君　千葉縣市川市八幡2.056 同潤會建設部

村野　藤吾君　兵庫縣川邊郡小濱村米谷藏座西24（電寶塚554）

上田　司郎君　堺市三國ヶ丘町350

石井　茂君　旭區合福町134

井上　實君　大阪遞信局購買課工事係

富士岡重一君　東區京橋二丁目分廳舍大阪市役所建築部

村島　彰君　吹田市原町2.339（同　）

井上　一雄君　西區江戸堀上通1の6（電土佐堀7.210）

馬野　七登君　株式會社竹中製作所（電櫻川1.314）

北川　正彌君　栃木縣日光町下本町鈴木長三郎方

久保　正一君　旭區南島町884

住野　一義君　東淀川區三國本町57（電三國329）

井川　良雄君　名古屋市港區熱田前新田字辰巳410 住友金屬工業名古屋工場建築部内

谷口　治郎君　滿洲國公主嶺樋口部隊藤野隊

地方會員

栗栖　信一君　岸和田市南上町1449

井出　松藏君　新義州府榮町5の4の5 大林組新義州出張所内

石田　惠一君　京城府旭町1の78 神吉瞭太郎方

青木　嚴君　新京特別市豐樂路715 筒井ビル15號

國村　千男君　佐世保市佐世保海軍建築部第二課氣附

川村種三郎君　東京市四谷區傳馬町新1の18 朱雀莊内

前田　善增君　住吉區平野西ノ町45

平尾　恒一君　兵庫縣川邊郡立花村塚口和樂園63

濱野幸次郎君　吳市東片山町31の1

荒木　正利君　哈爾濱市哈爾濱鐵道建設事務所建築係内

岡部　嚴君　布施市菱屋西4の63

小原　力君　兵庫縣武庫郡本三村森350

佐竹　義雄君　神戸市神戸區元町通2の256の3

横瀨　慶二君　京都市右京區嵯峨天龍寺中島町2

特別賛助員

河津喜之助君　府下豐能郡中豐嶋服部433

久野銀太郎君　西宮市外上甲子園辨天252

淺尾覺太郎君　住吉區昭和町東4の27（電平野286）

高坂信次郎君　日刊土木建築新聞社（電土佐堀4.032）

岡本　全男君　兵庫縣武庫郡本山村森字今北251

栗岡　豐夫君　長崎市中川町螢茶屋52（倉庫業兼務長崎ニユース劇場）

田村　嘉啓君　高知市桟橋通1の123

普通賛助員

大鳴千太郎君　佐世保局經由厦門根據地本部

高平　德次君　佐世保市萬津町29 阪庄組出張所

立田　秀夫君　東京市麹町區霞ヶ關3の3　同潤會建設部第二技術課

田中　數雄君　札幌市外月寒陸軍官舍第三區21號

野崎　謙三君　東京市本鄉區駒込曙町11

四天王寺五重塔特輯號（建築と社會 7月號）をお買ひ下さい！

内容
- 昭和15年5月落成の四天王寺五重塔に就いて……天沼俊一
- 讃仰……村田治郎
- 言葉より見たる『塔婆』……瀧澤眞弓
- 再建成る四天王寺五重塔……藤原義一
- 四天王寺再建五重塔に就いて……吉村孝義

申込先　本協會・振替番號・39975番　定價　80錢・送料3錢

建築材料陳列場出品者

棚番號	材料種別	出品者	棚番號	材料種別	出品者
1	プリズム、鑄造、彫刻各種硝子	岩城硝子株式會社	34	コンクリート型枠離脫劑	內外建材合資會社
2～3	ギルソイドルーフキング	田島應用化工株式會社	35	ドアーハンガー	平松釣戸車製造所
4	エターナイト	木下謹三商店	36	OSC建築金物	大信洋行大阪支店
5	鋼製建具建築材料	三機工業株式會社	37	大理石及人造石	矢橋大理石商店
6	建築用衞生陶器、磁器タイル	名古屋製陶株式會社	38		
7～8	六甲スレート日本石綿盤六甲タイル	野澤幸三郎商店	39	建築用陶器及工藝品	泰山製陶所
9 (1)	防空塗料ペトナー	ペトナー化學工業所	40	米原式武者窓、換氣天窓、防空換氣屋根	米原商店
(2)	不二式竹レール、硝子戸滑器及床板	大阪伊丹商店			
10	ロールプラツグ、ストップリーク	ユニオントレーヂングコンパニー	41～42	ラス類一式	奥村重兵衞商店
11	チツソライト板	日本窒素肥料株式會社	43	耐火塗料	東洋理化學工業所
12～13	色彩、彫刻硝子	大阪精工社	44～45	建築用金屬材料ホワイトブロンズ水道鋼管	住友金屬工業株式會社
14	フアイバーコンヂット及フアイバーダクト他附屬品	株式會社影久商店	46	板硝子	日本板硝子株式會社
15	衞生器具	大阪城口研究所	47	ケンテキス	淺野物產株式會社建材部
16	電燈照明器具	林電器製作所	48	竹製、木製レール、合成建築金物各種	
17	衞生器具	西原衞生工業所	49		
18	耐火木材、耐火塗料	愛國化學工業株式會社	50～51	日昭ライト板、日昭化粧板	日昭ライト工業株式會社
19～20	衞生陶器及附屬品	東洋陶器株式會社大阪出張所	52		
21	旭賓土	江商株式會社	53	石綿スレート	淺野スレート株式會社
22	內裝用壁掛タイル	淡陶株式會社大阪支店			
23	モザイツク・タイル	草葉陶磁器研究所	54～55	オリエンタルメタル瓦板	オリエンタルメタル製造所
24	ブーバー竹筋	堀富商工株式會社	56	ベニヤ板見本ドアーセクション	內外木材工藝株式會社
25	日輿スレート テツクス	ミヤマ商會	57	專賣特許特殊ゴム敷物	ライトラバー工業合資會社
26～27	テラカツター衞生陶器	大阪陶業株式會社	58	富士テツクス、ライトテツクス、スレート、コーナービード	福島合名會社
28	タイル、テラカツター、煉瓦、合成砥石各種	大阪窯業株式會社	59	防火塗料プロテツクスペルコ	大日本塗料株式會社
29			60	屋根瓦各種	高松菊治郎商店
30	テラカツタータイル	伊奈製陶株式會社	61	耐酸防水材料	田中昌司商店
31			62		
32	硝子製品、旭ラツカー	旭硝子株式會社	63		
33	ドアーチエツク、フロアーヒンヂ、スプリングヒンヂ	日本ドアーチエツク製作所	64	纖維製絕緣板、エムテツクス	日東物產株式會社

棚番號	材料種別	出品者
65	パールワツクス リノリユームワツクス	金田化學研究所
66		
67	防水劑ロータス	關城化學工業株式會社 大阪營業所
68	硝子製品	株式會社島田硝子製造所
69		
70		
71	朝日鐵スレート、波形スレート	朝日スレート株式會社
72	防空用旭暗幕	旭レール株式會社
73		
74	エタニツトパイプ	野田合名會社
75	陶製階段用欄間、同床下換氣窓	鍋要枝町工場
76	左官壁材料一式	南育宏本店
77	スカイライト、エービーメタル	内外土木建築材料合資會社
78	放熱器、放熱管、冷暖房換氣設備用品	理化學興業株式會社
79		
80		
81		
82		
83		
84～85	ルーフイング スーパライト	佐久間工業株式會社
86	ニツチクラス及硬化竹筋	日本竹筋工業所
87		
88～89	町野式水道消防器具 福山式自働洗滌裝置	日本機械工業株式會社 大阪支店
90	厚型スレート	厚型スレート株式會社
91		

棚番號	材料種別	出品者
92～93		
94～95		
96		
97		
98	瀬戸燒瓦一式	瀬戸燒瓦關西出張所
99	日之出印アスファルト加工品	日本建築紙工大阪支店
100	洋室家具裝飾	中原家具裝飾店
101		
102	建築用金屬板各種	日本金屬工業株式會社
103		
104		
105	波型石綿スレート、石綿スレート、光り波型ガラス	日本スレート株式會社
106	强性ライト	日本特殊鑛土株式會社
107	洋瓦各種	日本洋瓦株式會社
108	建築參考塗料見本	關西ペイント株式會社
A	リノリユーム、リノタイル、リノウオール	東洋リノリユーム株式會社
B_1	防火浸塗劑セロン	伊藤元商店
B_2	美　素	美素工業所
B_3	電線管及附屬品	合資會社福島商店
B_4	リーダ液アートガン	リーダ建材工業株式會社
C_1	造園設計圖	須藤造園研究所
C_2～C_3	ラスモザイク	日本陶纖社
C_4	建築塗壁材料、特殊塗料顔料	清光社
D_1	やよひスレート	松井商店
D_2	コンヂツトチユーヴ	昭和コンヂツト株式會社
D_3	寄木床張	二葉屋
南窓下		



編輯後記

○會長がイタリーから歸られて會員が倶樂部の部屋に集つて伺つた話は、出席された方々以外にはつたへにくいが、實に感銘の深いものであつた。日本の國際的な立場の強い半面と弱い半面を如實に教へられ技術者として聞くもの發奮せざるなきお話の内容であつた。

○これを會誌にそのまゝ採錄したいのであるが、時世はこれをそのまゝに許してくれると思へないのである。我々は今は當に言葉に表さず肝に銘すべき事柄が多々あるのである。會長から更に深刻な諸般の御意見を伺ひたいと云ふ意向は我々前から懐抱して居るのであるが、もつとも會員諸氏に相ふれる様な形式をとりたい事情と、これをとりたくない事情との相克に惱んで居るのである。これは會報編輯者としての立場であるが。

○新體制の言葉に響に應ずる如く建築界の新體制と云ふ問題が方々で論議せられて居る様である。こないだ何かのジヤーナルに新體制とは改名運動かと云ふてタイガースが阪神軍になつたり職工と云ふのを工士と云はうとか云ふ様な事柄を皮肉な調子でかいてあつた。名前をかへることは樂なことでしかも大した利もなく、内容をかへて行くことは本質的なことで一ばん困難なことである。

○雜誌、協會の雜誌はこれでいいのか。いつも自問自答いや自問不自答して居る。所詮は次々に會員の中から新しい層の人々に編輯にたづさはつて貰ふ事だ。つまらない筆者はいつもえらい名前を引ばり出す。ニイチエの提んだ眞理は只「萬物は流轉す」

（棚橋記）

建築と社會

第23輯　第11號

毎月1回1日發行　定價㊍ 1册 50錢（郵稅3錢）　12册 6圓（〃 36錢）

昭和15年10月25日印刷　昭和15年11月1日發行

發行・編輯兼印刷人　戸川弘
大阪市北區朝日ビル日本建築協會内

印刷所　ブラトン印刷社
大阪市西區江戸堀南通2丁目13番地

發行所　社團法人　日本建築協會
大阪市北區中之島3ノ3　朝日ビル
電話長北濱(23)4501番(9)
振替口座大阪39975番

特約販賣店　柳々堂書店
大阪市西區京町堀羽子板橋西
電話土佐堀2440番
振替口座大阪2084番

禁轉載

本號に揭載せるものは、一切これを無斷にて轉載し又は單行本に上梓その他の複製行爲をなすことを禁ず。

廣告揭載料金

グラビヤ（第1頁）	1頁	1回	55,00
グラビヤ（第2頁）	1頁	1回	45,00
普通（後附第1頁）	1頁	1回	20,00
普通（後附第2頁）	1頁	1回	25,00
記事中	¼頁	1回	20,00
アート（中揷）	½頁	1回	20,00
表紙2	1頁	1回	60,00
表紙3	1頁	1回	45,00
表紙4	1頁	1回	80,00

廣告揭載御申込は本會へ直接願ひます。
本誌購讀御注文はすべて前金で本會直接又は特約店へ、振替貯金又は爲替で御拂込を願ひます。郵券代用は一割增、代金引換はお斷り致します。

●第二三集 第一一号 掲載広告一覧（掲載順）

村田商会
大野製作所
南満建材工業所
中野石材店
平松釣戸車製造所
寧楽屋家具装飾店
日本陶織
浅野スレート